

安全・健康・コミュニティに関する調査

報 告 書

令和2年1月

厚 木 市

— 目 次 —

I 調査の概要

1 調査目的	3
2 調査対象と調査方法.....	3
3 配布・回収結果.....	3
4 調査項目	3
5 集計方法について	4
6 回答者（世帯）の基本属性.....	4
7 回答者（個人）の基本属性.....	5

II 調査結果の概要

1 調査概要	9
2 アンケート調査結果の概要.....	9

III 調査結果の分析

1 自宅外での事故やけがの状況	
（1）過去1年間の自宅外でのけがの状況	17
（2）過去1年間に自宅外でけがをした原因	18
（3）過去1年間に自宅外でけがをした場所	20
2 自宅での事故やけがの状況	
（1）過去1年間の自宅でのけがの状況.....	21
（2）過去1年間に自宅で一番大きなけがをした原因と場所	22
3 子ども（15歳未満）の事故やけがの状況	
（1）自宅外でのけがの状況	25
（2）自宅でのけがの状況.....	26

4 体感不安（犯罪被害等含む）に関する実態	
（1）地域の治安の変化に対する意識	27
（2）犯罪等被害や不安を感じる事項と程度	29
（3）犯罪等被害にあう不安を感じる状況と程度	31
（4）犯罪被害に巻き込まれないために行っている対策の状況	33
（5）犯罪防止のために重要と考える対策	34
5 自転車の利用に関する意識と事故やけがの状況	
（1）自転車の利用状況	35
（2）自転車の利用目的	36
（3）自転車の利用・交通ルールの認知状況	37
（4）自転車利用時に感じる不安や危険	39
（5）自転車利用時のけがや事故の経験	41
（6）自転車利用時のけがや事故がおきた状況と原因	42
（7）自転車利用時にけがをした体の箇所と医療機関での治療状況	44
（8）自転車利用の不安や危険を減少させるためにしていること	45
（9）自転車利用の不安や危険を改善するために必要なこと	46
6 災害についての意識	
（1）不安を感じる災害	47
（2）災害対策の重要度	48
（3）災害に対する自己対策	50
（4）非常用備蓄品の状況	51
7 「セーフコミュニティ」の認知状況	
（1）厚木市の取組の認知状況	52
（2）今後の「セーフコミュニティ」の取組に関する意識	53
8 市民生活の安心・安全に関する意識	
（1）居住地域の安心・安全に関する意識	54
（2）近所付き合いと安心・安全に関する意識	59

IV 調査票

世帯票	65
個人票	67

I 調査の概要

1 調査目的

本アンケート調査は、市民の安全・健康・コミュニティに対する考えやその現状を調査するとともに、集計、分析を行い、今後のセーフコミュニティ活動等の資料とすることを目的とする。

2 調査対象と調査方法

令和元年7月18日現在、厚木市に住民登録している世帯主7,000人を無作為抽出（地域・年齢バランスを考慮）し、世帯主及び同居家族（世帯票1通＋個人票3通同封）を対象とする。（配布・回収ともに郵送）

3 配布・回収結果

配布対象 (調査実施期間)	種類	配布数	有効回収数 (有効回答率)
厚木市内の世帯 (令和元年8月1日～26日)	世帯票	7,000世帯	2,483世帯 (35.5%)
	個人票	21,000人	4,718票

4 調査項目

【世帯票】(世帯主あるいは、それに代わる方が世帯を代表して記入)

- (1) 世帯属性（居住地区、居住年数、家族人数・構成、住居の種類）
- (2) 「セーフコミュニティ」について（認知度、協働推進の必要性）
- (3) 厚木市の生活（安心・安全度、近所付き合いの現状と今後）
- (4) 子どもの外傷実態（子どもの年齢、自宅外・自宅における外傷経験、外傷状況、付き添いの有無、医療機関への受診有無）

【個人票】(15歳以上の世帯構成員全員が回答。世帯主も記入)

- (1) 自宅外における過去1年以内の外傷実態（外傷経験、医療機関への受診状況、外傷の原因、外傷の場所）
- (2) 自宅における過去1年以内の外傷実態（外傷経験、医療機関への受診状況、一番大きな外傷の原因、一番大きな外傷の場所）
- (3) 体感不安（1年前と比べた体感治安、事例別の犯罪被害への不安、不安に感じる地域の状況、犯罪被害対策の実施状況、犯罪抑止対策の重要度）
- (4) 自転車利用（自転車の利用状況・目的、交通ルールの認知状況、自転車利用時の不安や危険、過去5年以内のけがや事故の経験・状況、不安や危険を減少させるための取組・改善策）
- (5) 災害（災害不安、災害対策の重要度、自己対策、非常用備蓄品の状況）
- (6) 基本属性（性別、年齢）

5 集計方法について

- (1) 集計結果を表すグラフには、回答者数（n）も併せて表記する。
- (2) 無回答や不明な回答は除く。このため、項目により回答者数（n）は異なる。
- (3) 複数回答の場合の回答者数（n）は、設問に回答した人数を表記する。
- (4) 集計表およびグラフ中の構成比は、四捨五入の関係で合計が100%とならないことがある。

6 回答者（世帯）の基本属性

(1) 居住地区

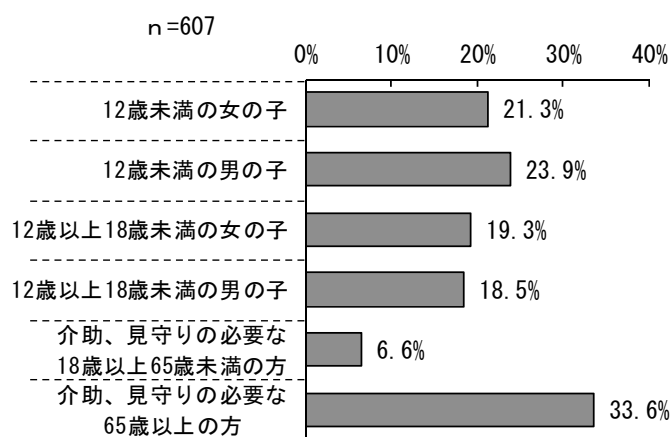
回答項目	n	構成比 (%)
厚木北	261	11.1
厚木南	215	9.2
依知北	162	6.9
依知南	94	4.0
睦合北	101	4.3
睦合南	179	7.6
睦合西	92	3.9
荻野	285	12.2
小鮎	147	6.3
南毛利	380	16.2
南毛利南	99	4.2
玉川	37	1.6
森の里	103	4.4
相川	109	4.7
緑ヶ丘	78	3.3
全体	2,342	100.0

(2) 居住年数

回答項目	n	構成比 (%)
1年未満	77	3.2
1年以上5年未満	287	12.0
5年以上10年未満	263	11.0
10年以上15年未満	227	9.5
15年以上20年未満	243	10.2
20年以上	1,294	54.1
全体	2,391	100.0

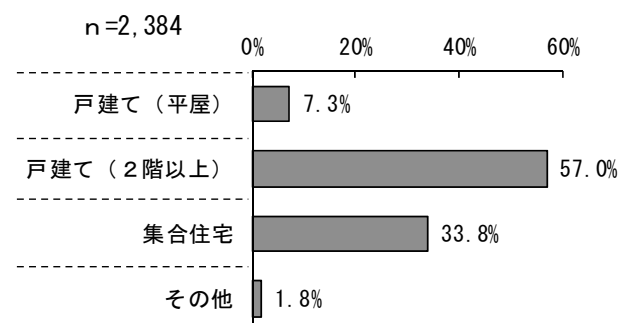
(3) 家族構成

回答項目	n	構成比 (%)
1人	503	20.9
2人	949	39.5
3人	489	20.4
4人	295	12.3
5人	113	4.7
6人	30	1.2
7人	17	0.7
8人	4	0.2
9人	2	0.1
全体	2,402	100.0



(4) 住居の種類

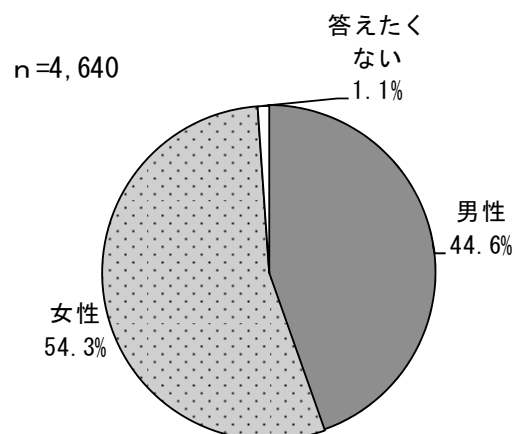
回答項目	n	構成比 (%)
戸建て（平屋）	174	7.3
戸建て（2階以上）	1,360	57.0
集合住宅	806	33.8
その他	44	1.8
全体	2,384	100.0



7 回答者（個人）の基本属性

(1) 性別

回答項目	n	構成比 (%)
男性	2,069	44.6
女性	2,519	54.3
答えたくない	52	1.1
全体	4,640	100.0

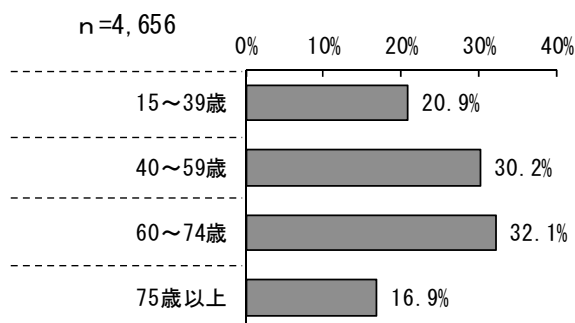


(2) 性別（居住地区別）

回答項目	男性 (%)		女性 (%)		答えたくない (%)	
	n	構成比	n	構成比	n	構成比
厚木北	208	43.7	261	54.8	7	1.5
厚木南	172	46.1	199	53.4	2	0.5
依知北	138	44.8	169	54.9	1	0.3
依知南	77	41.8	103	56.0	4	2.2
睦合北	78	38.8	122	60.7	1	0.5
睦合南	158	46.2	182	53.2	2	0.6
睦合西	80	45.7	94	53.7	1	0.6
荻野	240	44.4	292	54.0	9	1.7
小鮎	128	43.8	159	54.5	5	1.7
南毛利	341	46.9	377	51.9	9	1.2
南毛利南	89	44.9	106	53.5	3	1.5
玉川	33	43.4	42	55.3	1	1.3
森の里	86	44.3	107	55.2	1	0.5
相川	96	44.0	121	55.5	1	0.5
緑ヶ丘	54	42.2	72	56.3	2	1.6
全体	1,978	44.6	2,406	54.3	49	1.1

(3) 年齢

回答項目	n	構成比 (%)
15～39歳	971	20.9
40～59歳	1,404	30.2
60～74歳	1,496	32.1
75歳以上	785	16.9
全体	4,656	100.0



II 調査結果の概要

1 調査概要

厚木市における「セーフコミュニティ」の取組を進めていくため、①全市的な外傷動向及びハイリスクグループの特定や外傷発生メカニズムの解明、②体感治安を構成する要素、③「セーフコミュニティ」認証取得や市の取組の認知状況、継続推進の必要性、④自転車の利用に関する意識と事故やけがの状況、⑤災害についての意識の把握を目的としたアンケート調査を実施した。

2 アンケート調査結果の概要

(1) 「セーフコミュニティ」の認知状況

- 「セーフコミュニティ」の認知状況は、「セーフコミュニティの考え方や活動を知っている」が13.4%、「セーフコミュニティという言葉は聞いたことがある」が46.6%となっており、認知度は全体の6割を占めている。また、認知度は平成20年度調査以降、調査ごとに増加傾向にあり、平成29年度調査から微増している。
- 今後の「セーフコミュニティ」の取組の推進について、「必要がある」が56.2%、「どちらかという必要がある」が27.4%となっており、二つを合わせた『必要がある』は83.6%と8割を超えて高い割合となっているものの、平成29年度調査より1.9ポイント減少している。

(2) 市民生活の安心・安全に関する意識

- 市全体では、居住地域が安心・安全かについて、「そう思う」が21.2%、「どちらかというと思う」が44.7%となっており、二つを合わせた『そう思う』は65.9%となっている。また、『そう思う』割合は、平成29年度調査より3.0ポイント減少しているが、『そう思わない』割合は変化がなく、「どちらともいえない」が3.0ポイント増加している。
- 現在の近所付き合いの状況別でみると、居住地域が安心・安全かについて、『そう思う』割合は、現在の近所付き合いの親密さが深いほど高くなる傾向にあり、“互いに相談しあうような、生活面での協力関係ができる程度”で73.7%と7割を超えて高い。
- 現在の近所付き合いの状況は、「互いに相談しあうような、生活面での協力関係ができる程度」が15.2%、「互いに相談しあうことはないが、世間話や立ち話をする程度」が43.0%と、ある程度近所付き合いのある人の割合が58.2%となっているが、ある程度近所付き合いのある人の割合は、平成20年度調査以降で最も低い。
- 今後の近所付き合いの意向は、「互いに相談しあうような、生活面での協力関係ができる程度」が26.7%、「互いに相談しあうことはないが、世間話や立ち話をする程度」が47.4%となっており、今後より近所付き合いを深めたいと希望する割合が高くなっている。

(3) 自宅外での事故やけがの状況

- 過去1年間に自宅外でけがをした人の割合は15.1%となっており、このうち医療機関を利用した人は8.2%と半数を超えている。年齢階層別では、15～39歳で20.5%と最も高く、若年層が高くなっている。
- 過去1年間に自宅外でけがをした原因は、「転倒」が46.4%と最も高く、次いで「切傷・刺傷」が22.1%、「交通事故」が10.9%となっている。平成26年度調査以降、上位3位は順位も含めて同様の項目となっているが、いずれの割合も過年度調査より減少している。

(4) 自宅での事故やけがの状況

- 過去1年間に自宅でけがをした人は12.4%となっており、このうち医療機関を利用した人は4.5%と3分の1を超えている。年齢階層別では、75歳以上の後期高齢者で15.6%と最も高く、次いで40～59歳で13.0%、15～39歳で12.7%となっている。
- 過去1年間に自宅で一番大きなけがをした原因は、「切傷・刺傷」が38.5%と最も高く、次いで「転倒」が24.8%、「火傷」が12.2%となっている。平成20年度調査以降、いずれの年度も原因の順位は同様の項目となっている。「切傷・刺傷」や「転倒」は平成29年度調査より減少しているものの、「火傷」は12.2%といずれの年度よりも高くなっている。
- 過去1年間に自宅で一番大きなけがをした場所は、「台所」が34.7%と最も高いものの、平成20年度調査以降で最も低い割合となっている。

(5) 子ども（15歳未満）の事故やけがの状況

- 15歳未満の子どもがいる世帯の42.0%が自宅外で何らかのけがをしており、けがの状況は、「道路や歩道を走っていて転倒」が16.3%と最も高く、次いで「学校でのけが・事故（クラブ活動中なども含む）」が13.1%、「保育園・幼稚園でのけが・事故」が9.0%となっている。また、けがをした際に医療機関に行った人は、「階段や高所からの転落」、「交通事故（単独、自転車・自動車の乗車中）」、「学校でのけが・事故（クラブ活動中なども）」で高くなっている。
- 15歳未満の子どもがいる世帯の32.0%が、自宅で何らかのけがをしており、けがの状況は、「家具や物に体をぶつけるなどの衝突」が18.2%と最も高く、次いで「ベッドや椅子などから転落」と「ドアや窓、家具などで挟まれたけが」がともに10.4%となっている。また、けがをした際に医療機関に行った人は、「ベランダや窓の手すりを乗り越え高所から転落」、「たばこやおもちゃなどの異物誤飲」、「火気や熱湯、暖房器具などの接触によるやけど」、「動物や虫などによるけが」で高くなっている。

(6) 体感不安(犯罪被害等含む)に関する実態

- 1年前と比べた地域の治安は、市全体では、「良くなった」が3.1%、「変わらない」が72.6%、「悪くなった」が12.5%となっている。また、「悪くなった」は平成29年度調査より2.0ポイント増加している。居住地区別でみると、「良くなった」は緑ヶ丘地区で7.4%と最も高く、次いで玉川地区で6.9%となっている。反対に「悪くなった」は睦合西地区で17.8%、睦合北地区で17.6%、依知南地区で17.4%と17%台で高くなっている。
- 犯罪等被害や不安を感じる事項で、「非常に不安」または「かなり不安」と答えた人の割合は、「地震や風水害にあう不安」が44.3%と最も高く、次いで「飲酒運転による交通事故、ひき逃げなどの悪質・危険な交通法令違反の被害にあう不安」が30.3%、「自宅にどろぼう(空き巣など)に入られる不安」が28.2%となっている。また、「振り込め詐欺や悪質商法などの詐欺犯罪にあう不安」が21.6%と2割を超えて、いずれの年度よりも高くなっている。
- 犯罪等被害にあう不安を感じる状況で、「非常に不安」または「かなり不安」と答えた人の割合は、「人通りの少ない道」が34.1%と最も高く、次いで「夜、街灯が暗いところがある」が32.8%、「木や茂みなど管理が行き届いていない場所がある」が27.8%となっている。また、女性で「非常に不安」または「かなり不安」と答えた割合では、「人通りの少ない道」が40.0%、「夜、街灯が暗いところがある」が37.2%と高くなっている。
- 犯罪被害に巻き込まれないためにとっている対策は、「外出時に玄関や窓に鍵をかける」が95.0%と最も高く、次いで「夕方等に部屋の明かりをつけたり、テレビの音を出すなど、家に人がいると思わせるようにする」が45.0%、「夜間に門灯・玄関灯をつける」が43.2%となっている。また、「外出時に玄関や窓に鍵をかける」と「夕方等に部屋の明かりをつけたり、テレビの音を出すなど、家に人がいると思わせるようにする」は、平成23年度調査より増加傾向にあり、反対に「自転車の防犯登録」と「留守にするときには隣近所に声をかける」は減少傾向にある。
- 犯罪被害に巻き込まれないためにとっている対策について、「重要である」と「どちらかといえば重要である」を合わせた『重要である』では、「個人の防犯対策」が97.2%と最も高く、次いで「警察の防犯活動の充実」が96.5%、「市民と行政との協働による犯罪抑止への取組み」が93.2%となっている。

(7) 自転車の利用に関する意識と事故やけがの状況

- 自転車の利用状況は、「利用している」が35.8%、「利用していない」が64.2%となっている。「利用していない」は平成26年度調査より増加傾向にあり、平成29年度調査より2.2ポイント増加している。
- 自転車の利用目的は、「買い物・飲食」が45.9%と最も高く、次いで「通勤・通学」が30.3%、「余暇活動」が15.8%となっている。
- 自転車利用時に感じる不安や危険は、「車道と歩道の段差や砂利道などで走行しにくいこと」が54.8%、「歩道と車道の区分がなく、歩行者や自動車と接触しそうになること」が53.0%と5割を超えて高くなっている。また、平成29年度調査と比べ、「道幅いっぱい広がって歩く歩行者」が3.4ポイント、「乗車中の携帯電話の使用など交通マナーやモラルの低下」が2.1ポイント増加している。

- 過去5年間の自転車利用時のけがや事故の経験は、「ある」が17.1%、「ない」が82.9%となっている。
- 自転車利用時の最も大きなけがや事故がおきた時間帯は、「昼間（通勤・通学時間以外）」が33.2%と最も高く、次いで「朝の通勤・通学時間帯」が24.5%、「夕方の帰宅時間帯」が22.5%となっている。
- 自転車利用時の最も大きなけがや事故がおきた状況は、「自分だけ転倒した」が59.7%と約6割で最も高く、次いで「自動車やバイクと接触・衝突した」が20.2%、「自転車同士で接触・衝突した」が12.6%となっている。また、平成29年度調査より「自転車同士で接触・衝突した」が3.7ポイント増加している一方で、「自分だけ転倒した」は6.4ポイント減少している。
- 自転車利用時の最も大きなけがや事故がおきた原因は、「道路に段差があった」が31.9%と最も高く、次いで「出会いがしらでの衝突」が16.7%、「道路が狭かった」が16.3%となっている。平成29年度調査より「出会いがしらでの衝突」が4.0ポイント、「スピードを出し過ぎていた」が3.7ポイントそれぞれ増加している。
- 過去5年間の自転車利用時の最も大きなけがをした体の箇所は、「脚部」が53.6%と最も高く、次いで「腕部」が34.3%、「腰部」が10.9%となっている。また、平成29年度調査より「脚部」が7.8ポイント増加しているが、一方で「けがをしていない」は6.2ポイント減少している。
- 自転車利用時の最も大きなけがや事故がおきた際の医療機関での治療状況は、「通院により手当を受けた」が34.9%、「入院して手当を受けた」が2.8%で、医療機関を利用した人は37.7%となっている。一方「医療機関には行ってない」は62.3%となっている。
- 自転車利用の不安や危険を減少させるためにしていることは、「自転車を離れるときは鍵をかける」が89.1%と約9割で最も高く、次いで「交通ルール、マナーを守る」が87.2%、「自転車の防犯登録」が70.6%となっている。また、「損害賠償保険（任意）に加入している」は平成26年度調査以降増加傾向にあり、平成29年度調査より4.2ポイント増加している。
- 自転車利用の不安や危険を改善するために必要なことは、「事故やけがが多く発生している場所や危険箇所を把握し、その原因を明らかにして、具体的な対策を講じる」が63.4%と最も高く、次いで「交通ルール、マナー・モラルの向上の周知・啓発、運転技術を高める講習・研修を実施する」が59.7%となっている。また、平成29年度調査より「違反者への罰則を強化する」が2.2ポイント増加している。

(8) 災害についての意識

- 不安を感じる災害で、「非常に不安」と「かなり不安」を合わせた割合では、「地震による被害」が 78.3%と最も高く、次いで「風水害（台風・豪雨・竜巻）」が 56.0%、「火災」が 51.5%となっている。
- 災害対策について、「重要である」と「どちらかといえば重要である」を合わせた割合では、「非常持ち出し袋や水・食料などの備蓄品の用意」と「行政(市、消防、警察など)による応急活動」がともに 96.2%、「災害弱者や要援護者の支援体制」が 96.1%、「避難所や避難経路等の整備」が 96.0%と高くなっている。また、全ての項目で8割を超えている。
- 災害に対する自己対策は、「非常持ち出し袋や水・食料などの備蓄品の用意」が 65.8%と最も高く、次いで「火災警報器の設置」が 60.6%、「家族との連絡方法の確認」が 53.8%となっている。また、平成 29 年度調査より「家族との連絡方法の確認」が 3.4 ポイント増加しており、「避難経路・避難場所の確認」は、平成 26 年度調査以降増加傾向にある。
- 災非常用備蓄品の状況は、「3日分の備蓄をしている」が 31.2%と最も高く、非常用備蓄品を準備している割合は 74.7%となっている。一方で、「特になにもしていない」は平成 26 年度調査以降増加傾向にある。

Ⅲ 調査結果の分析

1 自宅外での事故やけがの状況

(1) 過去1年間の自宅外でのけがの状況

◎過去1年間に自宅外でけがをした人は15.1%、このうち半数以上が医療機関を利用した

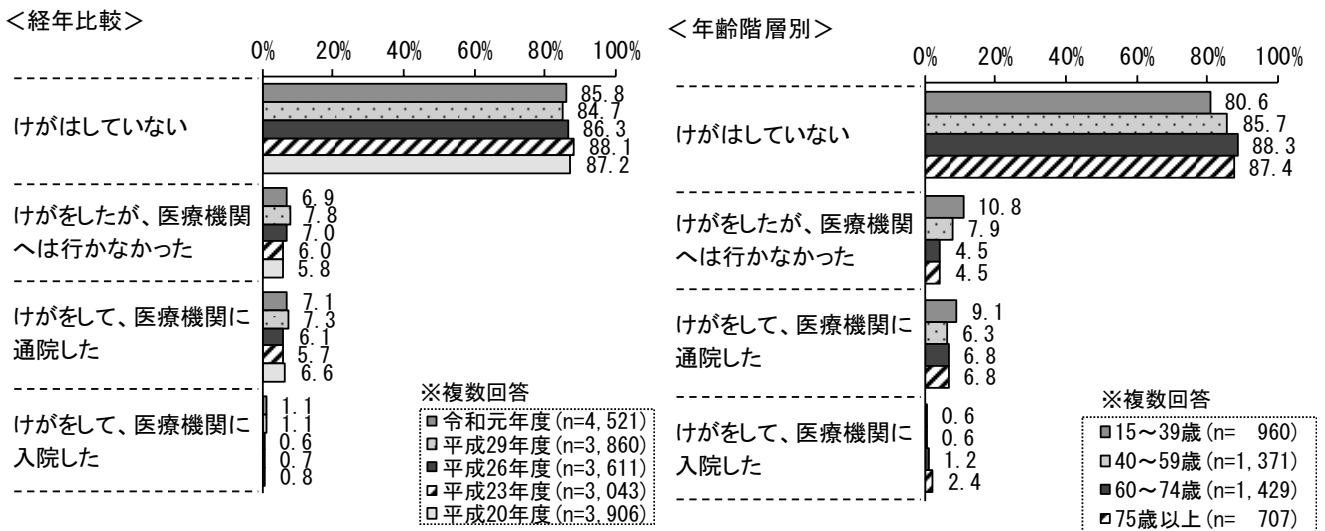
過去1年間に自宅外でけがをした人は15.1%となっており、このうち医療機関を利用した人は半数を超える8.2%となっている。

過年度調査と比較すると、過去1年間に自宅外でけがをした人は、平成20年度から平成26年度よりも増加しているものの、前回調査の平成29年度より1.1ポイント減少している。

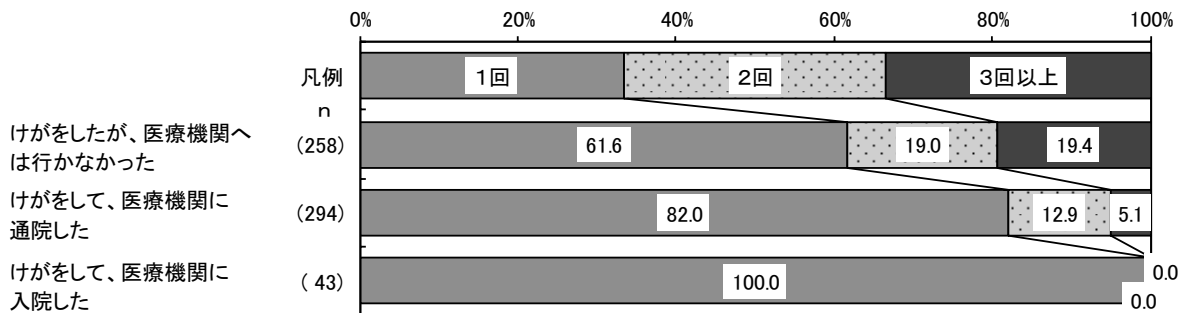
◎過去1年間に自宅外でけがをした人は、15～39歳が20.5%と最も高い

年齢階層別にみると、過去1年間に自宅外でけがをした人は、15～39歳で20.5%と最も高く、若年層が高くなっている。

図表1-1 過去1年間の自宅外でのけがの状況（経年比較、年齢階層別）



図表1-2 自宅外でけがをした際の医療機関の利用状況



(2) 過去1年間に自宅外でけがをした原因

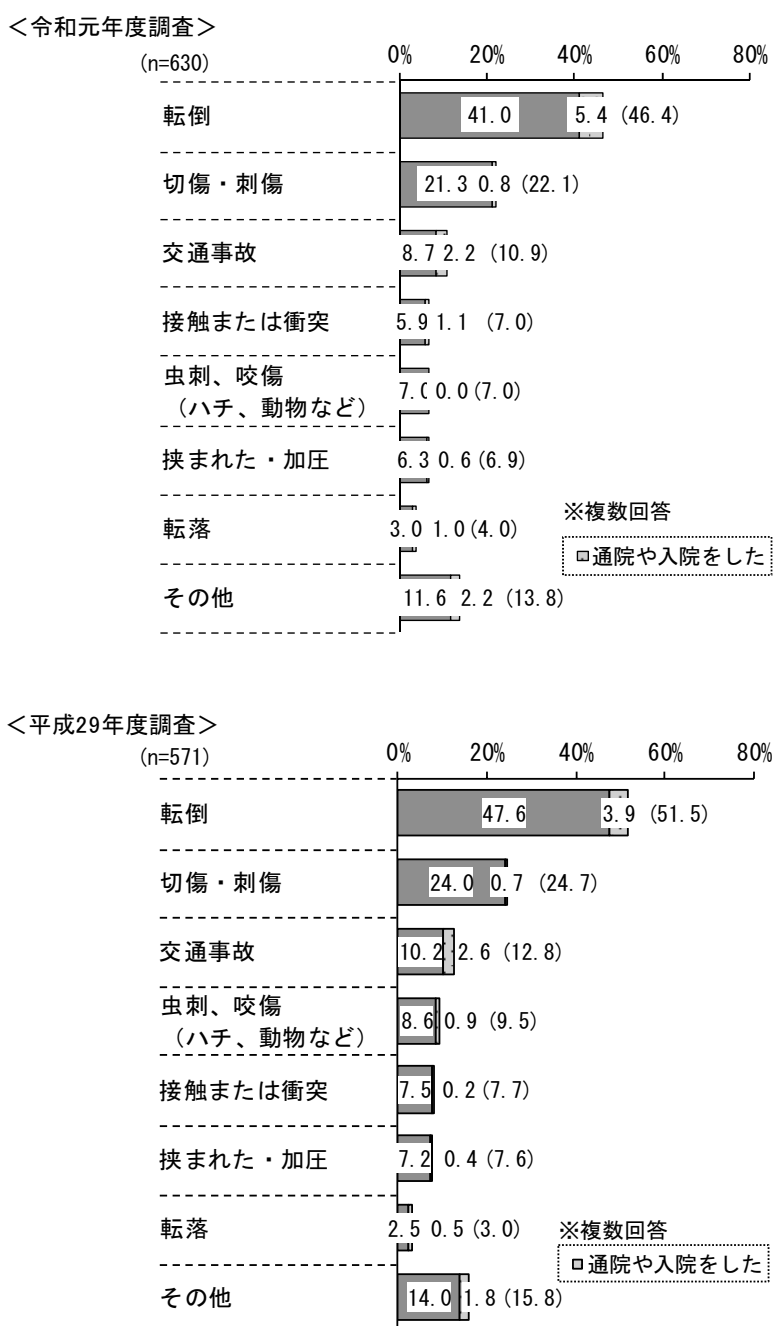
◎過去1年間に自宅外でけがをした原因は、「転倒」が46.4%と最も高い

過去1年間に自宅外でけがをした原因は、「転倒」が46.4%と最も高く、次いで「切傷・刺傷」が22.1%、「交通事故」が10.9%となっている。

過年度調査と比較すると、上位3位は同じ項目が占めている。また、上位三項目はいずれも過年度調査より減少傾向にあり、特に「転倒」は5.1ポイント減少している。

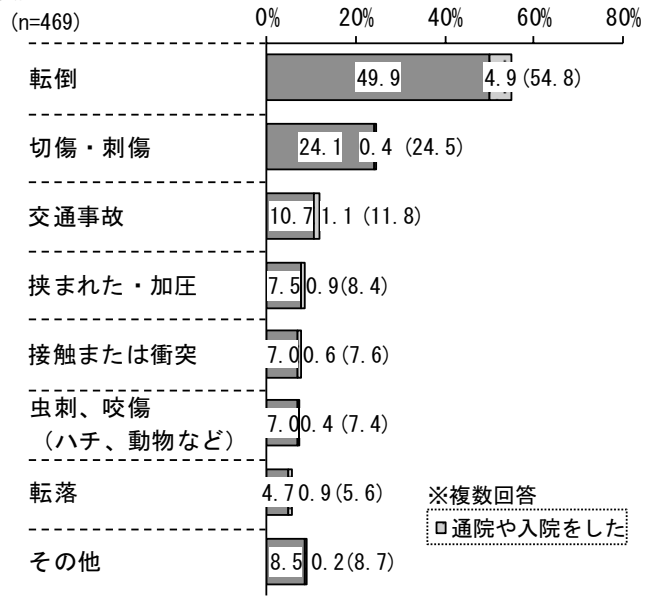
上位3位を年齢階層別でみると、「転倒」は年齢階層が上がるにつれて高くなる傾向にあり、反対に「切傷・刺傷」は年齢階層が下がるにつれて高くなる傾向にある。

図表1-3 過去1年間に自宅外でけがをした原因（経年比較）

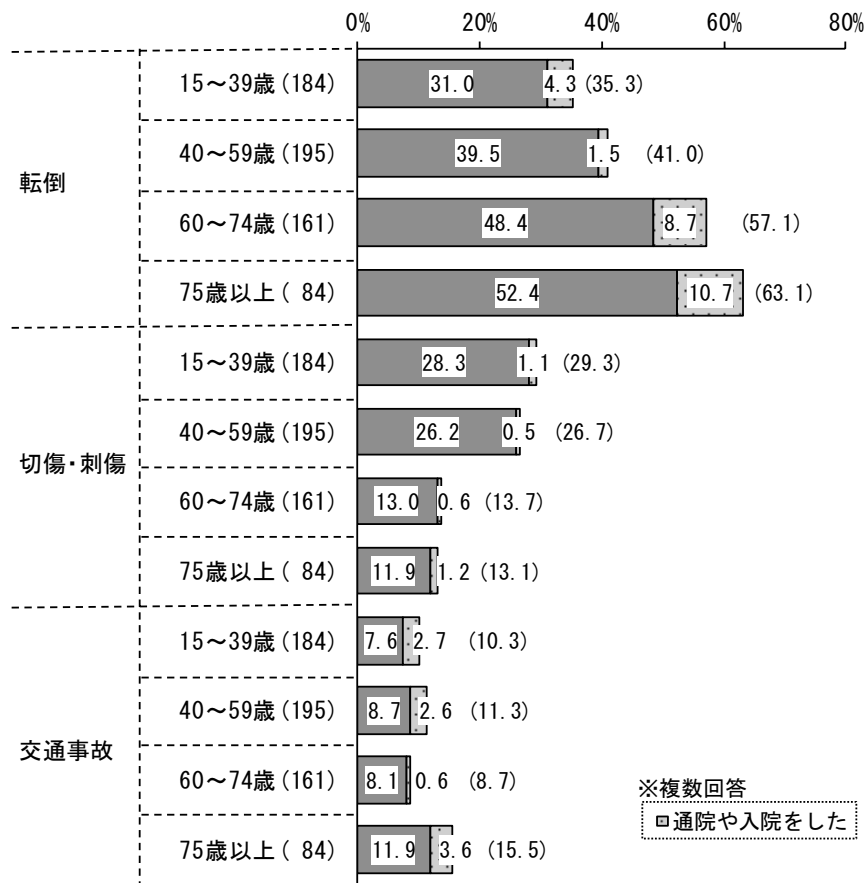


<平成26年度調査>

(n=469)



図表 1 - 4 過去 1 年間に自宅外でけがをした原因 (年齢階層別)



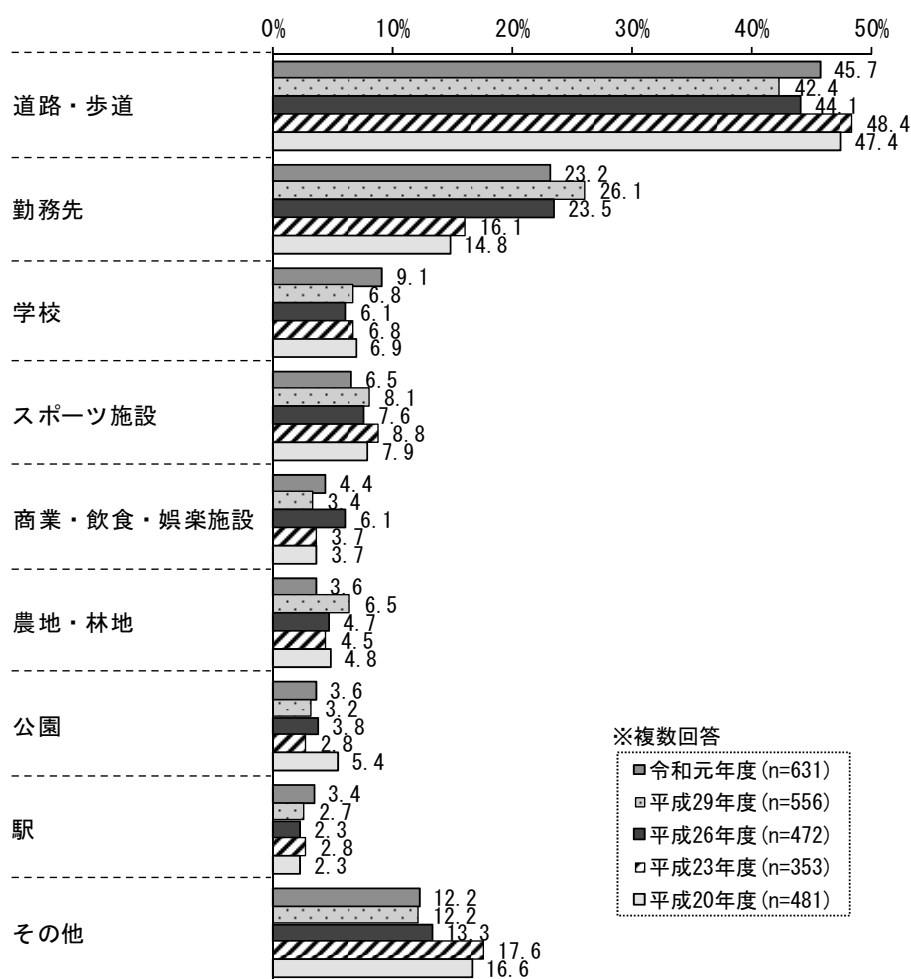
(3) 過去1年間に自宅外でけがをした場所

◎過去1年間に自宅外でけがをした場所は、「道路・歩道」が45.7%と最も高い

過去1年間に自宅外でけがをした場所は、「道路・歩道」が45.7%と4割半ばで最も高く、次いで「勤務先」が23.2%、「学校」が9.1%となっている。

過年度調査と比較すると、上位2位はいずれの年度でも他の項目より高く、「道路・歩道」はいずれの年度も4割台で高く、「勤務先」は平成26年度調査より2割台となっている。

図表1-5 過去1年間に自宅外でけがをした場所（経年比較）



※複数回答

- 令和元年度 (n=631)
- 平成29年度 (n=556)
- 平成26年度 (n=472)
- 平成23年度 (n=353)
- 平成20年度 (n=481)

2 自宅での事故やけがの状況

(1) 過去1年間の自宅でのけがの状況

◎過去1年間に自宅でけがをした人は12.4%、このうち4.5%が医療機関を利用した

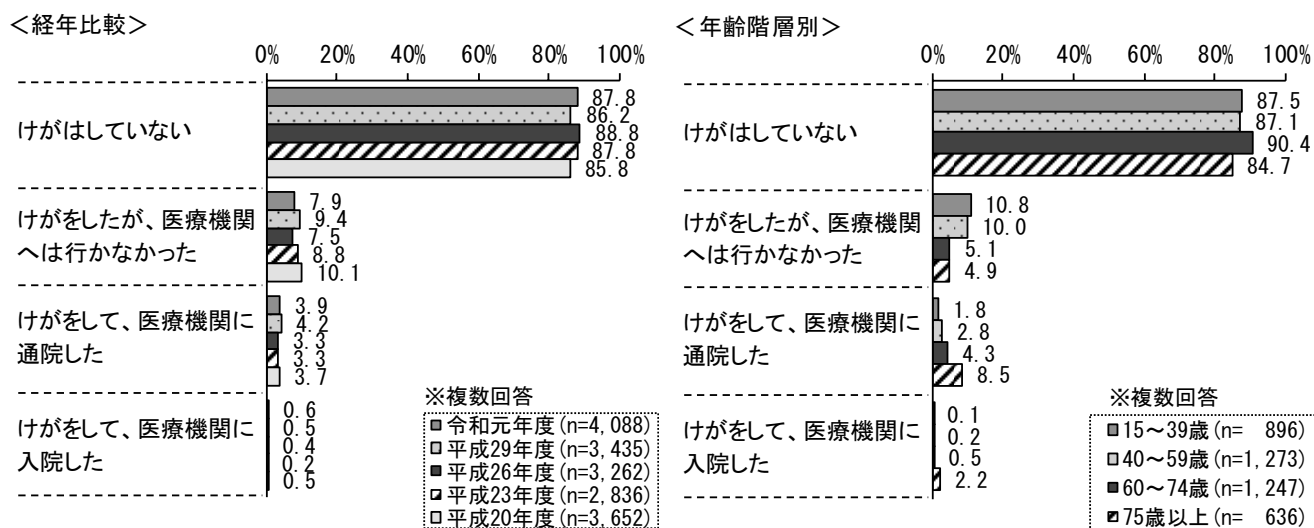
過去1年間に自宅でけがをした人は12.4%となっており、このうち医療機関を利用した人は4.5%と3分の1を超えている。

過年度調査と比較すると、過去1年間に自宅でけがをした人は、前回調査の平成29年度より1.7ポイント減少しており、平成23年度調査とほぼ同じ割合となっている。

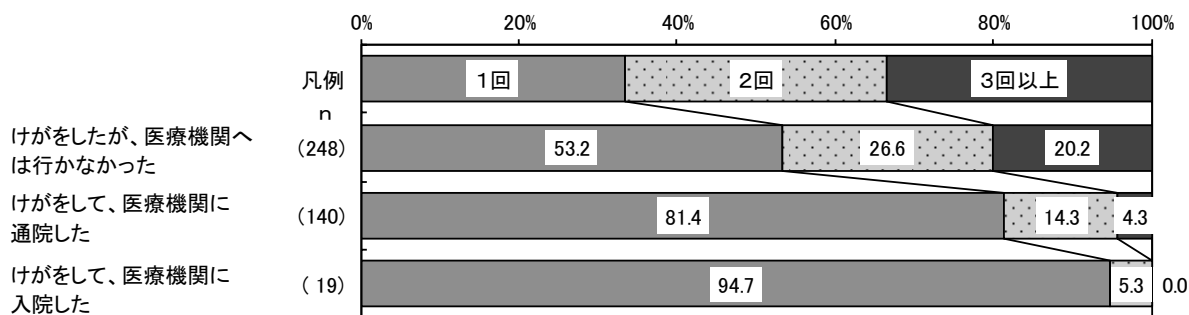
◎過去1年間に自宅でけがをした人は、75歳以上の後期高齢者で15.6%と最も高い

年齢階層別にみると、過去1年間に自宅でけがをした人は、75歳以上の後期高齢者で15.6%と最も高く、次いで40～59歳で13.0%、15～39歳で12.7%となっている。

図表2-1 過去1年間の自宅でのけがの状況（経年比較、年齢階層別）



図表2-2 自宅でけがをした際の医療機関の利用状況



(2) 過去1年間に自宅で一番大きなけがをした原因と場所

◎過去1年間に自宅でけがをした原因は、「切傷・刺傷」が38.5%と最も高い

過去1年間に自宅で一番大きなけがをした原因は、「切傷・刺傷」が38.5%と最も高く、次いで「転倒」が24.8%、「火傷」が12.2%となっている。

過年度調査と比較すると、平成20年度調査以降、いずれの年度も原因の順位は同様の項目となっている。「切傷・刺傷」や「転倒」は平成29年度調査より減少しているが、「火傷」は12.2%と1割を超え、いずれの年度よりも高くなっている。

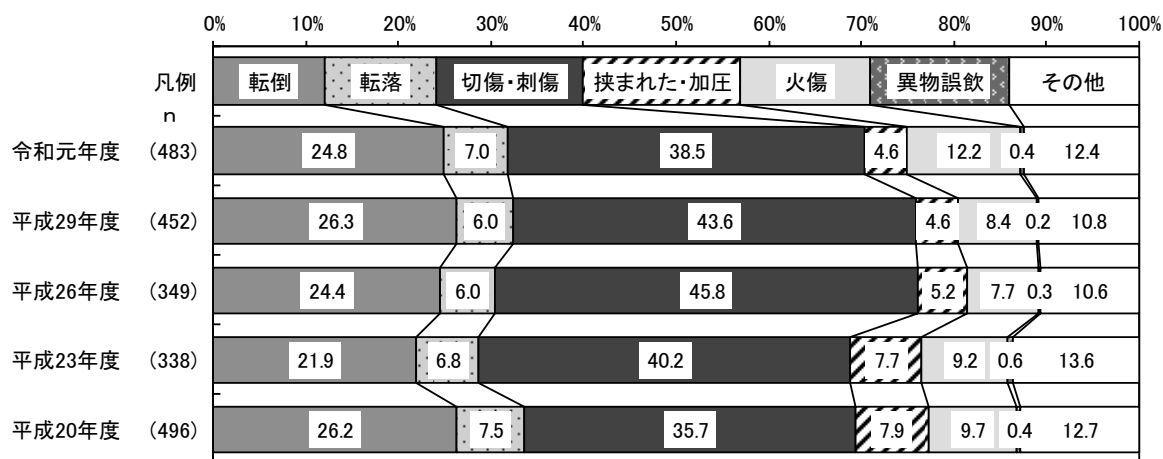
上位3位を年齢階層別で見ると、「転倒」は年齢階層が上がるにつれて高くなる傾向にあり、特に75歳以上で64.0%と突出して高い。反対に「切傷・刺傷」は年齢階層が下がるにつれて高くなる傾向にあり、15～59歳で7割を超えている。

◎過去1年間に自宅でけがをした場所は、「台所」が34.7%と最も高い

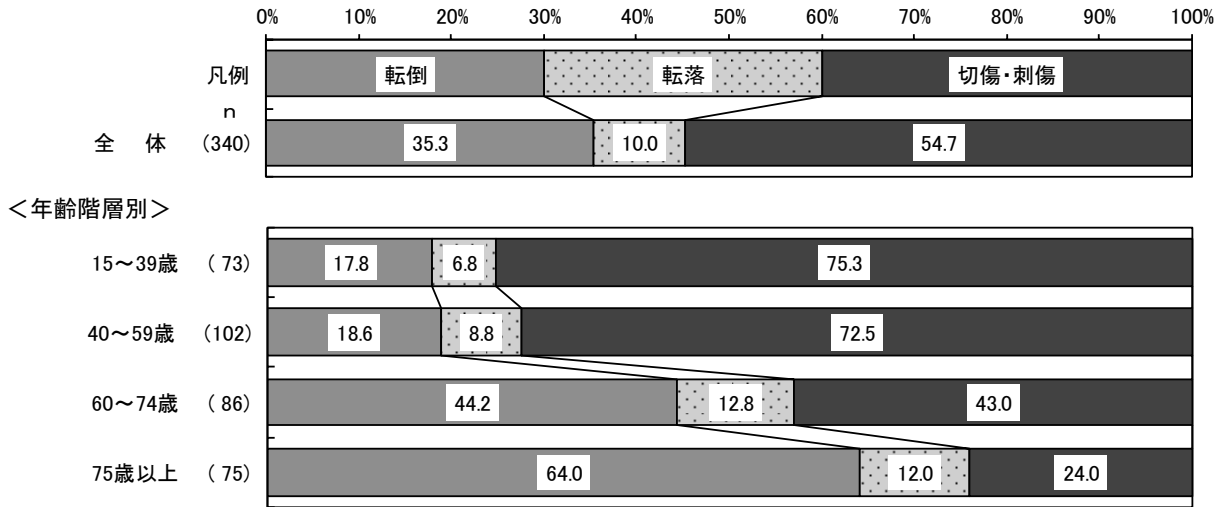
過去1年間に自宅で一番大きなけがをした場所は、「台所」が34.7%と最も高く、次いで「居室」が24.1%、「庭」が15.0%となっている。

過年度調査と比較すると、平成20年度調査以降、いずれの年度も場所の順位は同様の項目となっている。また、「台所」は平成20年度調査以降で最も低くなっている。

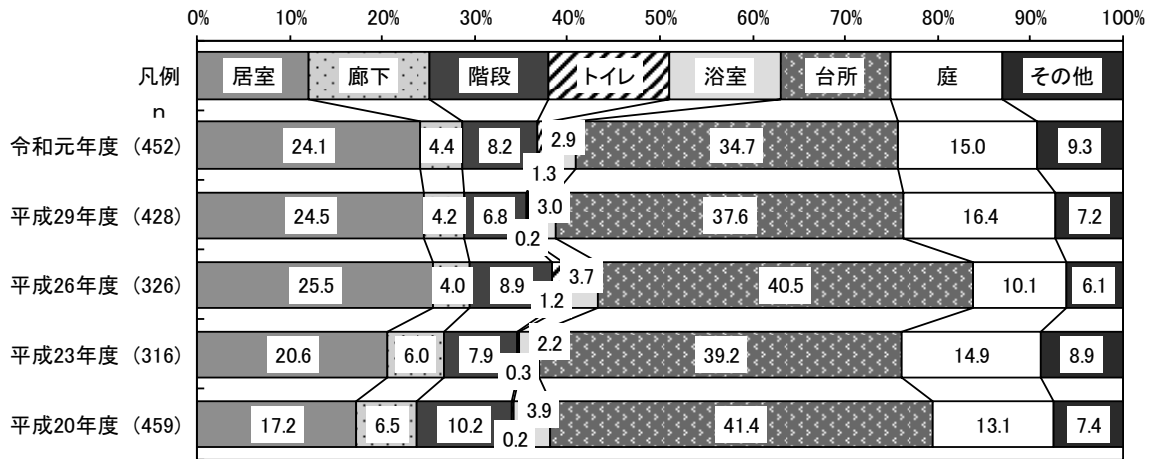
図表2-3 自宅でのけがの原因（経年比較）



図表 2-4 自宅でのけがの原因（年齢階層別）



図表 2-5 自宅でけがした場所（経年比較）



図表 2-6 けがをした場所とけがの原因の関係（経年比較）－上位3位

<令和元年度調査>

順位	項目	転倒	転落	切傷・刺傷	挟まれた・加圧	火傷	異物誤飲	その他
1位	居室	28	11	92	11	48	1	居室
	階段							居室／浴室
2位	庭	25	8	38	4	5		その他
	居室							その他
3位	階段	23	5	26	4	1		庭
	その他							トイレ／浴室

<平成29年度調査>

順位	項目	転倒	転落	切傷・刺傷	挟まれた・加圧	火傷	異物誤飲	その他
1位	居室	36	13	110	8	30	1	居室
	階段							台所
2位	庭	20	5	32	4	6		庭
	廊下							その他
3位	階段	12	4	30	4	2		その他
	庭							庭

<平成26年度調査>

順位	項目	転倒	転落	切傷・刺傷	挟まれた・加圧	火傷	異物誤飲	その他
1位	居室	27	9	94	9	21	1	居室
	階段							台所
2位	階段	14	3	36	5	3		台所
	居室							その他
3位	庭	8	3	15	2	1		庭
	廊下							その他

<平成23年度調査>

順位	項目	転倒	転落	切傷・刺傷	挟まれた・加圧	火傷	異物誤飲	その他
1位	居室	21	13	82	11	26	1	居室
	階段							居室
2位	庭	15	3	13	3	2		庭
	廊下							その他
3位	廊下	8	2	11	2	1		その他
	居室							庭

3 子ども（15歳未満）の事故やけがの状況

(1) 自宅外でのけがの状況

◎15歳未満の子どもがいる世帯の42.0%が、自宅外で何らかのけがをしている

◎けがの状況は、「道路や歩道を走っていて転倒」が16.3%と最も高い

15歳未満の子どもがいる世帯の42.0%が、自宅外で何らかのけがをしている。けがの状況は、「道路や歩道を走っていて転倒」が16.3%と最も高く、次いで「学校でのけが・事故（クラブ活動中なども含む）」が13.1%、「保育園・幼稚園でのけが・事故」が9.0%となっている。

また、けがをした際に医療機関に行った人は、「階段や高所からの転落」、「交通事故（単独、自転車・自動車の乗車中）」、「学校でのけが・事故（クラブ活動中なども）」で高くなっている。

図表3-1 自宅外でのけがの状況

※複数回答

	事故やけがをした状況		大人がいた		医療機関に行った	
	n	構成比(%)	n	構成比(%)	n	構成比(%)
全体	245	100.0	79	32.2	52	21.2
道路や歩道を走っていて転倒	40	16.3	32	80.0	7	17.5
学校でのけが・事故（クラブ活動中なども含む）	32	13.1	22	68.8	17	53.1
保育園・幼稚園でのけが・事故	22	9.0	19	86.4	7	31.8
公園（ブランコ・すべり台・鉄棒）でのけが	18	7.3	12	66.7	4	22.2
動物や虫などによるけが	13	5.3	11	84.6	4	30.8
交通事故（単独、自転車・自動車の乗車中）	10	4.1	7	70.0	6	60.0
階段や高所からの転落	8	3.3	5	62.5	6	75.0
海や川、プールなどでおぼれた	4	1.6	3	75.0	0	0.0
人や物（例：電柱等）に衝突	4	1.6	2	50.0	2	50.0
建物や車両などのドアに挟まれたけが	4	1.6	3	75.0	2	50.0
その他	8	3.3	7	87.5	7	87.5
けがはしていない	142	58.0				

※「大人がいた」と「医療機関に行った」の構成比は、各項目の「事故やけがをした状況」を基数としている

※「事故やけがをした状況」の回答数が高い順に並べている

(2) 自宅でのけがの状況

◎15歳未満の子どもがいる世帯の32.0%が、自宅で何らかのけがをしている

◎けがの状況は、「家具や物に体をぶつけるなどの衝突」が18.2%と最も高い

15歳未満の子どもがいる世帯の32.0%が、自宅で何らかのけがをしている。けがの状況は、「家具や物に体をぶつけるなどの衝突」が18.2%と最も高く、次いで「ベッドや椅子などから転落」と「ドアや窓、家具などで挟まれたけが」がともに10.4%、「廊下や浴室などでの転倒」が7.4%となっている。

また、けがをした際に医療機関に行った人は、「ベランダや窓の手すりを乗り越え高所から転落」、「たばこやおもちゃなどの異物誤飲」、「火気や熱湯、暖房器具などの接触によるやけど」、「動物や虫などによるけが」で高くなっている。

図表3-2 自宅でのけがの状況

※複数回答

	事故やけがをした状況		大人がいた		医療機関に行った	
	n	構成比(%)	n	構成比(%)	n	構成比(%)
全体	231	100.0	71	30.7	13	5.6
家具や物に体をぶつけるなどの衝突	42	18.2	43	102.4	3	7.1
ベッドや椅子などから転落	24	10.4	24	100.0	2	8.3
ドアや窓、家具などで挟まれたけが	24	10.4	21	87.5	1	4.2
廊下や浴室などでの転倒	17	7.4	15	88.2	-	-
動物や虫などによるけが	11	4.8	8	72.7	2	18.2
階段から転落	5	2.2	3	60.0	-	-
火気や熱湯、暖房器具などの接触によるやけど	4	1.7	4	100.0	1	25.0
たばこやおもちゃなどの異物誤飲	3	1.3	3	100.0	1	33.3
入浴中の溺水	3	1.3	2	66.7	-	-
刃物や鋭利なものによるけが	3	1.3	3	100.0	-	-
ベランダや窓の手すりを乗り越え高所から転落	1	0.4	-	-	1	100.0
就寝中の窒息	1	0.4	1	100.0	-	-
その他	6	2.6	5	83.3	2	33.3
けがはしていない	157	68.0				

※「大人がいた」と「医療機関に行った」の構成比は、各項目の「事故やけがをした状況」を基数としている

※「事故やけがをした状況」の回答数が高い順に並べている

4 体感不安（犯罪被害等含む）に関する実態

（1）地域の治安の変化に対する意識

◎1年前と比べた地域の治安は、市全体では、「変わらない」が72.6%と最も高く、平成26年度調査以降、7割を超えている

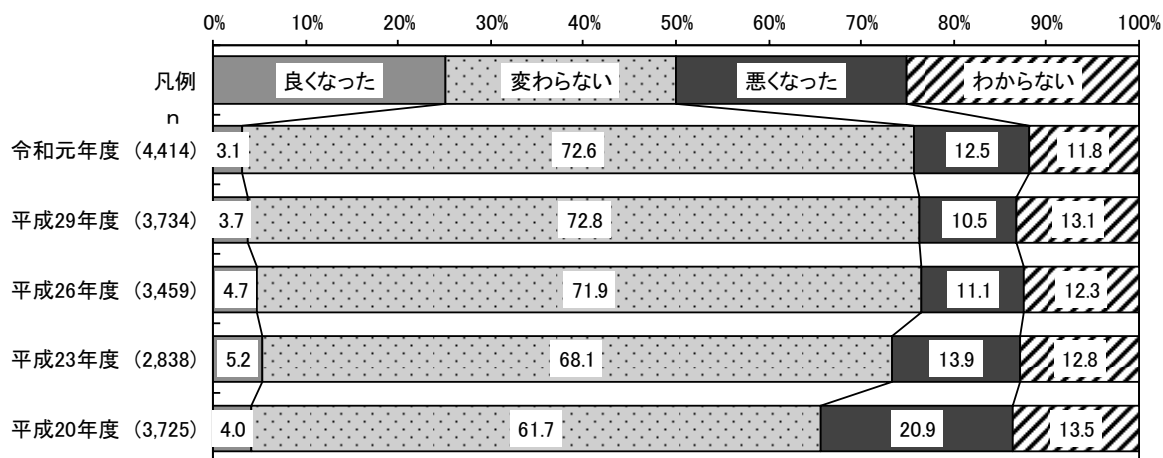
1年前と比べた地域の治安は、市全体では、「良くなった」が3.1%、「変わらない」が72.6%、「悪くなった」が12.5%となっている。

過年度調査と比較すると、「変わらない」は平成26年度調査以降、7割を超えている。一方、「悪くなった」は平成29年度調査より2.0ポイント増加している。

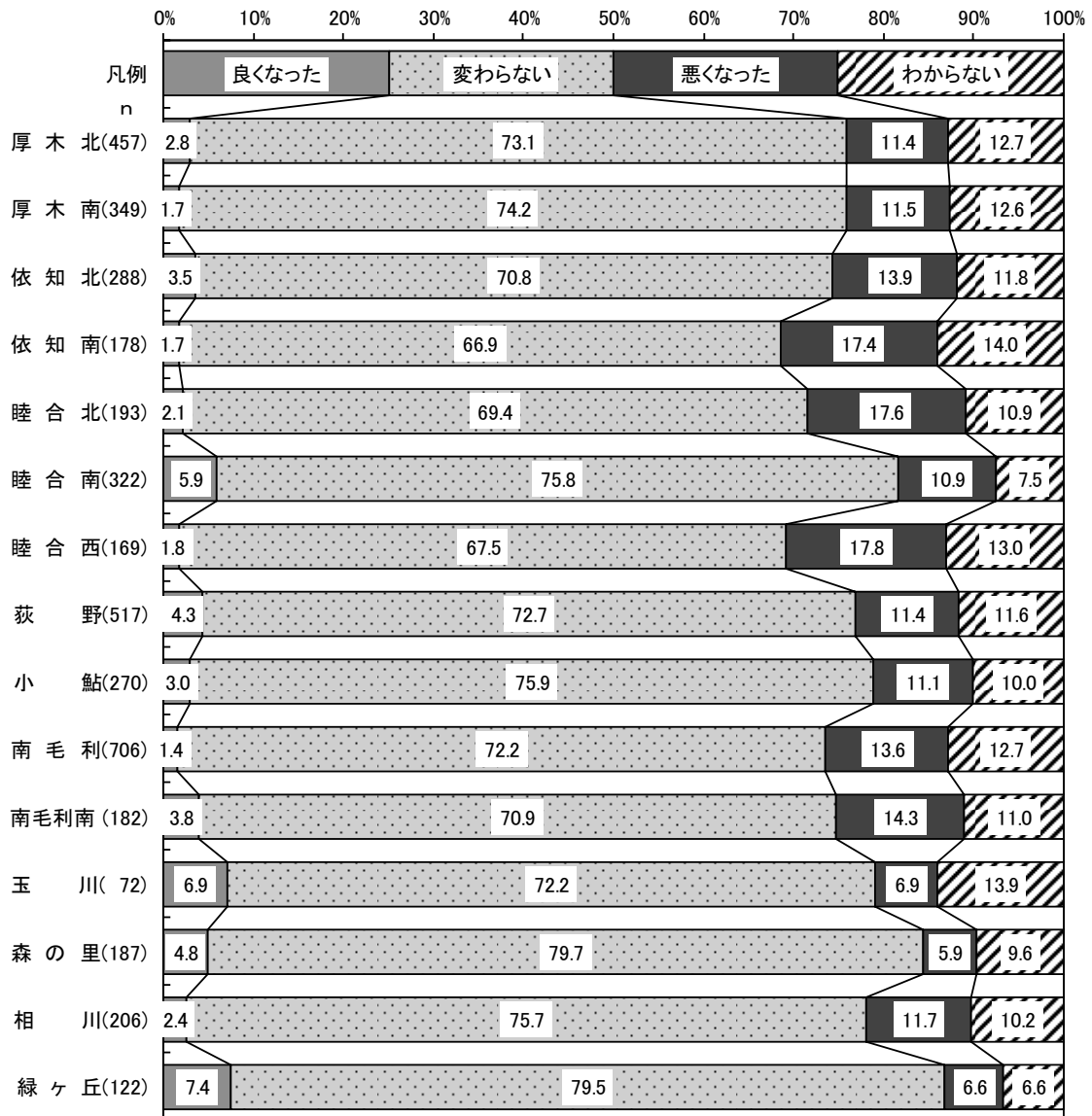
◎居住地区別では、「良くなった」は緑ヶ丘地区で7.4%と最も高く、「悪くなった」は睦合西地区、睦合北地区、依知南地区で高い

居住地区別でみると、1年前と比べた地域の治安は、「良くなった」は緑ヶ丘地区で7.4%と最も高く、次いで玉川地区で6.9%となっている。反対に「悪くなった」は睦合西地区で17.8%、睦合北地区で17.6%、依知南地区で17.4%と17%台で高い。

図表4-1 地域の治安の変化に対する意識（経年比較）



図表4-2 地域の治安の変化に対する意識（居住地域別）



(2) 犯罪等被害や不安を感じる事項と程度

◎犯罪等被害や不安を感じる事項は、「地震や風水害にあう不安」が44.3%と最も高い

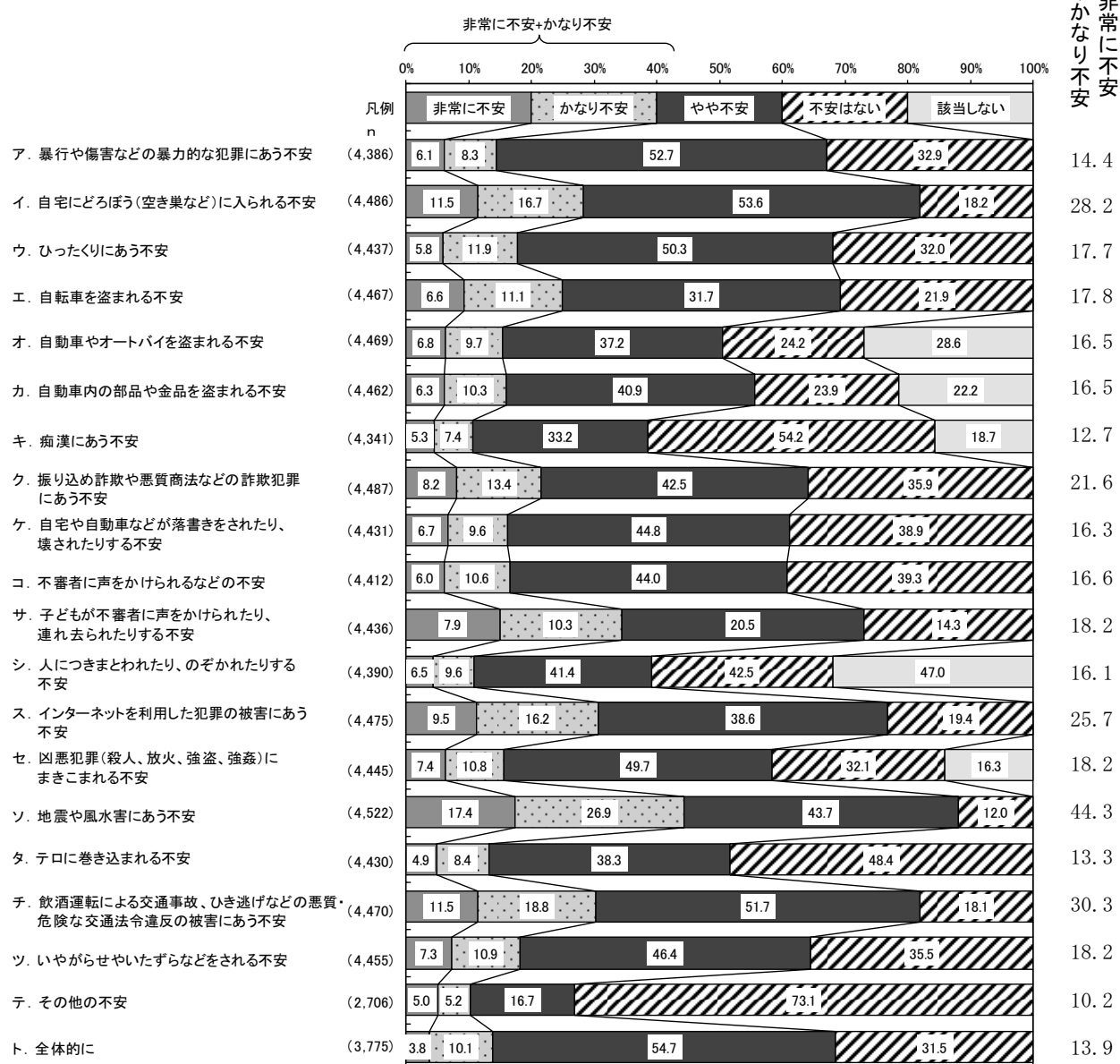
犯罪等被害や不安を感じる事項で、「非常に不安」と「かなり不安」を合わせた割合では、「地震や風水害にあう不安」が44.3%と最も高く、次いで「飲酒運転による交通事故、ひき逃げなどの悪質・危険な交通法令違反の被害にあう不安」が30.3%、「自宅にどろぼう（空き巣など）に入られる不安」が28.2%となっている。

過年度調査と比較すると、「振り込め詐欺や悪質商法などの詐欺犯罪にあう不安」が21.6%と2割を超えて、いずれの年度よりも高くなっている。

◎性別では、女性が男性より「地震や風水害にあう不安」が10.1ポイント高い

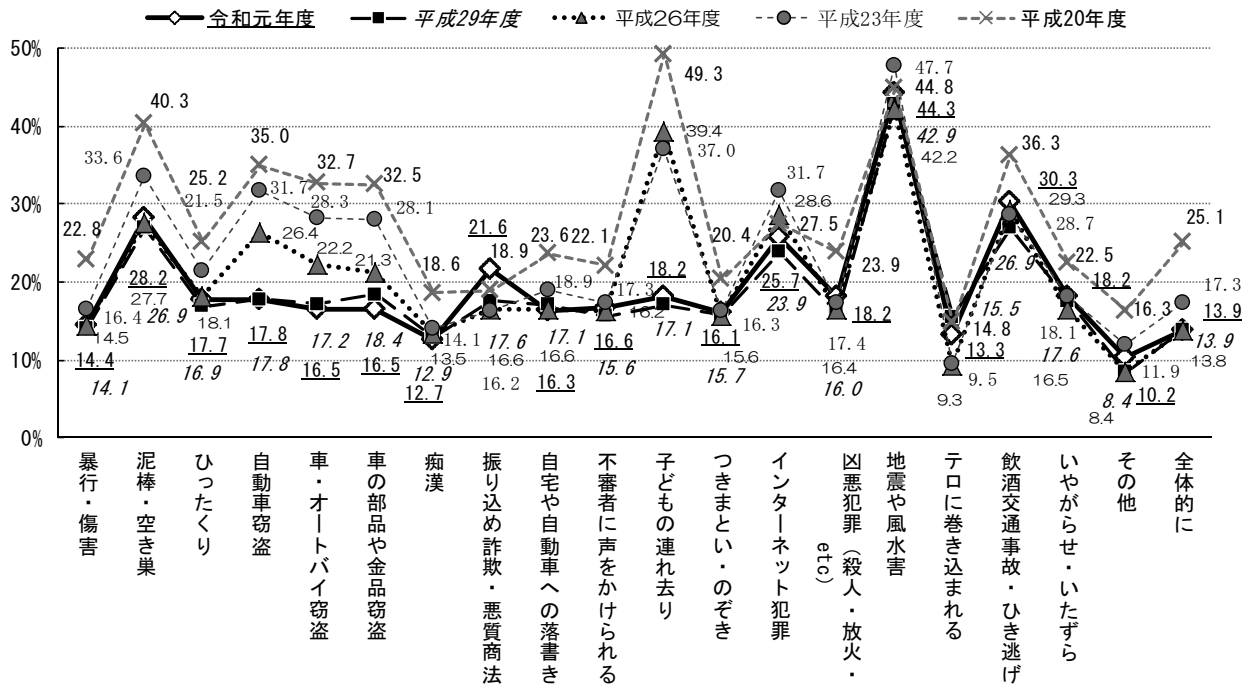
性別で見ると、犯罪等被害や不安を感じる事項で、「非常に不安」と「かなり不安」を合わせた割合では、女性が男性より「地震や風水害にあう不安」が10.1ポイント、「ひったくりにあう不安」が9.1ポイント、「不審者に声をかけられるなどの不安」が9.0ポイント、それぞれ高くなっている。

図表4-3 犯罪等被害や不安を感じる事項と程度



※「該当しない」は、「エ. 自転車を盗まれる不安」、「オ. 自動車やオートバイを盗まれる不安」、「カ. 自動車内の部品や金品を盗まれる不安」、「サ. 子どもが不審者に声をかけられたり、連れ去られたりする不安」、「ス. インターネットを利用した犯罪の被害にあう不安」のみにある選択肢

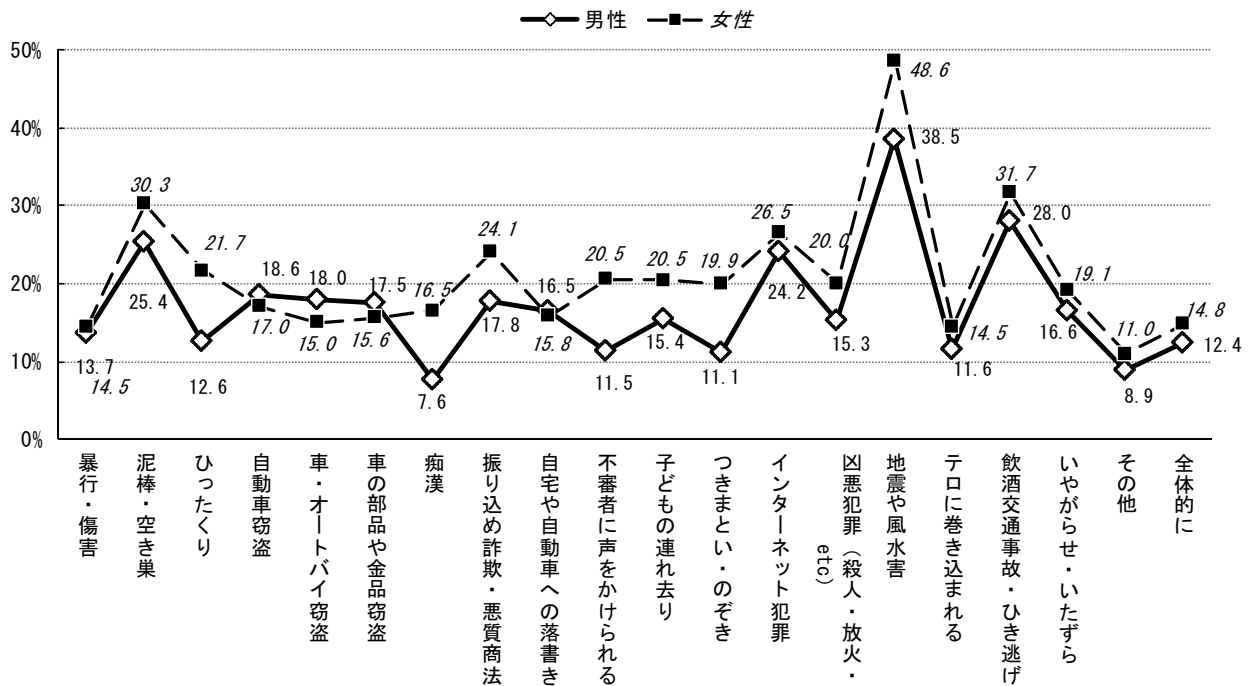
図表 4-4 犯罪等被害や不安を感じる事項と程度<「非常に不安」+「かなり不安」> (経年比較)



※グラフの数値は「非常に不安」と「かなり不安」と答えた人を合わせた割合

※平成 29 年度調査から、「自動車窃盗」、「車・オートバイ窃盗」、「車の部品や金品窃盗」、「子どもの連れ去り」、「インターネット犯罪」に、「該当しない」の選択肢を追加している

図表 4-5 犯罪等被害や不安を感じる事項と程度<「非常に不安」+「かなり不安」> (性別)



※グラフの数値は「非常に不安」と「かなり不安」と答えた人を合わせた割合

(3) 犯罪等被害にあう不安を感じる状況と程度

◎犯罪等被害にあう不安を感じる状況は、「人通りの少ない道」が34.1%と最も高い

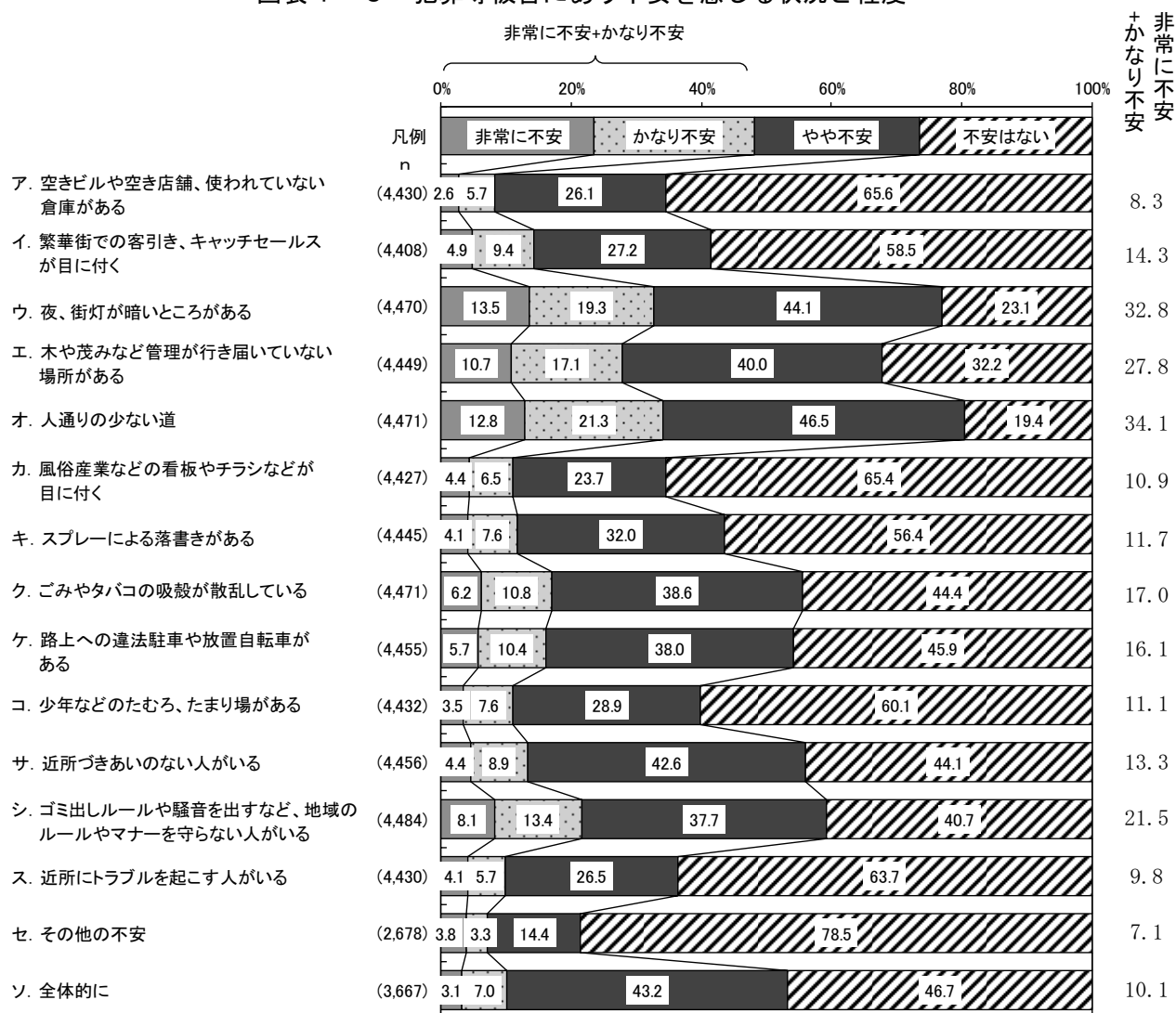
犯罪等被害にあう不安を感じる状況で、「非常に不安」と「かなり不安」を合わせた割合では、「人通りの少ない道」が34.1%と最も高く、次いで「夜、街灯が暗いところがある」が32.8%、「木や茂みなど管理が行き届いていない場所がある」が27.8%となっている。

過年度調査と比較すると、「風俗産業などの看板やチラシなどが目に付く」、「スプレーによる落書きがある」、「路上への違法駐車や放置自転車がある」、「少年などのたむろ、たまり場がある」は平成20年度調査以降減少傾向にある。また「少年などのたむろ、たまり場がある」は平成29年度調査より2.2ポイント減少している。

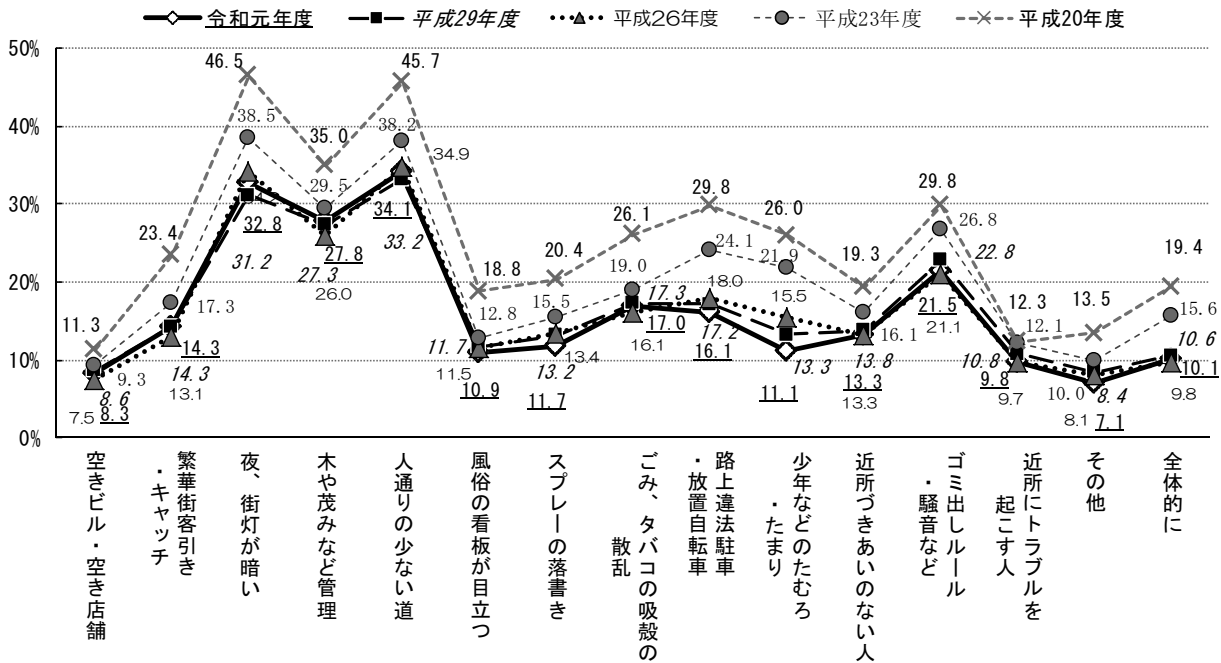
◎性別では、女性が男性より「人通りの少ない道」が13.6ポイント、「夜、街灯が暗いところがある」が10.2ポイント、それぞれ高い

性別で見ると、犯罪等被害にあう不安を感じる状況で、「非常に不安」と「かなり不安」を合わせた割合では、女性が男性より「人通りの少ない道」が13.6ポイント、「夜、街灯が暗いところがある」が10.2ポイント、それぞれ高くなっている。

図表4-6 犯罪等被害にあう不安を感じる状況と程度

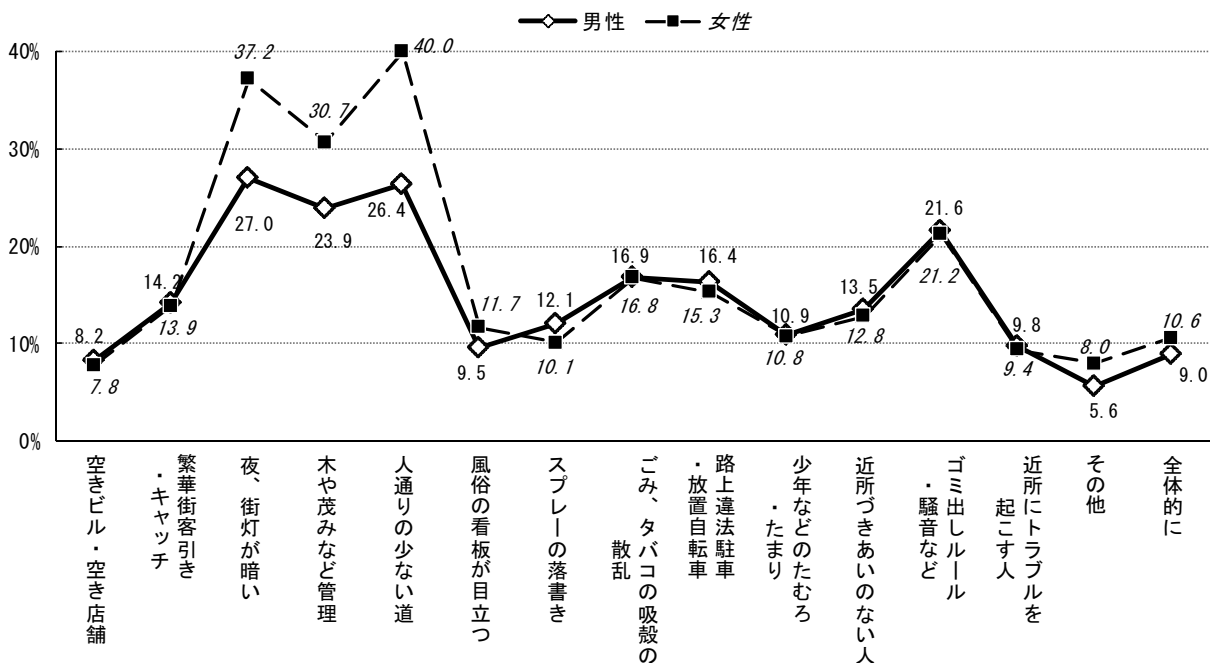


図表 4-7 犯罪等被害にあう不安を感じる状況と程度<「非常に不安」+「かなり不安」> (経年比較)



※グラフの数値は「非常に不安」と「かなり不安」と答えた人を合わせた割合

図表 4-5 犯罪等被害にあう不安を感じる状況と程度<「非常に不安」+「かなり不安」> (性別)



※グラフの数値は「非常に不安」と「かなり不安」と答えた人を合わせた割合

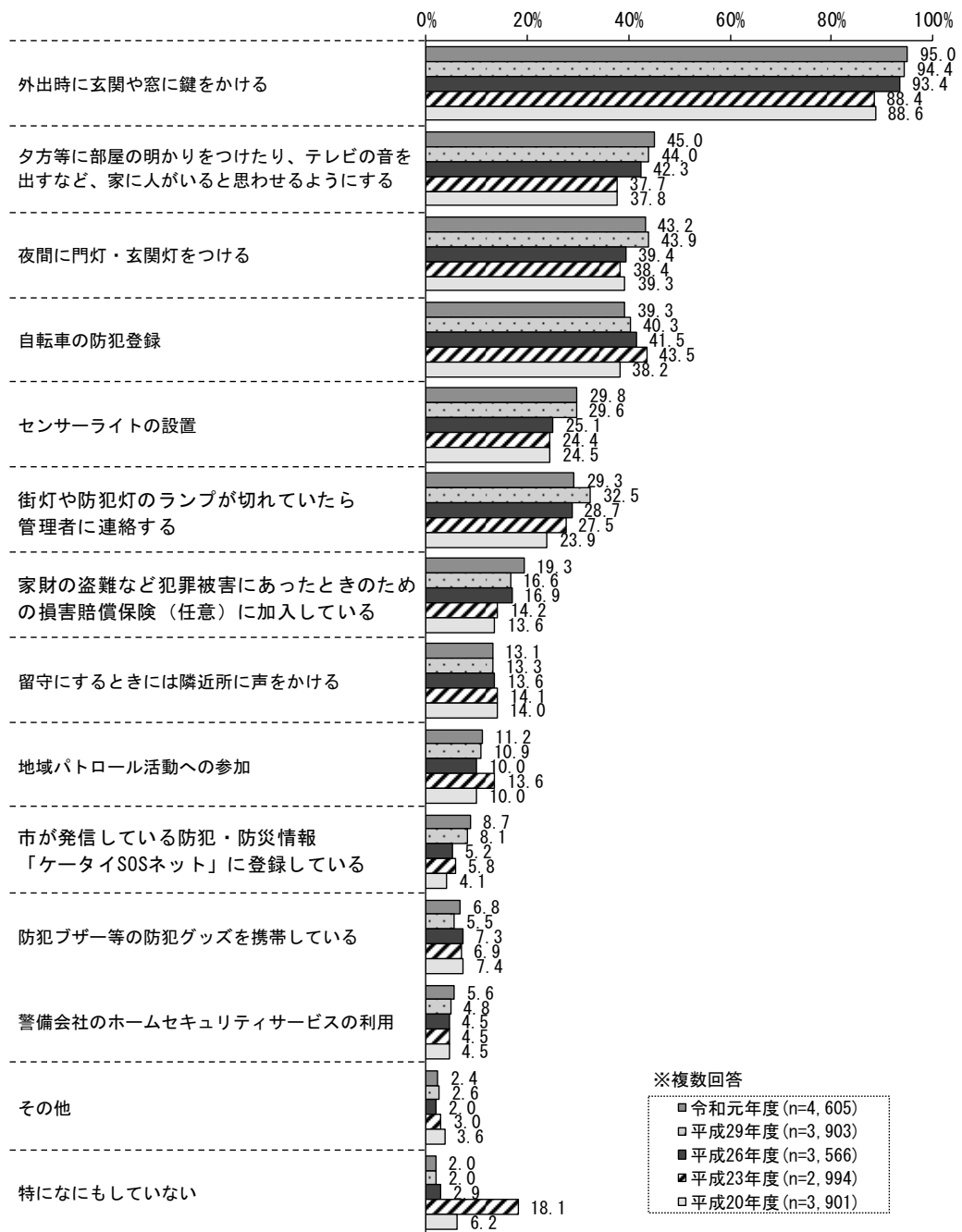
(4) 犯罪被害に巻き込まれないために行っている対策の状況

◎犯罪被害に巻き込まれないために行っている対策は、「外出時に玄関や窓に鍵をかける」が95.0%と最も高い

犯罪被害に巻き込まれないために行っている対策は、「外出時に玄関や窓に鍵をかける」が95.0%と最も高く、次いで「夕方等に部屋の明かりをつけたり、テレビの音を出すなど、家に人がいると思わせるようにする」が45.0%、「夜間に門灯・玄関灯をつける」が43.2%となっている。

過年度調査と比較すると、「外出時に玄関や窓に鍵をかける」と「夕方等に部屋の明かりをつけたり、テレビの音を出すなど、家に人がいると思わせるようにする」は、平成23年度調査より増加傾向にあり、反対に「自転車の防犯登録」と「留守にするときには隣近所に声をかける」は減少傾向にある。

図表4-9 犯罪被害に巻き込まれないために行っている対策の状況（経年比較）

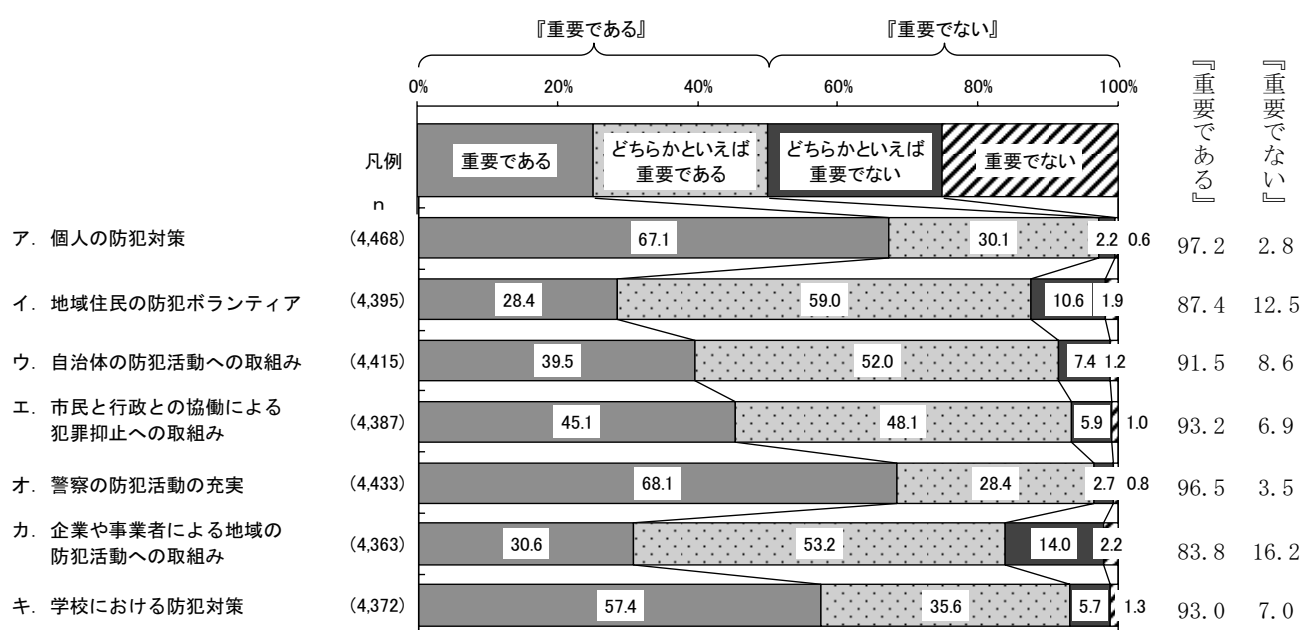


(5) 犯罪防止のために重要と考える対策

◎犯罪防止のために重要と考える対策は、「個人の防犯対策」が97.2%と最も高い

犯罪被害に巻き込まれないために行っている対策について、「重要である」と「どちらかといえば重要である」を合わせた割合では、「個人の防犯対策」が97.2%と最も高く、次いで「警察の防犯活動の充実」が96.5%、「市民と行政との協働による犯罪抑止への取組み」が93.2%となっている。また、全ての項目で『重要である』が8割を超えている。

図表4-10 犯罪防止のために重要と考える対策



5 自転車の利用に関する意識と事故やけがの状況

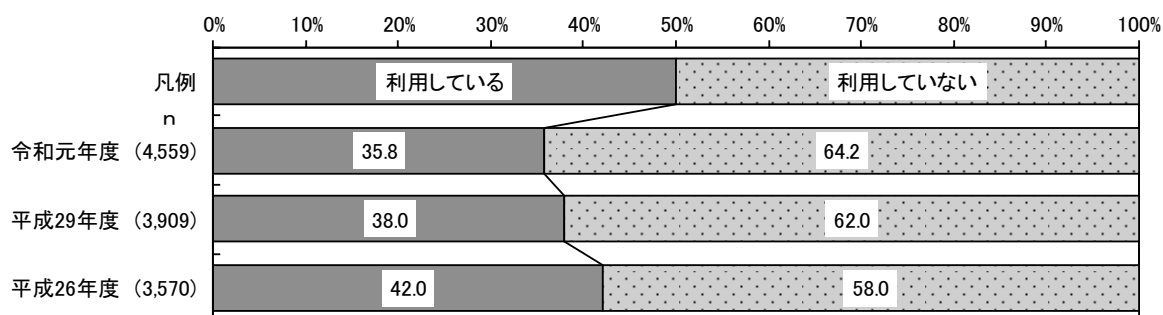
(1) 自転車の利用状況

◎自転車を「利用している」は35.8%、「利用していない」は64.2%

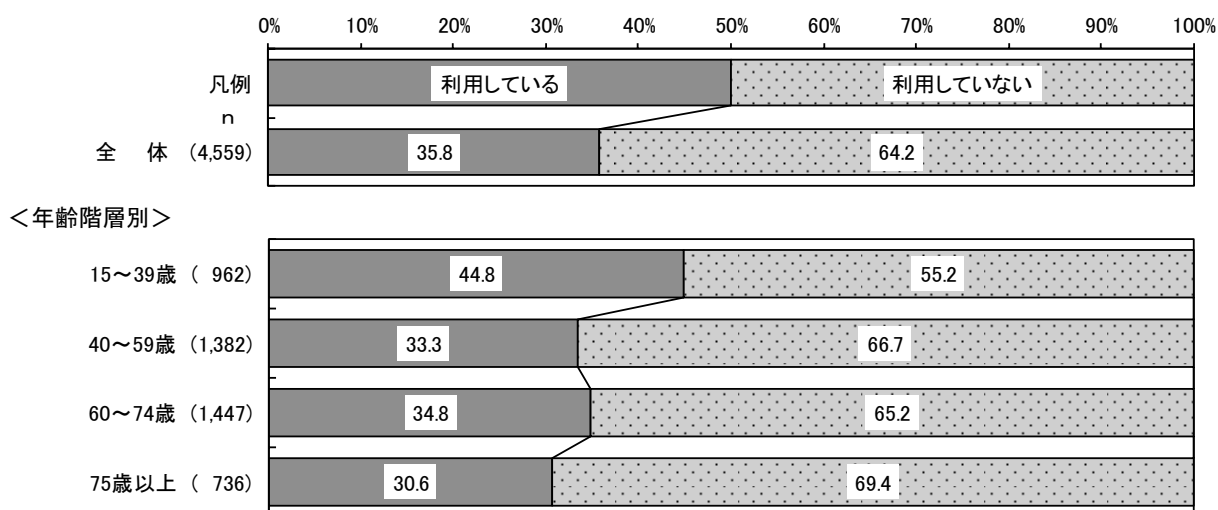
自転車の利用状況は、「利用している」が35.8%、「利用していない」が64.2%となっている。過年度調査と比較すると、「利用していない」は平成26年度調査より増加傾向にあり、平成29年度調査より2.2ポイント増加している。

年齢階層別で見ると、15～39歳では44.8.%と4割を超えて最も高く、それ以外の年齢階層は3割台となっている。

図表5-1 自転車の利用状況（経年比較）



図表5-2 自転車の利用状況（年齢階層別）



(2) 自転車の利用目的

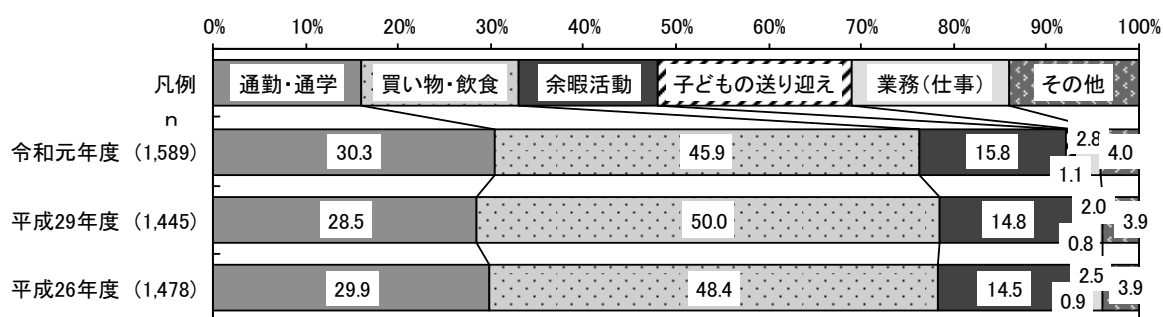
◎自転車の利用目的は「買い物・飲食」が45.9%と最も高い

自転車の利用目的は、「買い物・飲食」が45.9%と最も高く、次いで「通勤・通学」が30.3%、「余暇活動」が15.8%となっている。

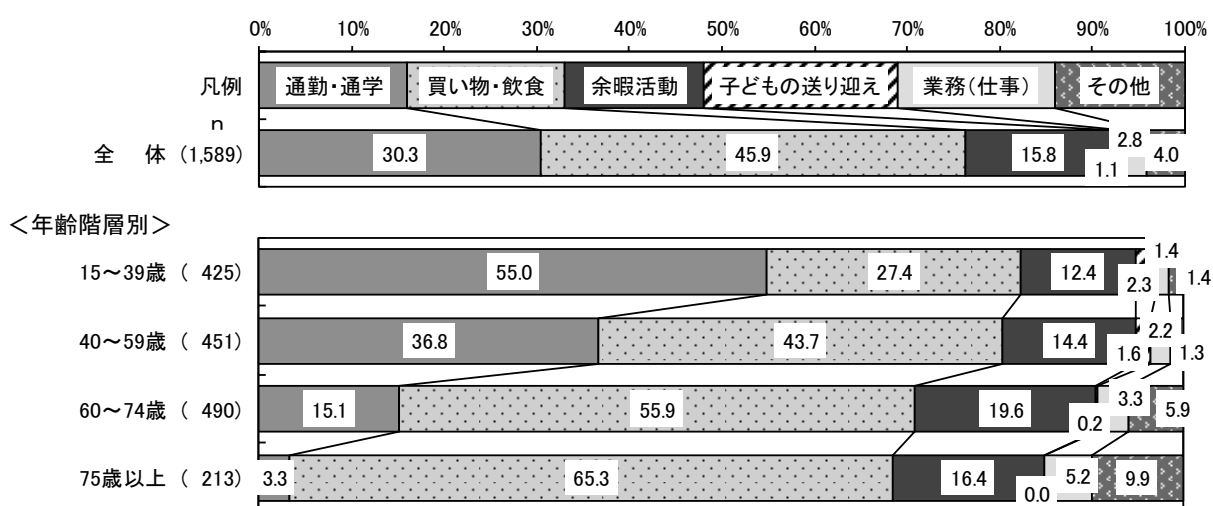
過年度調査と比較すると、平成29年度調査と比べ、「通勤・通学」は1.8ポイント、「余暇活動」は1.0ポイント増加している。反対に「買い物・飲食」は4.1ポイント減少している。

年齢階層別でみると、「通勤・通学」と「子どもの送り迎え」は年齢階層が下がるにつれて高くなる傾向にある。反対に「買い物・飲食」と「業務(仕事)」は年齢階層が上がるにつれて高くなる傾向にある。

図表5-3 自転車の利用目的（経年比較）



図表5-4 自転車の利用目的（年齢階層別）



(3) 自転車の利用・交通ルールの認知状況

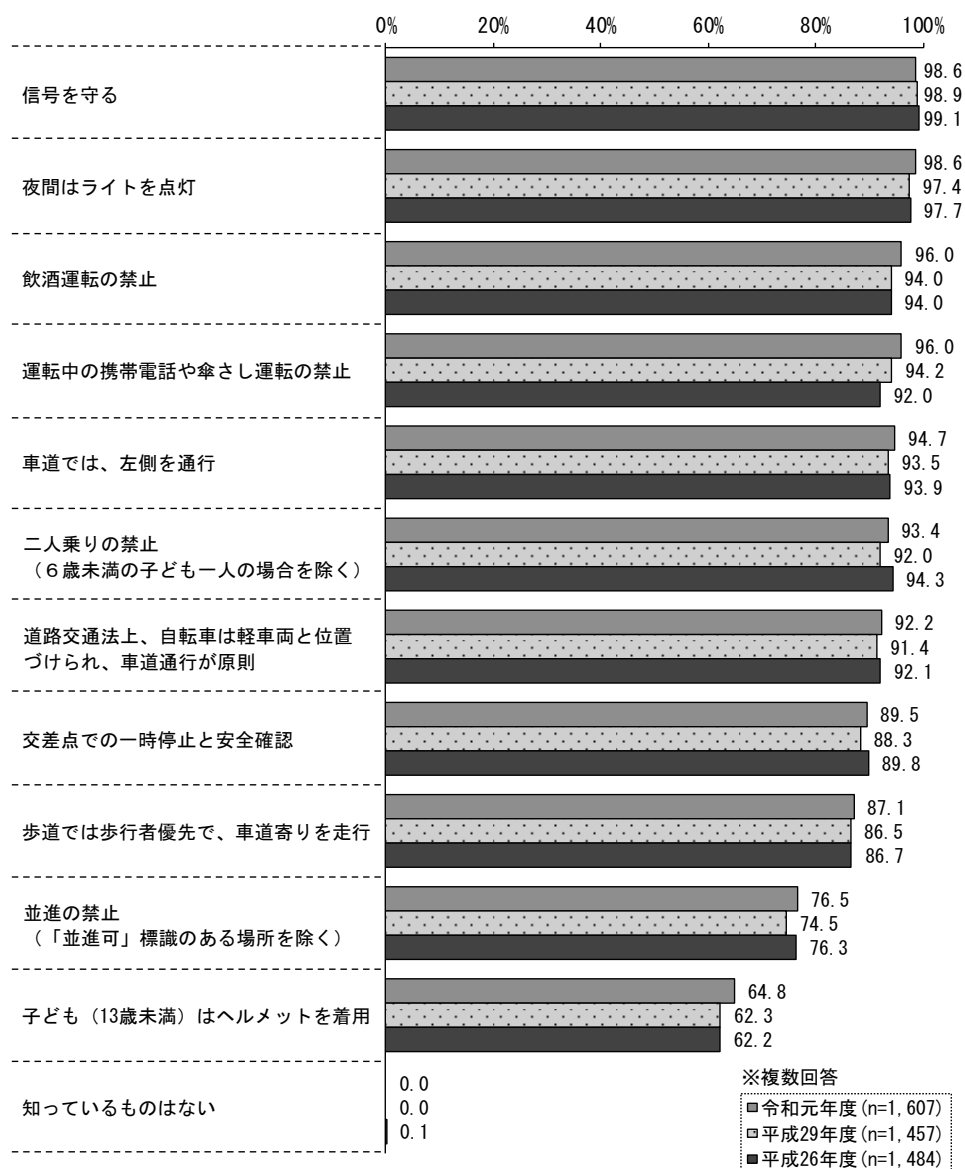
◎自転車の利用・交通ルールの認知状況は、「信号を守る」と「夜間はライトを点灯」がともに98.6%と最も高い

自転車の利用・交通ルールの認知状況は、「信号を守る」と「夜間はライトを点灯」がともに98.6%と最も高く、次いで「飲酒運転の禁止」と「運転中の携帯電話や傘さし運転の禁止」がともに96.0%となっている。

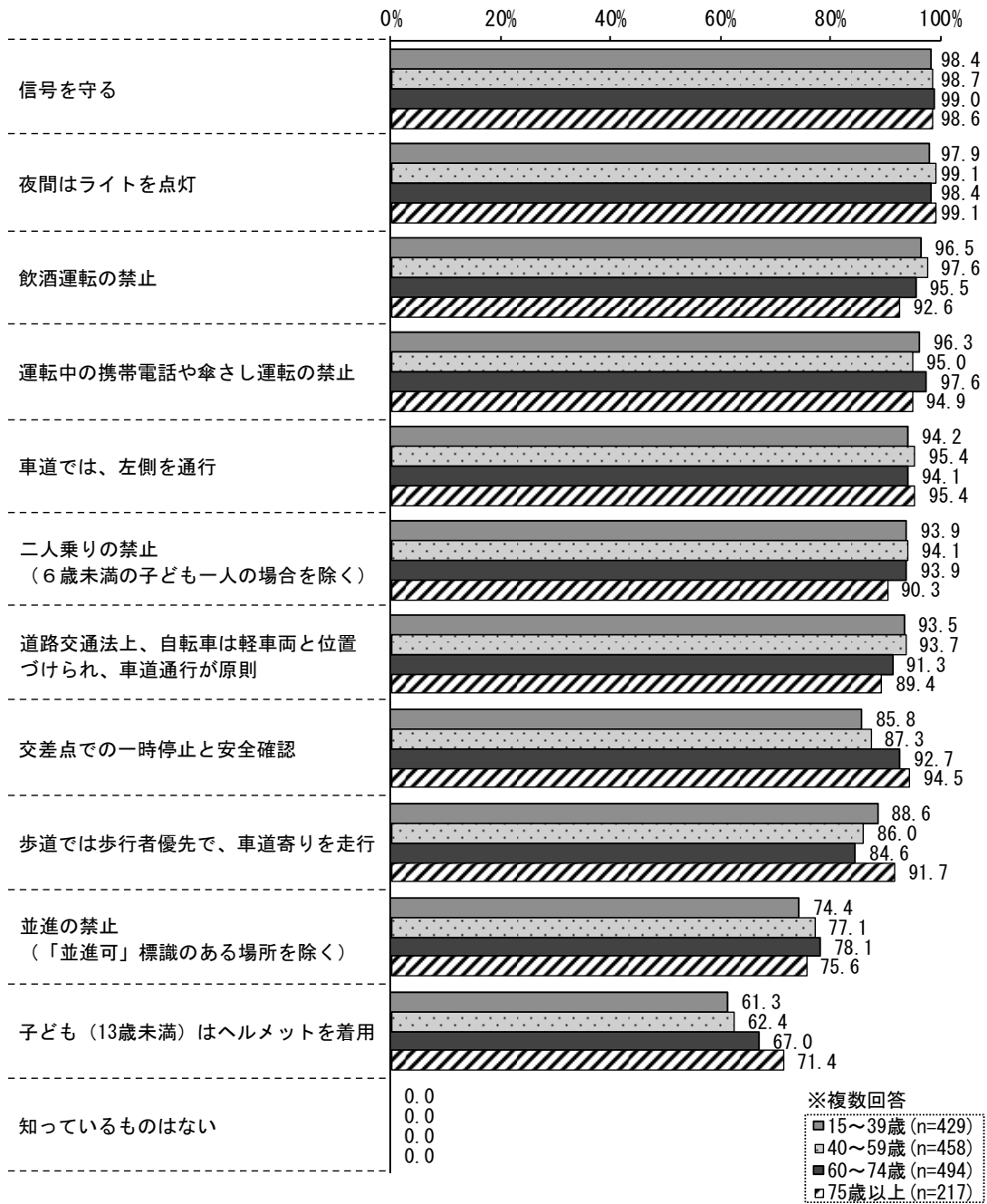
過年度調査と比較すると、平成29年度調査と比べ、「信号を守る」が微減している以外は、いずれの項目も割合が増加している。

年齢階層別でみると、「交差点での一時停止と安全確認」と「子ども(13歳未満)はヘルメットを着用」は年齢階層が上がるほど高くなる傾向にある。

図表5-5 自転車の利用・交通ルールの認知状況(経年比較)



図表5-6 自転車の利用・交通ルールの認知状況（年齢階層別）



(4) 自転車利用時に感じる不安や危険

◎自転車利用時に感じる不安や危険は、「車道と歩道の段差や砂利道などで走行しにくいこと」が54.8%と最も高い

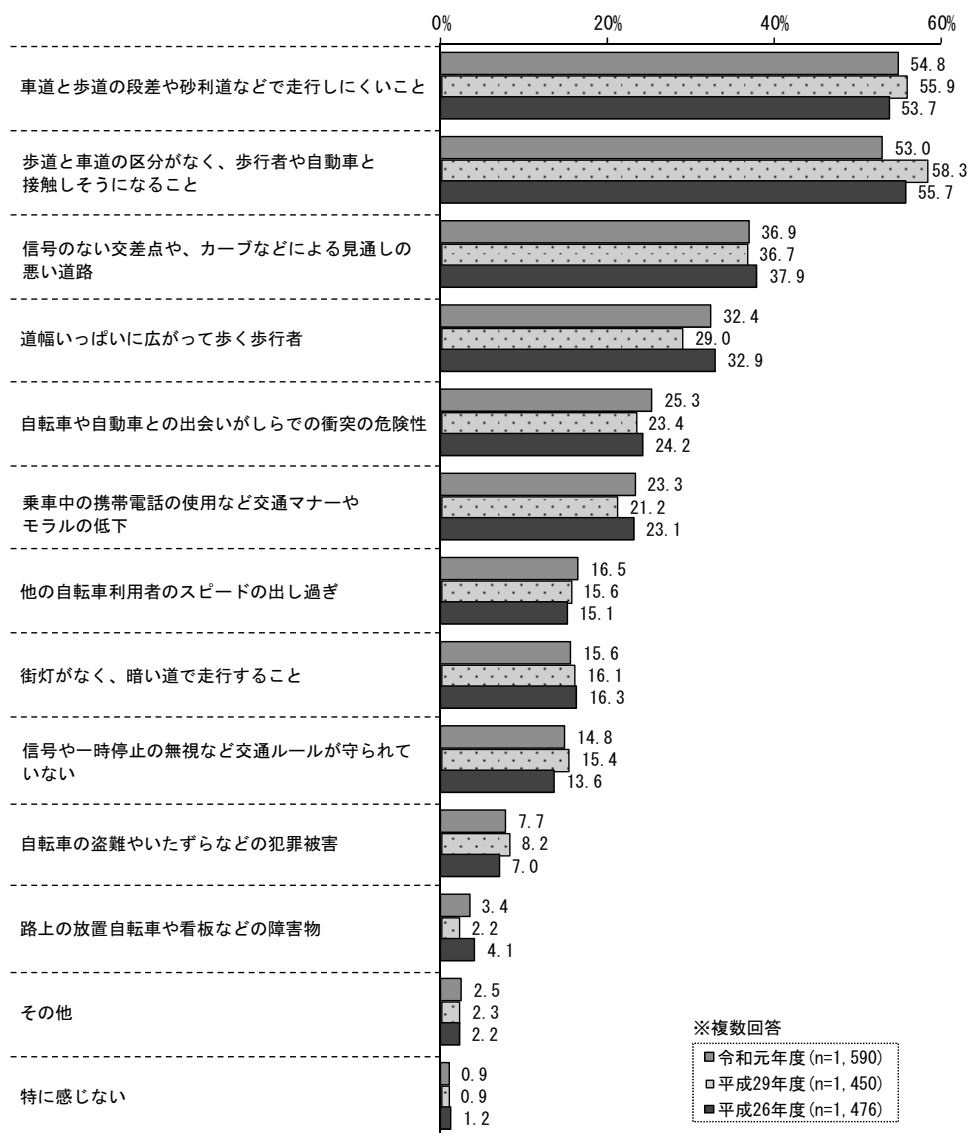
自転車利用時に感じる不安や危険は、「車道と歩道の段差や砂利道などで走行しにくいこと」が54.8%と最も高く、次いで「歩道と車道の区分がなく、歩行者や自動車と接触しそうになること」が53.0%となっている。

過年度調査と比較すると、平成29年度調査と比べ、「道幅いっぱいになって歩く歩行者」が3.4ポイント、「乗車中の携帯電話の使用など交通マナーやモラルの低下」が2.1ポイント増加している。

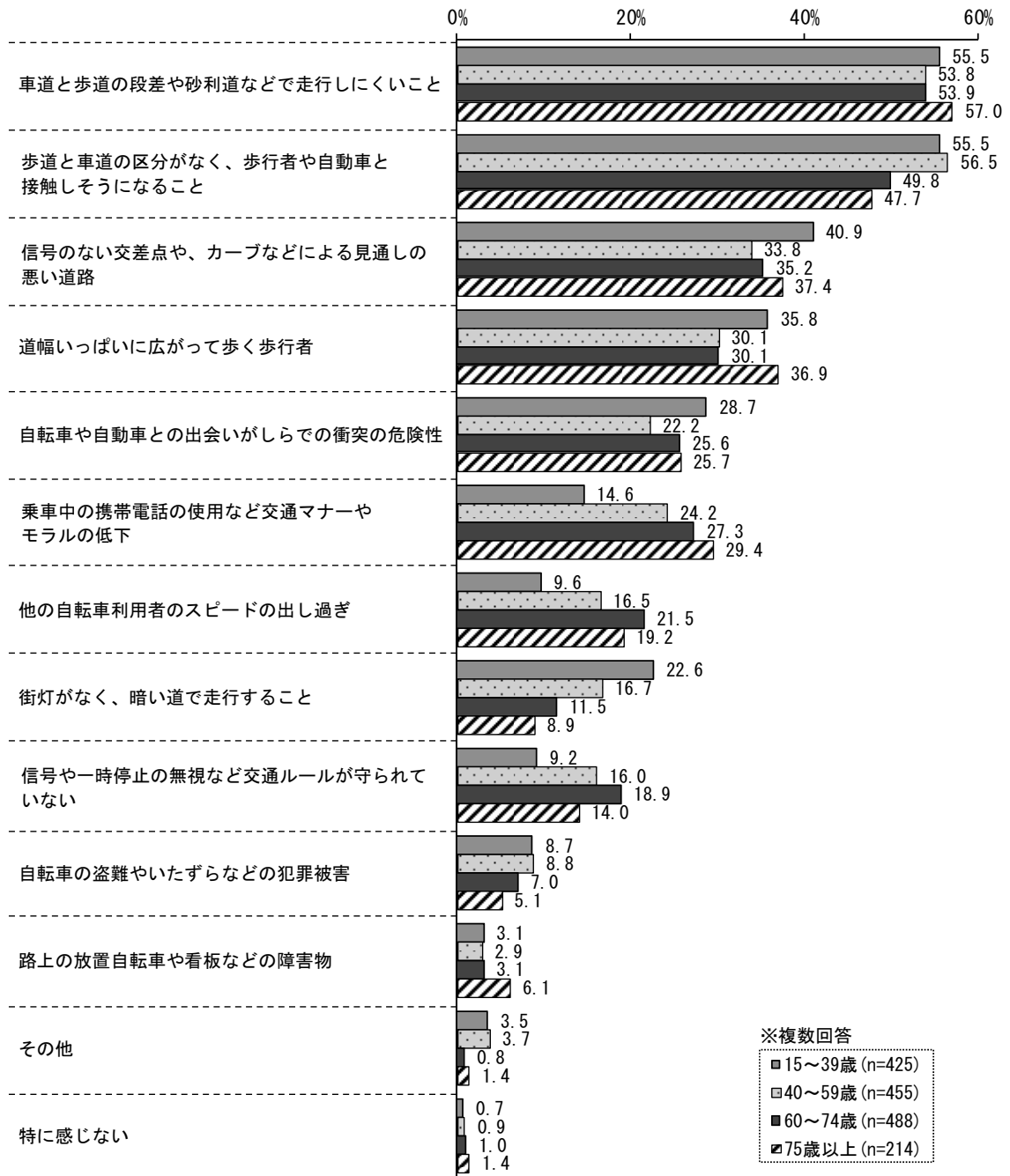
◎「乗車中の携帯電話の使用など交通マナーやモラルの低下」は年齢階層が上がるほど高く、「街灯がなく、暗い道で走行すること」は年齢階層が下がるほど高い

年齢階層別にみると、「乗車中の携帯電話の使用など交通マナーやモラルの低下」は年齢階層が上がるにつれて高くなる傾向にある。一方「街灯がなく、暗い道で走行すること」は年齢階層が下がるにつれて高くなる傾向にある。

図表5-7 自転車利用時に感じる不安や危険（経年比較）



図表 5-8 自転車利用時に感じる不安や危険（年齢階層別）



(5) 自転車利用時のけがや事故の経験

◎過去5年間の自転車利用時のけがや事故の経験は、「ある」が17.1%

過去5年間の自転車利用時のけがや事故の経験は、「ある」が17.1%、「ない」が82.9%となっている。

過年度調査と比較すると、平成29年度調査とほぼ変化はない。

自転車利用時のけがや事故の件数は、「1件」が74.9%と最も高く、「2件」が14.9%、「3件以上」が10.2%となっている。

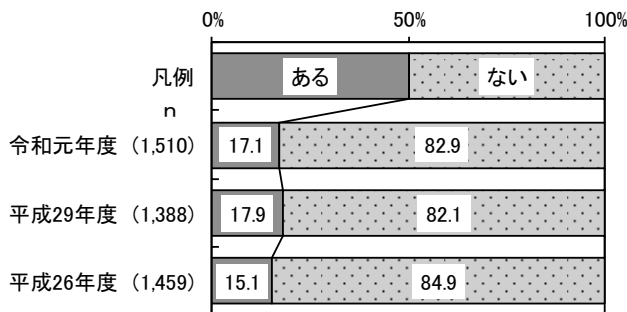
過年度調査と比較すると、平成29年度調査より「1件」が1.7ポイント増加している。

◎過去5年間の自転車利用時のけがや事故がおきた時間帯は、「昼間(通勤・通学時間以外)」が33.2%と最も高い

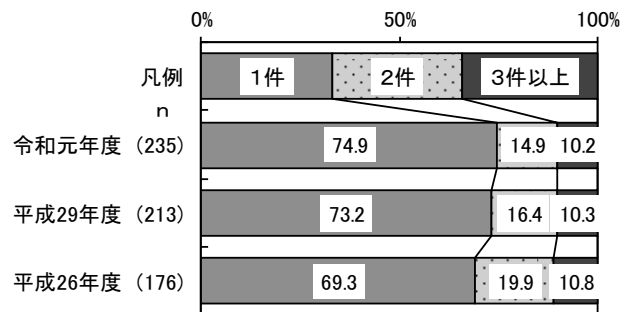
過去5年間の自転車利用時の最も大きなけがや事故がおきた時間帯は、「昼間(通勤・通学時間以外)」が33.2%と最も高く、次いで「朝の通勤・通学時間帯」が24.5%、「夕方の帰宅時間帯」が22.5%となっている。

過年度調査と比較すると、平成29年度調査より「早朝(5:00頃～7:00頃)」が7.7ポイント増加している。一方「昼間(通勤・通学時間以外)」は8.9ポイント減少している。

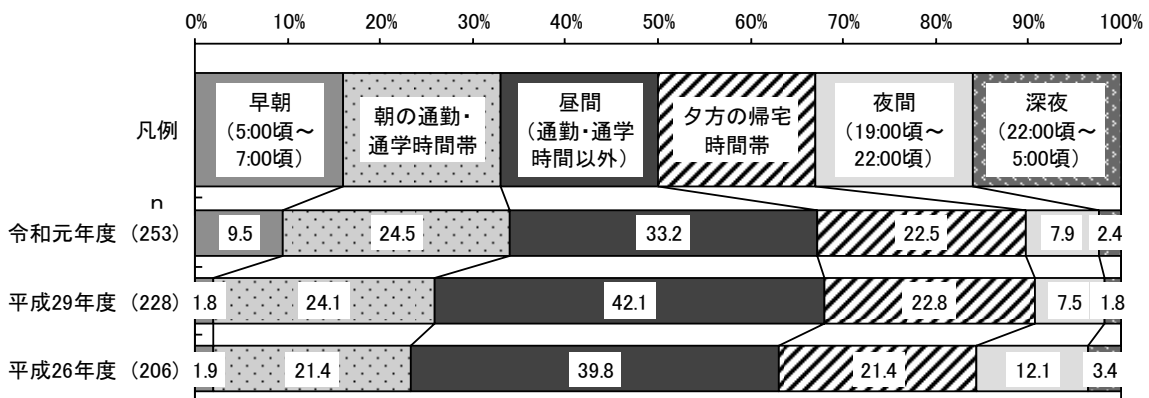
図表5-9 過去5年間の自転車利用時のけがや事故の経験(経年比較)



図表5-10 過去5年間の自転車利用時のけがや事故の件数(経年比較)



図表5-11 けがや事故がおきた時間帯(経年比較)



(6) 自転車利用時のけがや事故がおきた状況と原因

◎過去5年間の自転車利用時のけがや事故がおきた状況は、「自分だけ転倒した」が59.7%と最も高い

過去5年間の自転車利用時の最も大きなけがや事故がおきた状況は、「自分だけ転倒した」が59.7%と約6割で最も高い。次いで「自動車やバイクと接触・衝突した」が20.2%、「自転車同士で接触・衝突した」が12.6%となっている。

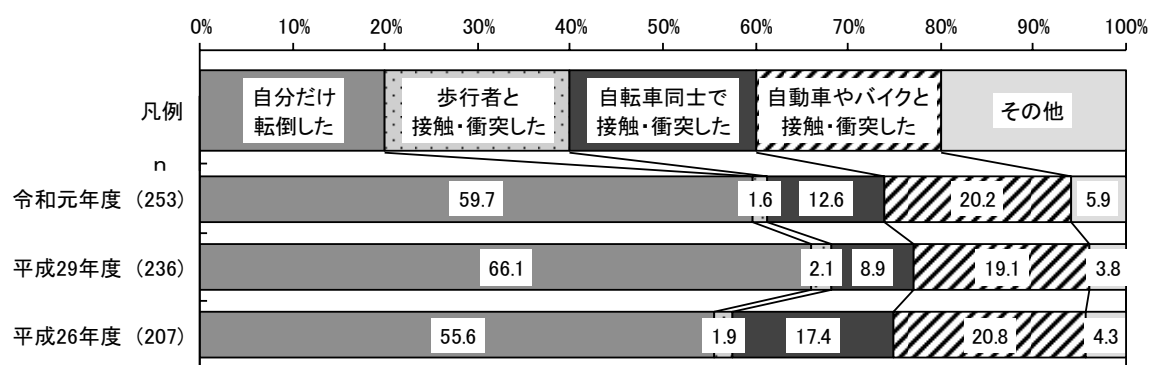
過年度調査と比較すると、平成29年度調査より「自転車同士で接触・衝突した」が3.7ポイント増加している。一方「自分だけ転倒した」は6.4ポイント減少している。

◎過去5年間の自転車利用時のけがや事故がおきた原因は、「道路に段差があった」が31.9%と最も高い

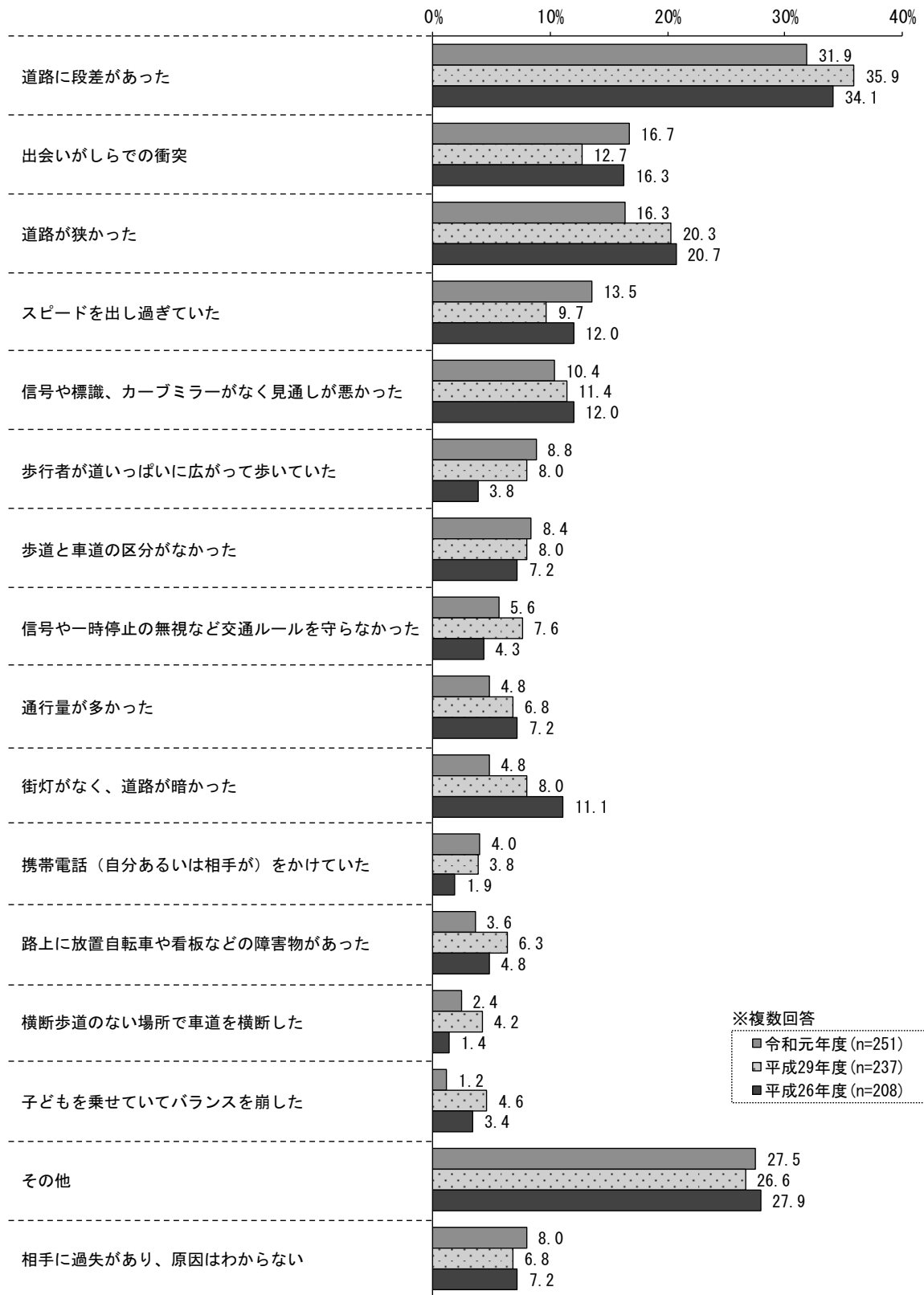
過去5年間の自転車利用時の最も大きなけがや事故がおきた原因は、「道路に段差があった」が31.9%と最も高く、次いで「出会いがしらでの衝突」が16.7%、「道路が狭かった」が16.3%となっている。

過年度調査と比較すると、平成29年度調査より「出会いがしらでの衝突」が4.0ポイント、「スピードを出し過ぎていた」が3.8ポイントそれぞれ増加している。また、「歩行者が道いっぱいに広がって歩いていた」と「歩道と車道の区別がなかった」は平成26年度調査以降、増加傾向にある。

図表5-12 けがや事故がおきた状況（経年比較）



図表5-14 けがや事故がおきた原因（経年比較）



(7) 自転車利用時にけがをした体の箇所と医療機関での治療状況

◎過去5年間の自転車利用時にけがをした体の箇所は、「脚部」が53.6%と最も高い

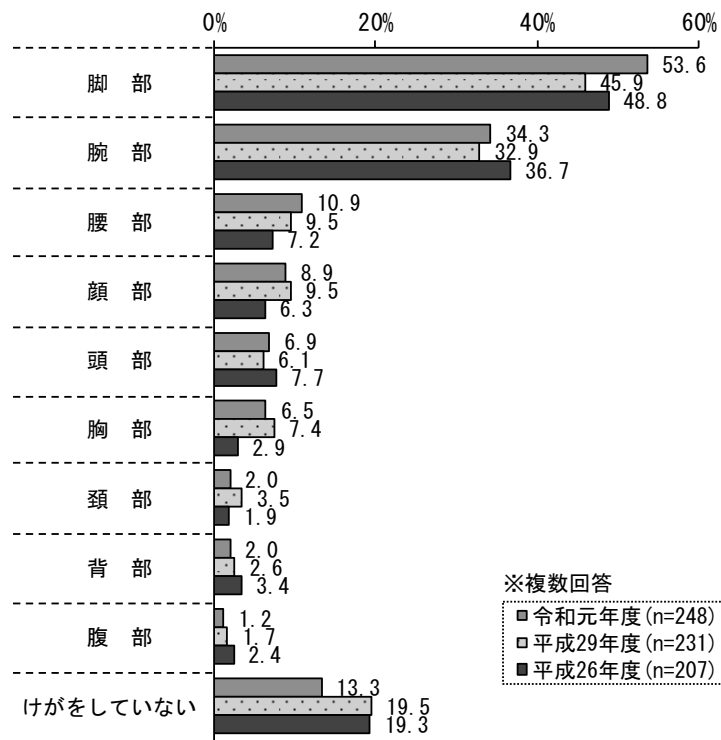
過去5年間の自転車利用時の最も大きなけがをした体の箇所は、「脚部」が53.6%と最も高い。次いで「腕部」が34.3%、「腰部」が10.9%となっている。

過年度調査と比較すると、平成29年度調査より「脚部」が7.8ポイント増加している。一方「けがをしていない」は6.2ポイント減少している。

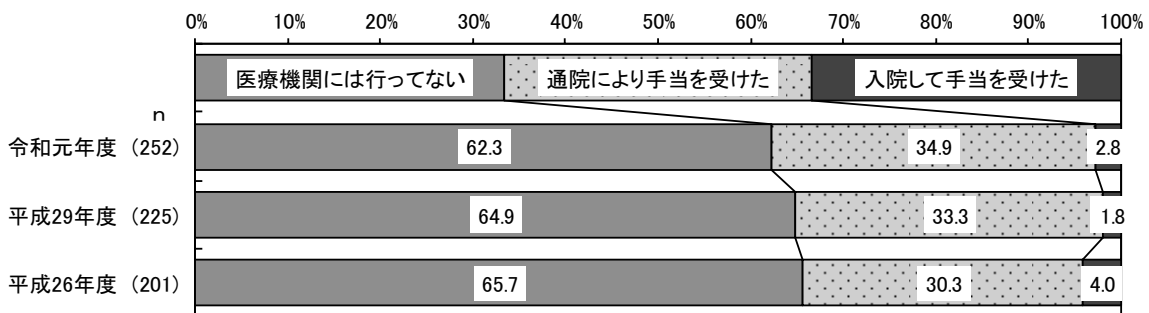
◎過去5年間の自転車利用時のけがや事故がおきた際の医療機関での治療状況は、医療機関を利用した人は37.7%となっている

過去5年間の自転車利用時の最も大きなけがや事故がおきた際の医療機関での治療状況は、「通院により手当を受けた」が34.9%、「入院して手当を受けた」が2.8%となっており、医療機関を利用した人は37.7%となっている。一方「医療機関には行ってない」は62.3%となっている。

図表5-15 けがをした体の箇所（経年比較）



図表5-16 医療機関での治療状況（経年比較）



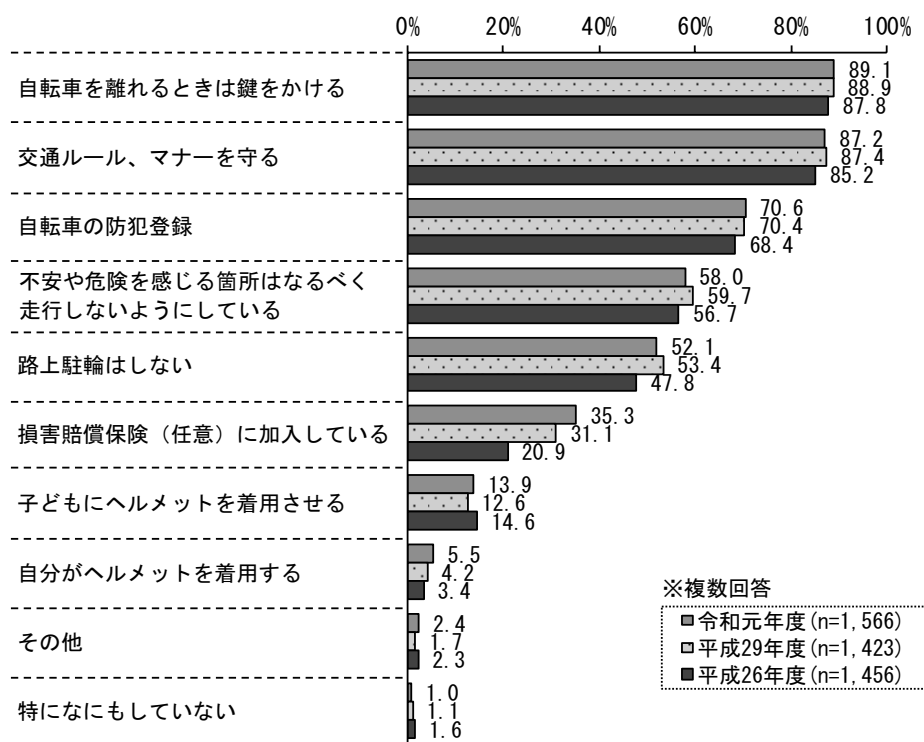
(8) 自転車利用の不安や危険を減少させるためにしていること

◎自転車利用の不安や危険を減少させるためにしていることは、「自転車を離れるときは鍵をかける」が89.1%と最も高い

自転車利用の不安や危険を減少させるためにしていることは、「自転車を離れるときは鍵をかける」が89.1%と9割近くで最も高い。次いで「交通ルール、マナーを守る」が87.2%、「自転車の防犯登録」が70.6%となっている。

過年度調査と比較すると、平成29年度調査より「損害賠償保険（任意）に加入している」が4.2ポイント増加しており、平成26年度調査以降、増加傾向にある。

図表5-17 自転車利用の不安や危険を減少させるためにしていること（経年比較）



(9) 自転車利用の不安や危険を改善するために必要なこと

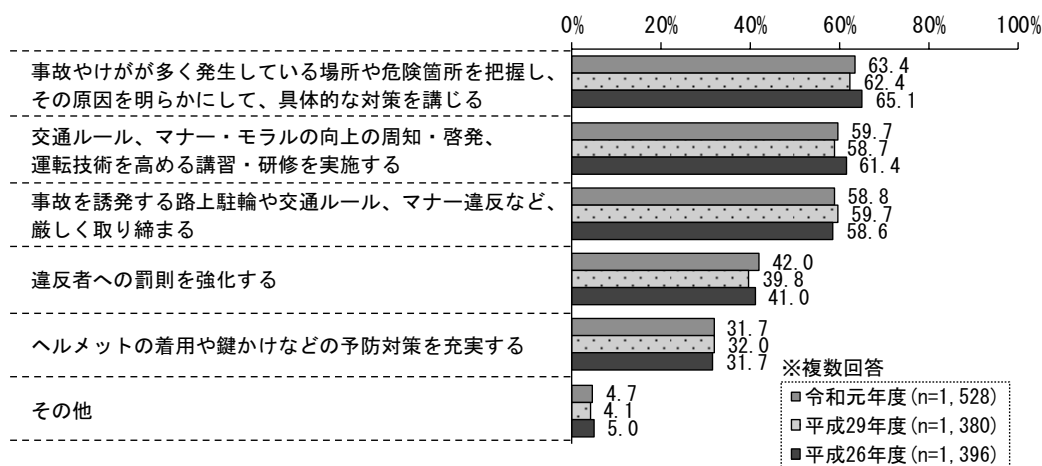
◎自転車利用の不安や危険を改善するために必要なことは、「事故やけがが多く発生している場所や危険箇所を把握し、その原因を明らかにして、具体的な対策を講じる」が63.4%と最も高い

自転車利用の不安や危険を改善するために必要なことは、「事故やけがが多く発生している場所や危険箇所を把握し、その原因を明らかにして、具体的な対策を講じる」が63.4%と最も高い。次いで「交通ルール、マナー・モラルの向上の周知・啓発、運転技術を高める講習・研修を実施する」が59.7%となっている。

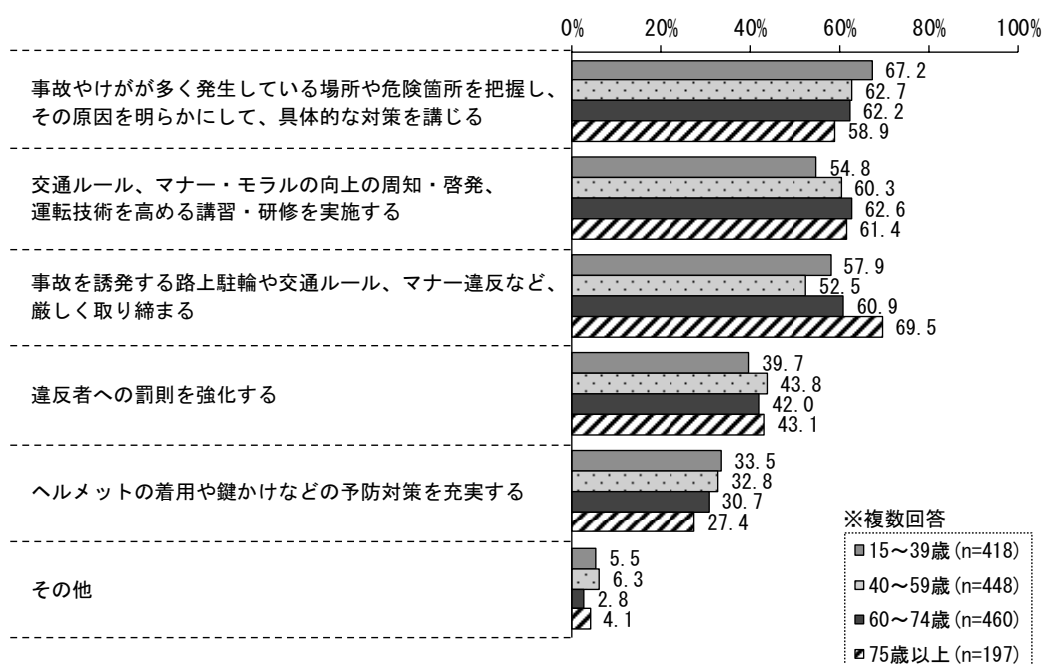
過年度調査と比較すると、平成29年度調査より「違反者への罰則を強化する」が2.2ポイント増加している。

年齢階層別でみると、「事故やけがが多く発生している場所や危険箇所を把握し、その原因を明らかにして、具体的な対策を講じる」と「ヘルメットの着用や鍵かけなどの予防対策を充実する」は年齢階層が下がるにつれて高くなる傾向にある。

図表5-18 自転車利用の不安や危険を改善するために必要なこと（経年比較）



図表5-18 自転車利用の不安や危険を改善するために必要なこと（年齢階層別）



6 災害についての意識

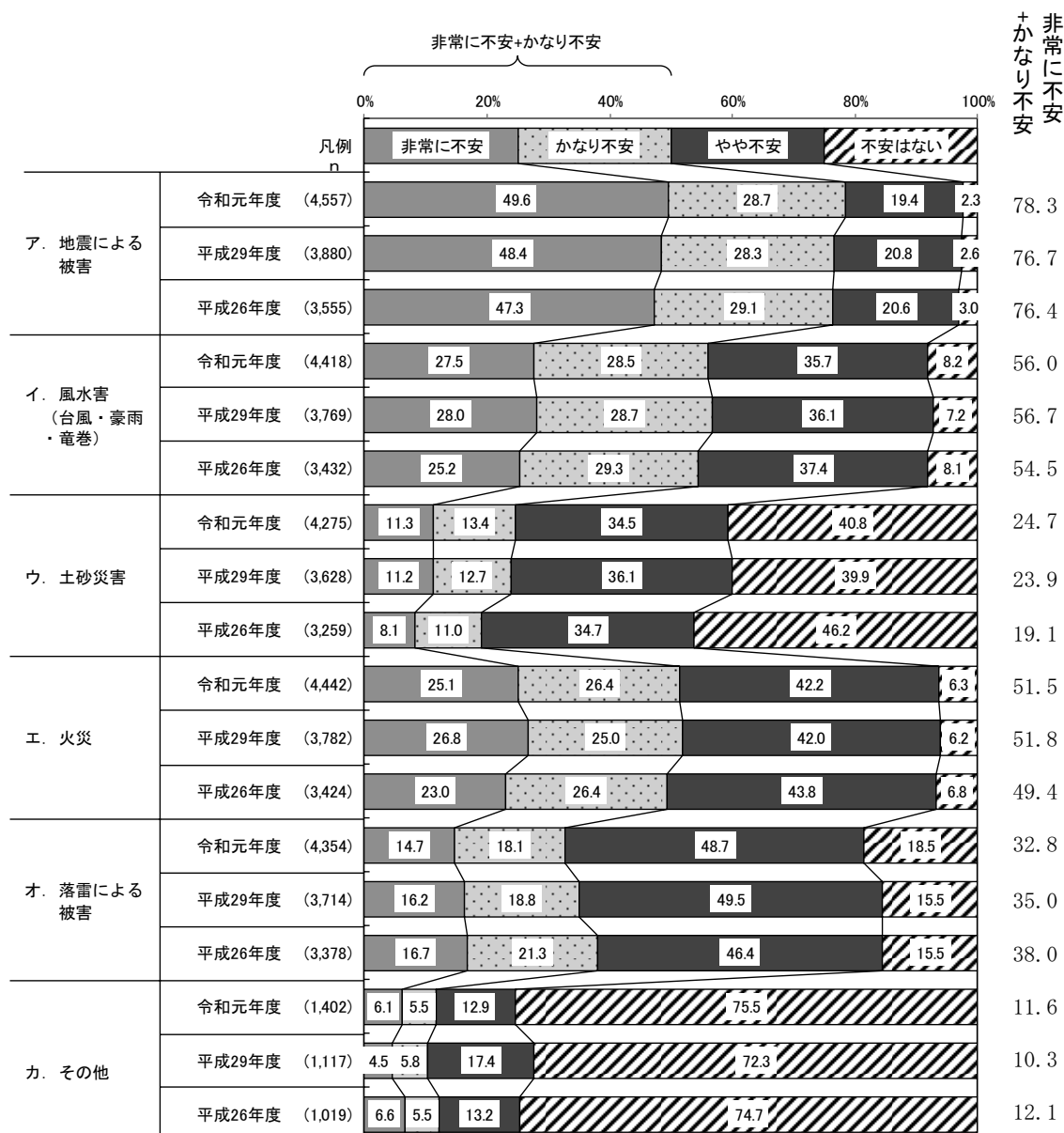
(1) 不安を感じる災害

◎不安を感じる災害は、「地震による被害」が78.3%と最も高い

不安を感じる災害で、「非常に不安」と「かなり不安」を合わせた割合では、「地震による被害」が78.3%と最も高く、次いで「風水害（台風・豪雨・竜巻）」が56.0%、「火災」が51.5%となっている。

過年度調査と比較すると、不安を感じる災害で、「非常に不安」と「かなり不安」を合わせた割合では、平成29年度調査より「地震による被害」が1.6ポイント増加している。また、「落雷による被害」は、平成26年度調査以降、減少傾向にある。

図表6-1 不安を感じる災害（経年比較）



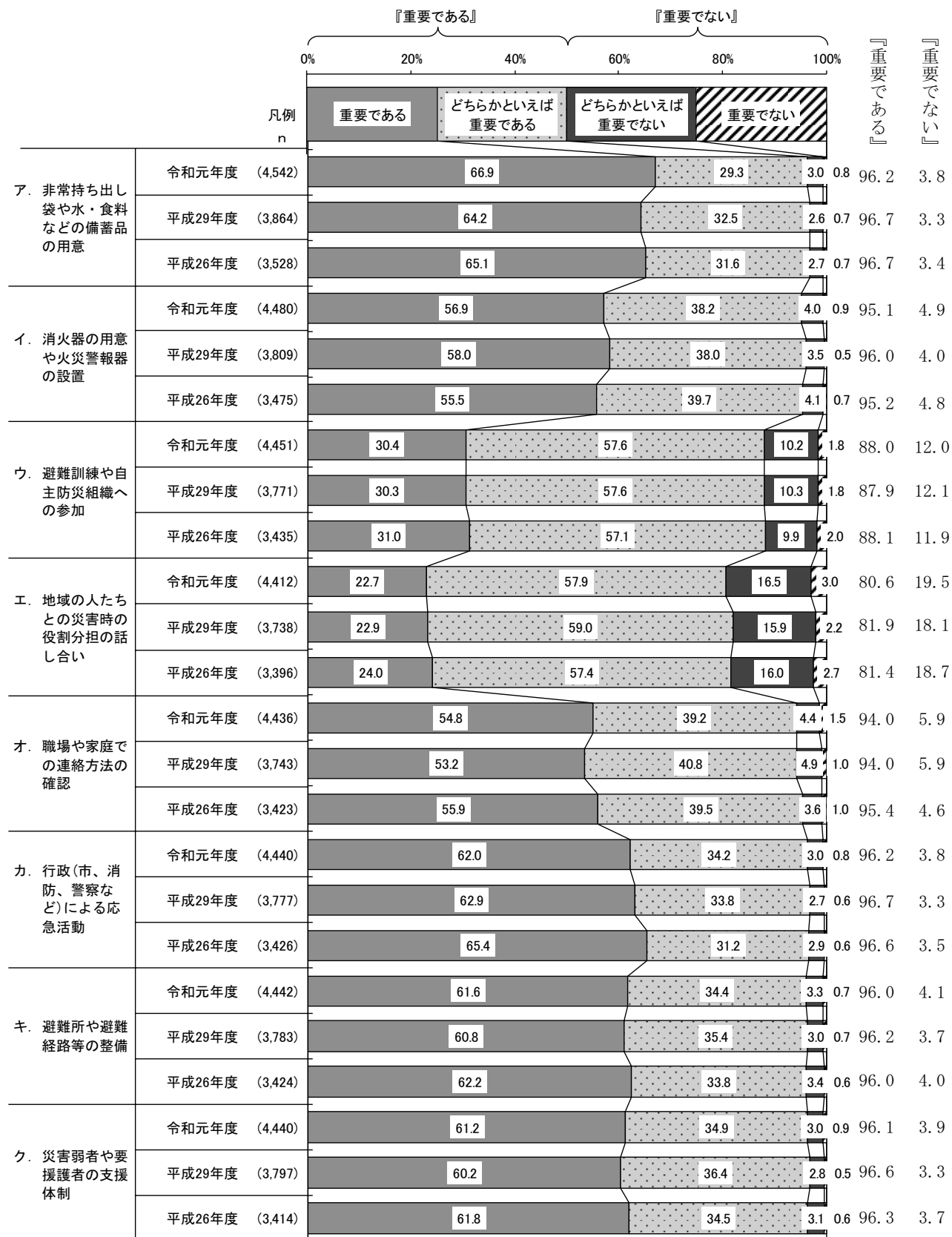
(2) 災害対策の重要度

◎災害対策の重要度は、「非常持ち出し袋や水・食料などの備蓄品の用意」と「行政(市、消防、警察など)による応急活動」がともに96.2%と最も高い

災害対策について、「重要である」と「どちらかといえば重要である」を合わせた割合では、「非常持ち出し袋や水・食料などの備蓄品の用意」と「行政(市、消防、警察など)による応急活動」がともに96.2%、「災害弱者や要援護者の支援体制」が96.1%、「避難所や避難経路等の整備」が96.0%と高く、全ての項目で8割を超えている。

過年度調査と比較すると、平成26年度調査以降、傾向としてあまり変化はない。

図表 6 - 2 災害対策の重要度（経年比較）



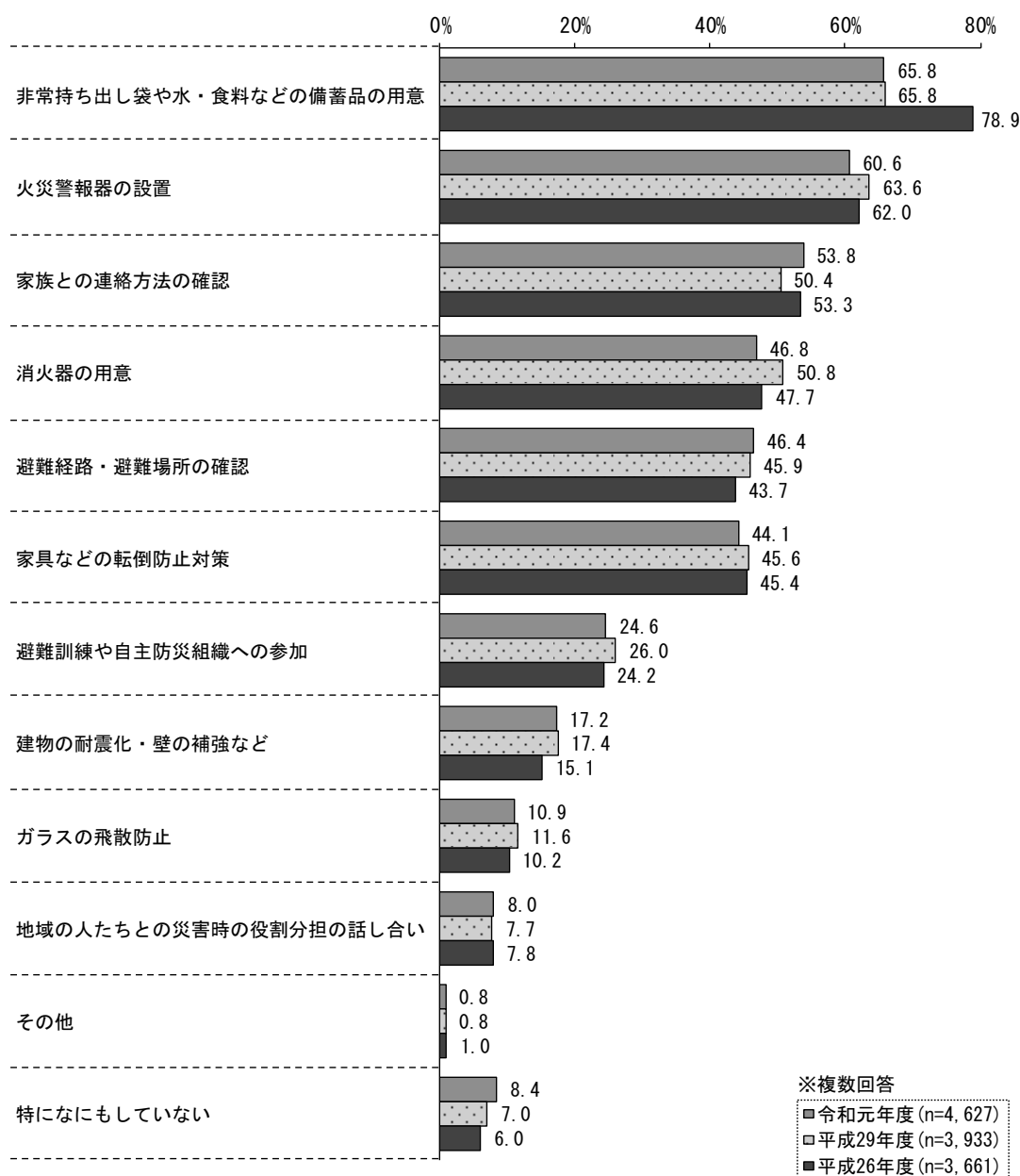
(3) 災害に対する自己対策

◎災害に対する自己対策は、「非常持ち出し袋や水・食料などの備蓄品の用意」が65.8%と最も高い

災害に対する自己対策は、「非常持ち出し袋や水・食料などの備蓄品の用意」が65.8%と最も高く、次いで「火災警報器の設置」が60.6%、「家族との連絡方法の確認」が53.8%となっている。

過年度調査と比較すると、平成29年度調査より「家族との連絡方法の確認」が3.4ポイント増加している。また、「避難経路・避難場所の確認」は、平成26年度調査以降、増加傾向にある。

図表6-3 災害に対する自己対策（経年比較）



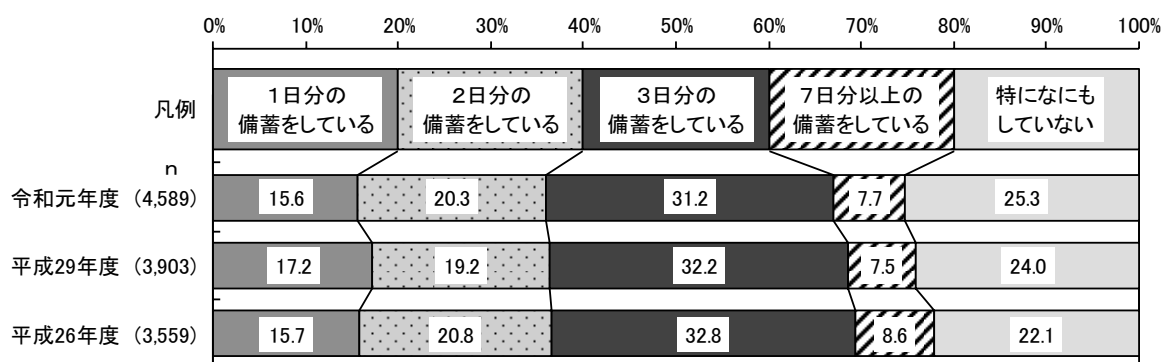
(4) 非常用備蓄品の状況

◎非常用備蓄品の状況は、「3日分の備蓄をしている」が31.2%と最も高い

非常用備蓄品の状況は、「3日分の備蓄をしている」が31.2%と最も高く、非常用備蓄品を準備している割合は74.7%となっている。

過年度調査と比較すると、「特になにもしていない」は、平成26年度調査以降、増加傾向にある。

図表6-4 非常用備蓄品の状況（経年比較）



7 「セーフコミュニティ」の認知状況

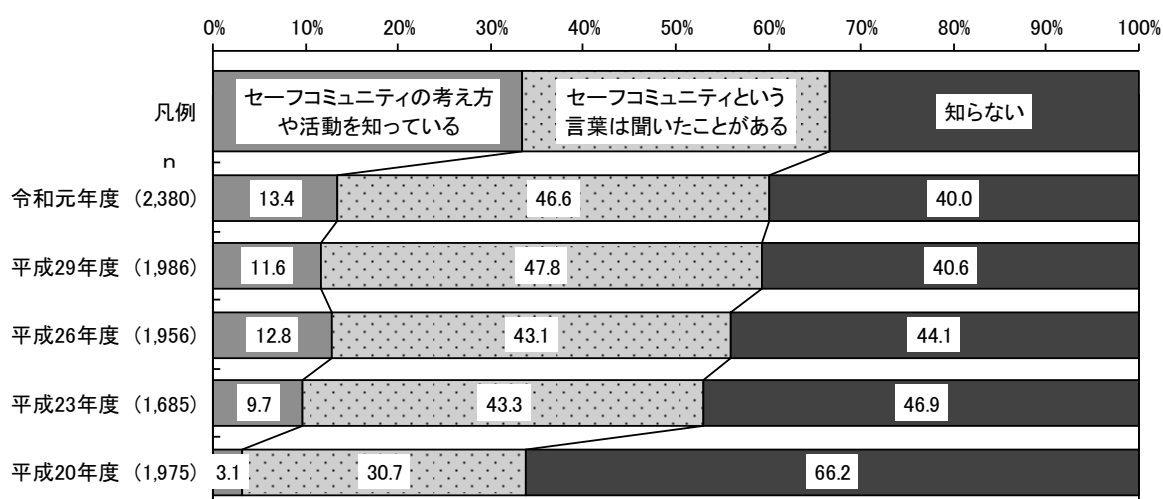
(1) 厚木市の取組の認知状況

◎「セーフコミュニティ」の認知度は、60.0%と6割を占める

「セーフコミュニティ」の認知状況は、「セーフコミュニティの考え方や活動を知っている」が13.4%、「セーフコミュニティという言葉は聞いたことがある」が46.6%となっており、認知度は60.0%と6割を占める。

過年度調査と比較すると、「セーフコミュニティ」の認知度は、平成20年度調査以降、増加傾向にある。

図表7-1 「セーフコミュニティ」の認知状況（経年比較）



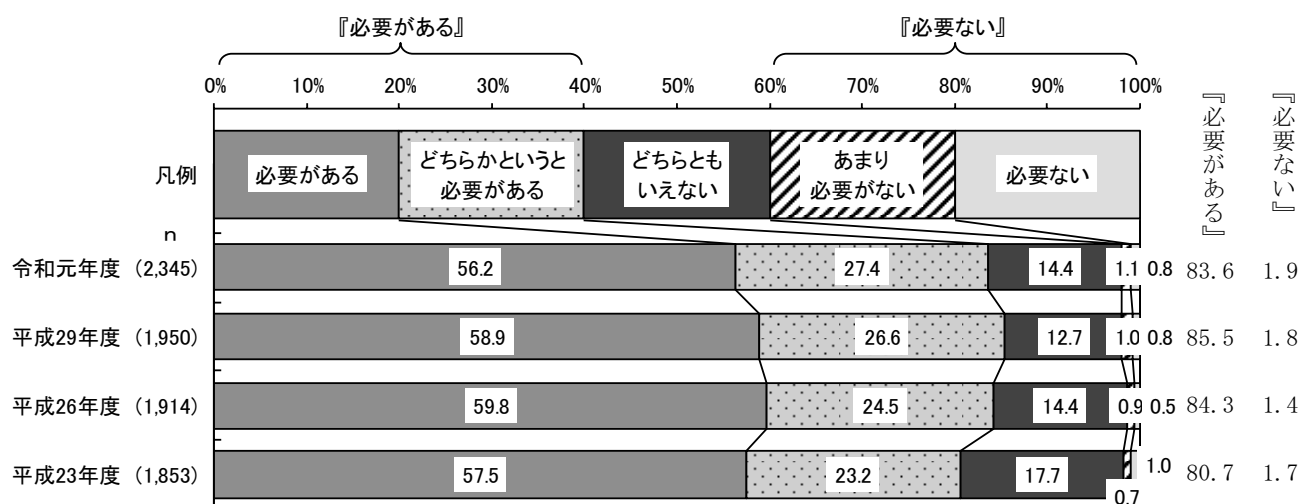
(2) 今後の「セーフコミュニティ」の取組に関する意識

◎今後の「セーフコミュニティ」の取組の推進について、『必要がある』は83.6%

今後の「セーフコミュニティ」の取組の推進について、「必要がある」が56.2%、「どちらかという必要がある」が27.4%となっており、二つを合わせた『必要がある』は83.6%となっている。

過年度調査と比較すると、「セーフコミュニティ」の取組の推進の『必要がある』は、平成29年度調査より1.9ポイント減少している。

図表7-2 今後の「セーフコミュニティ」の取組に関する意識（経年比較）



8 市民生活の安心・安全に関する意識

(1) 居住地域の安心・安全に関する意識

◎居住地域が安心・安全かについて、安心・安全だと『そう思う』割合は65.9%

居住地域が安心・安全かについて、「そう思う」が21.2%、「どちらかというと思う」が44.7%となっており、二つを合わせた『そう思う』は65.9%となっている。

過年度調査と比較すると、居住地域が安心・安全だと『そう思う』は、平成29年度調査より3.0ポイント減少しているが、『そう思わない』割合は変化がない。

◎居住地区別では、安心・安全だと『そう思う』割合は、森の里地区で84.5%と最も高い

居住地区別でみると、居住地域が安心・安全かについて、『そう思う』割合は、森の里地区で84.5%と8割半ばで最も高く、次いで南毛利南地区と玉川地区がともに75.7%、睦合西地区が71.4%となっている。

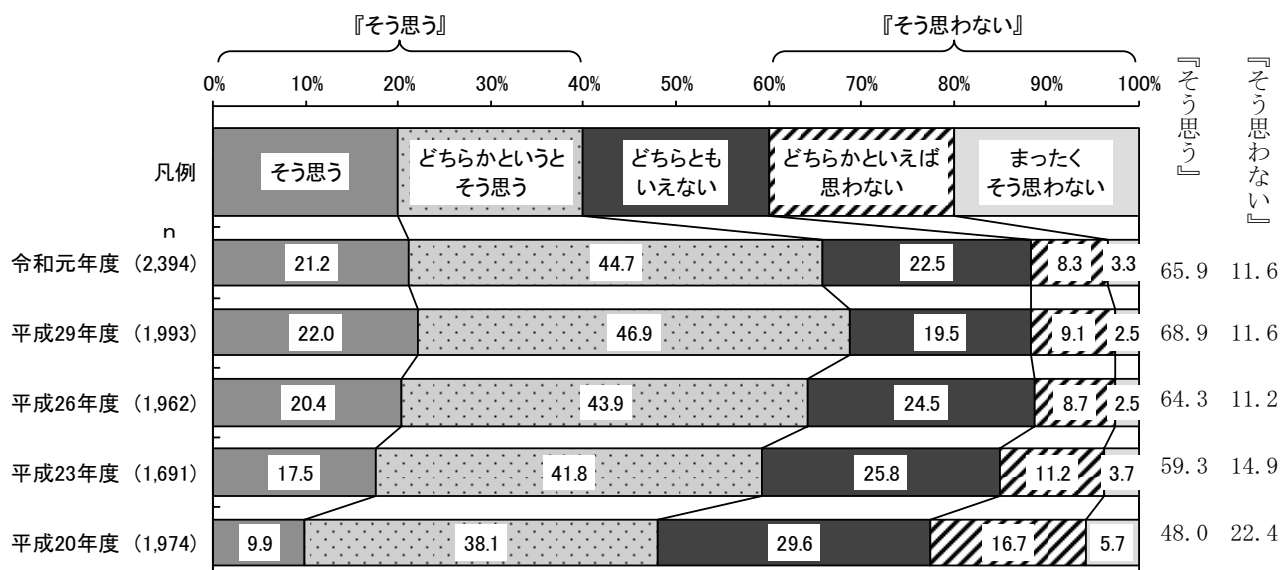
過年度調査と比較すると、居住地域が安心・安全だと『そう思う』は、平成26年度調査と比べると10地区で増加しているが、平成29年度調査と比べると半数以下の7地区で増加にとどまっており、主なものでは平成29年度調査より、南毛利南地区で8.0ポイント、相川地区で6.0ポイント増加している。反対に居住地域が安心・安全だと「どちらかといえば思わない」と「まったく思わない」を合わせた『そう思わない』の割合は、平成29年度調査より睦合北地区で12.6ポイント、玉川地区で10.8ポイント増加している。

◎現在の近所付き合いの状況別では、安心・安全だと『そう思う』割合は、近所付き合いの親密さが深いほど高い

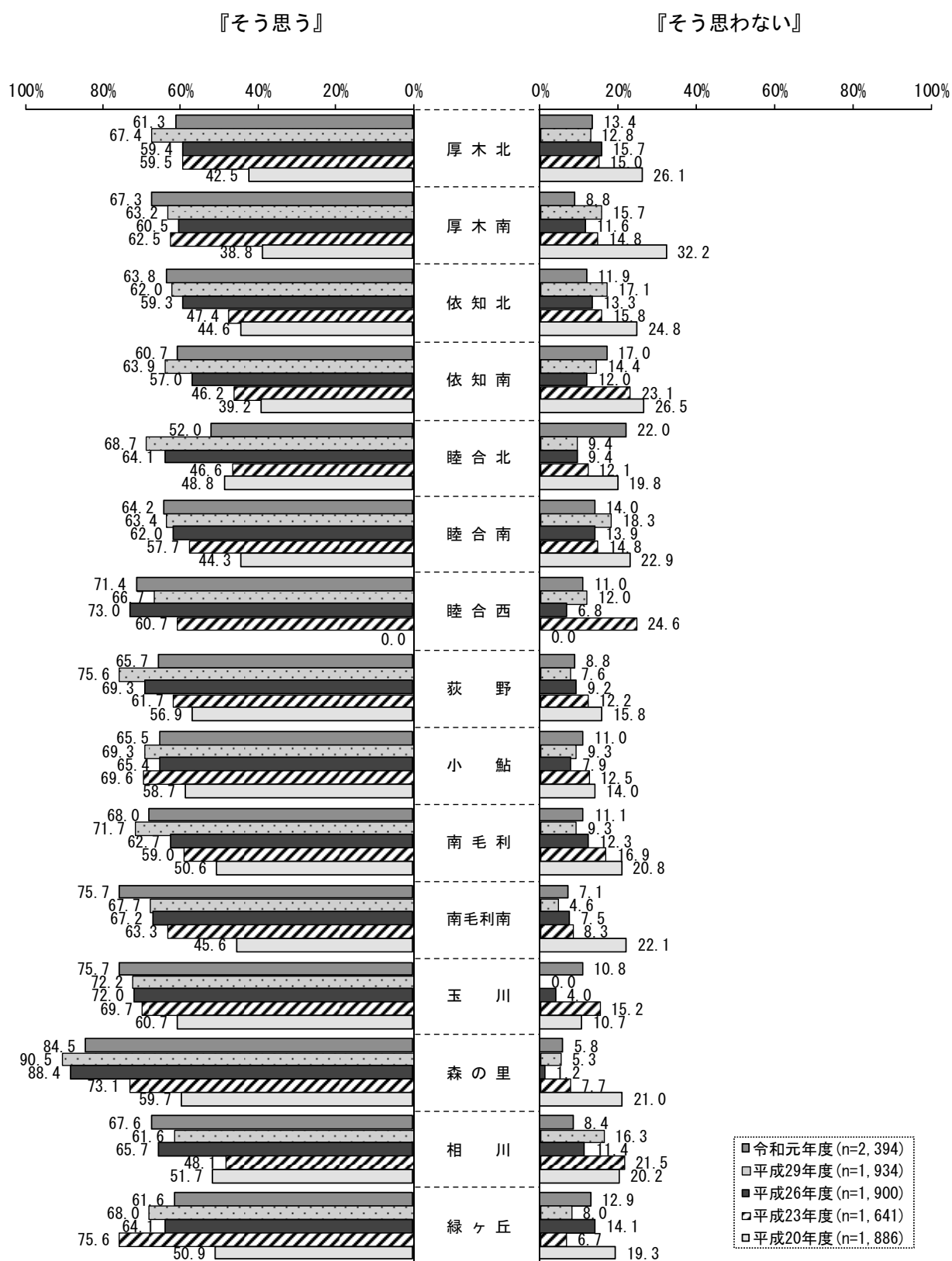
現在の近所付き合いの状況別でみると、居住地域が安心・安全かについて、『そう思う』割合は、現在の近所付き合いの親密さが深いほど高くなる傾向にあり、“互いに相談しあうような、生活面での協力関係ができる程度”で73.7%と最も高い。

過年度調査と比較すると、平成20年度調査以降、同様の傾向となっている

図表8-1 居住地域の安心・安全に関する意識（経年比較）

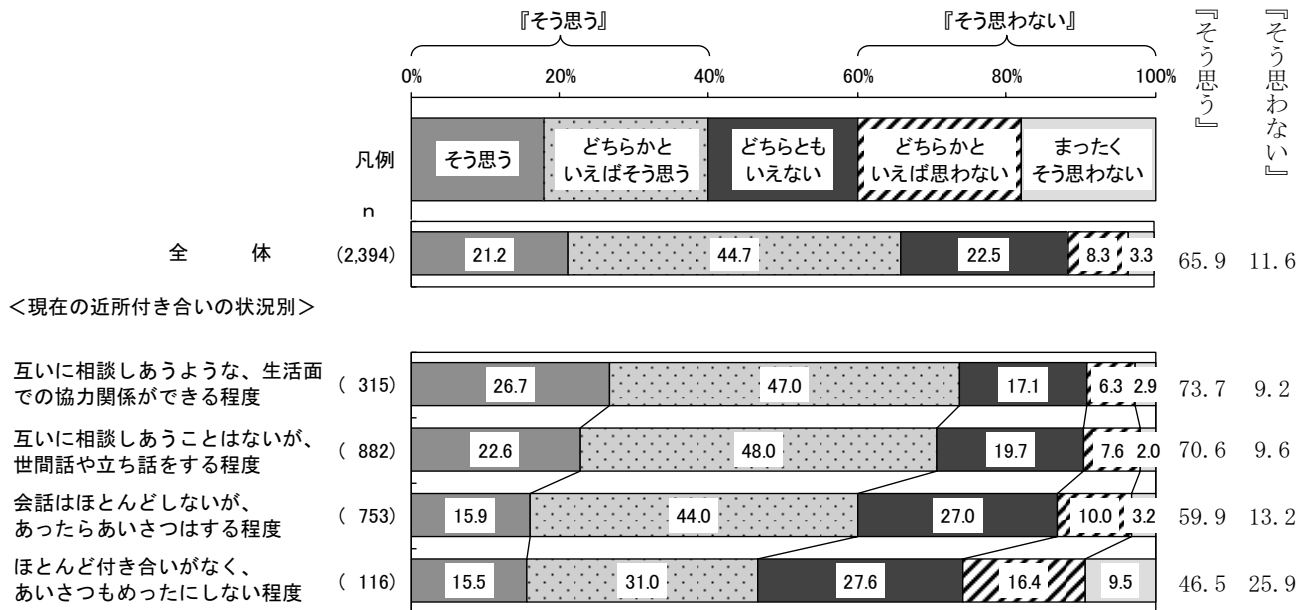


図表 8-2 居住地の安心・安全に関する意識（居住地区別、経年比較）

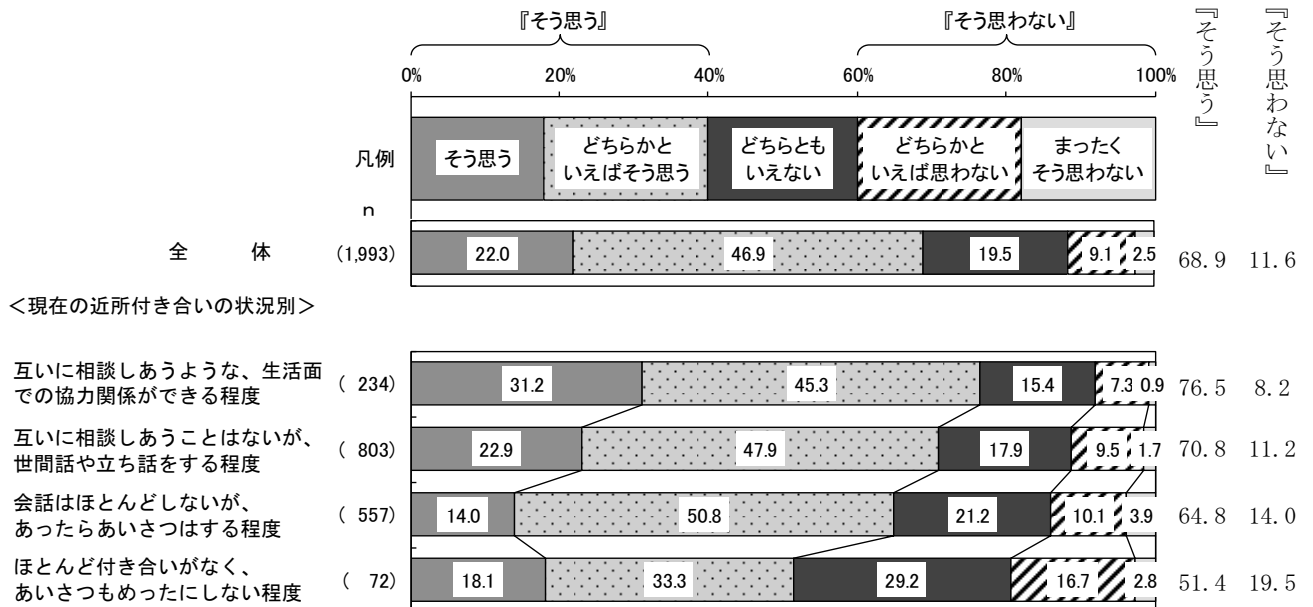


図表 8-3 市民生活の安心・安全に関する意識（現在の近所付き合いの状況別、経年比較）

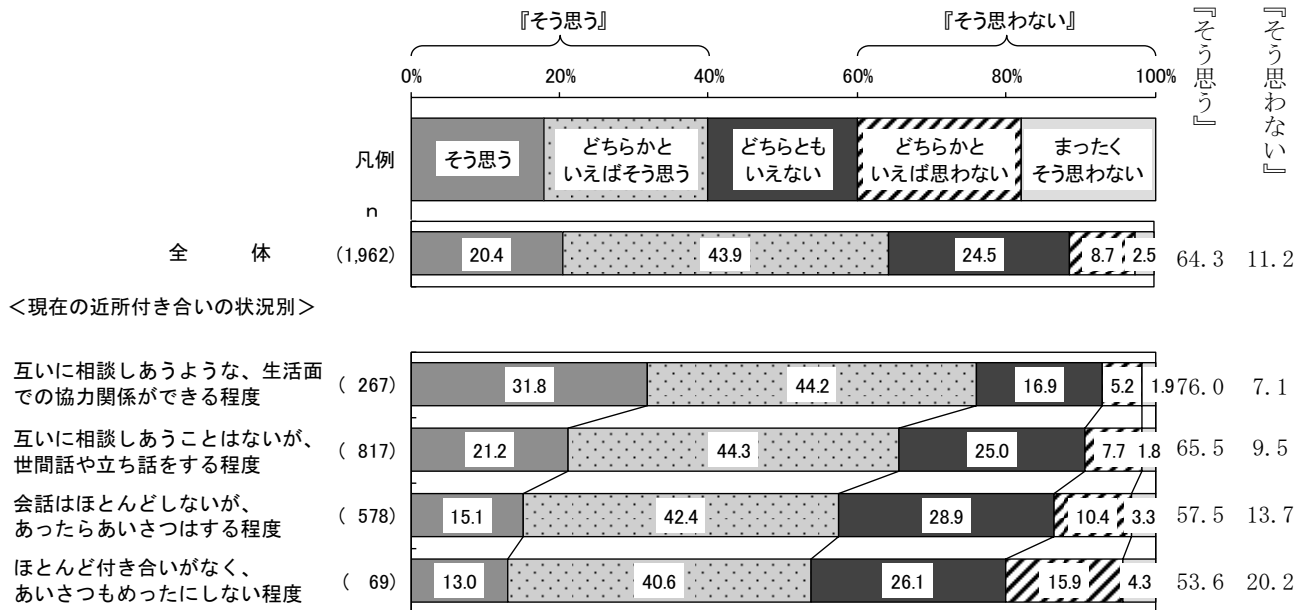
【令和元年度調査】



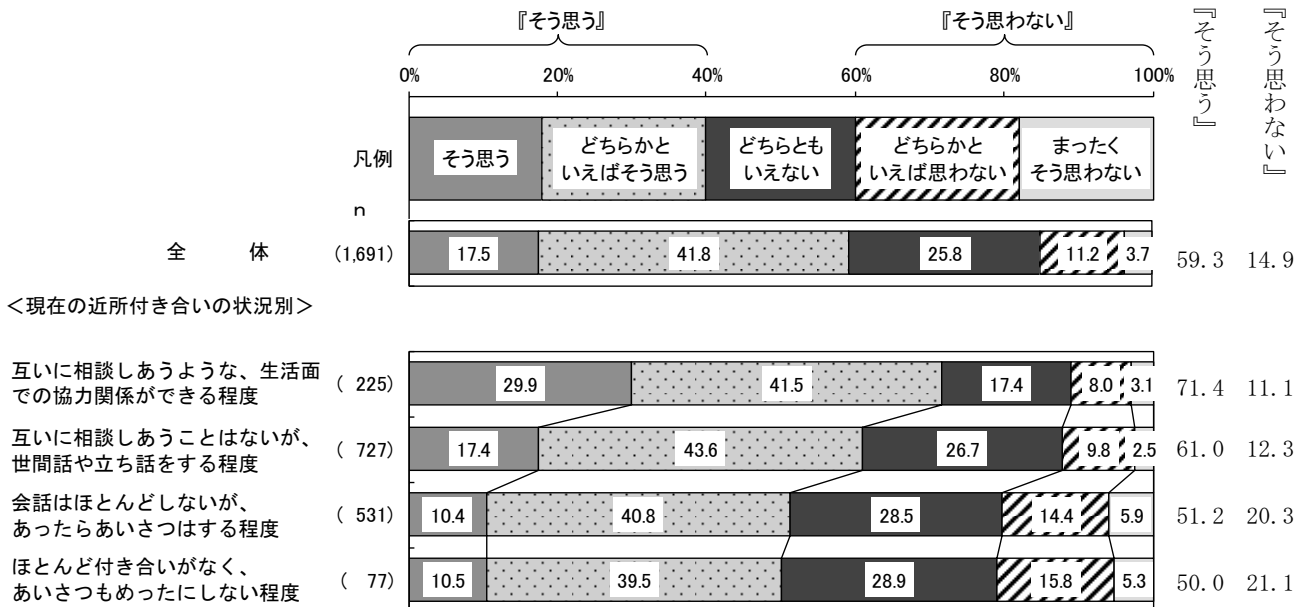
【平成 29 年度調査】



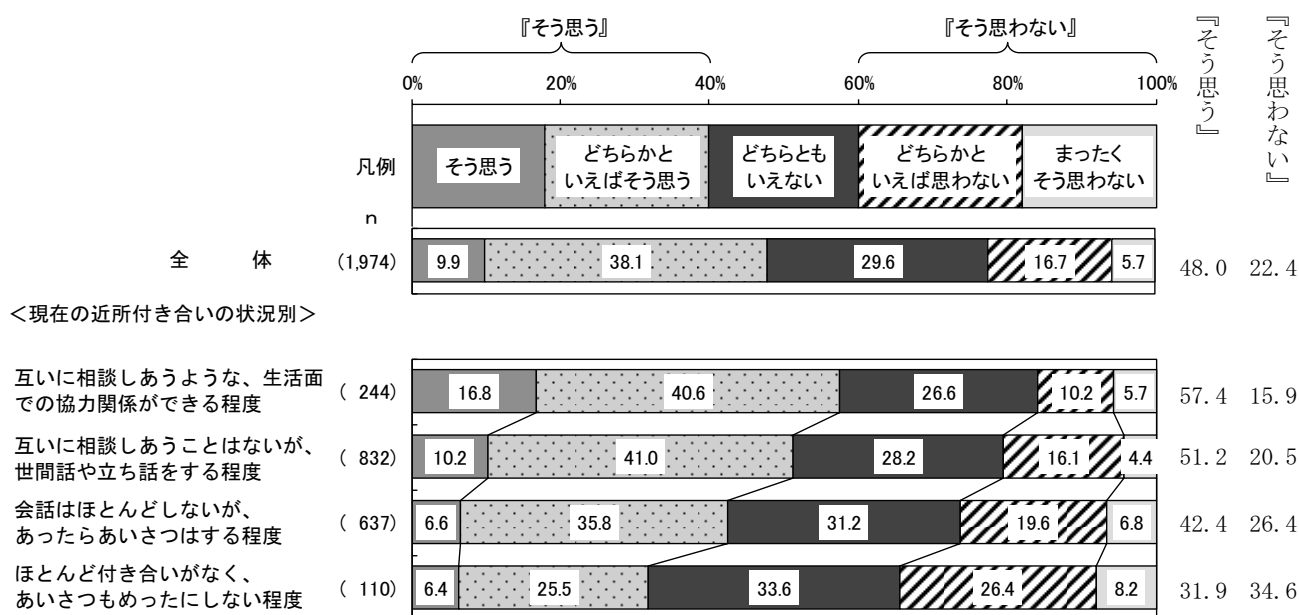
【平成 26 年度調査】



【平成 23 年度調査】



【平成 20 年度調査】



(2) 近所付き合いと安心・安全に関する意識

◎現在の近所付き合いの状況は、ある程度近所付き合いのある人の割合が58.2%

現在の近所付き合いの状況は、「互いに相談しあうような、生活面での協力関係ができる程度」が15.2%、「互いに相談しあうことはないが、世間話や立ち話をする程度」が43.0%となっており、この二つを合わせた、ある程度近所付き合いのある人の割合が58.2%となっている。

過年度調査と比較すると、ある程度近所付き合いのある人の割合は、平成20年度調査以降で最も低い。

◎今後の近所付き合いの意向は、「互いに相談しあうような、生活面での協力関係ができる程度」が26.7%

今後の近所付き合いの意向は、「互いに相談しあうような、生活面での協力関係ができる程度」が26.7%、「互いに相談しあうことはないが、世間話や立ち話をする程度」が47.4%となっており、この二つを合わせた、ある程度の近所付き合いの意向が74.1%と、今後より近所付き合いを深めたいと希望する割合が高くなっている。

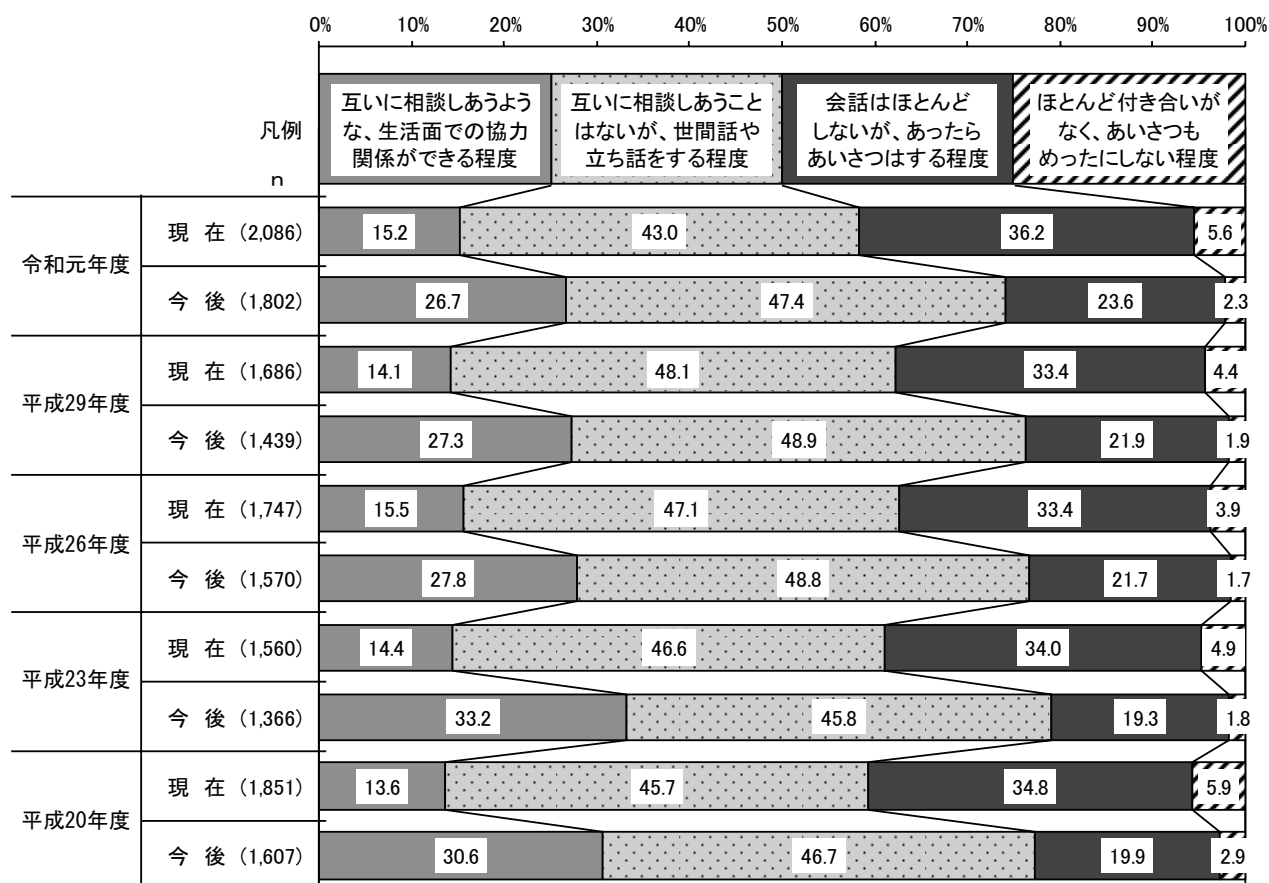
過年度調査と比較すると、ある程度の近所付き合いの意向の割合は、平成23年度調査から減少傾向にあり、平成20年度調査以降で最も低い。

◎居住地域の安心・安全に関する意識別では、今後より近所付き合いを深めたいと希望する人は、居住地域が安心・安全だと思う割合が高い

今後の近所付き合いの意向を、居住地域の安心・安全に関する意識別でみると、今後より近所付き合いを深めたいと希望する人は、居住地域が安心・安全だと思う割合が高くなっている。

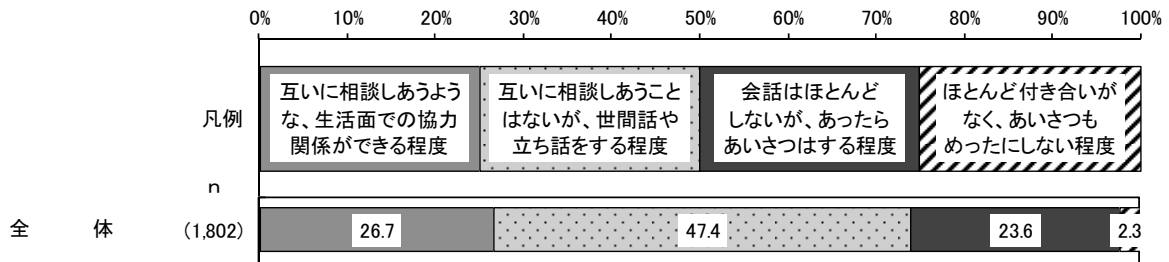
過年度調査と比較すると、平成20年度調査以降、同様の傾向となっている

図表8-4 現在の近所付き合いの状況と今後の意向（経年比較）

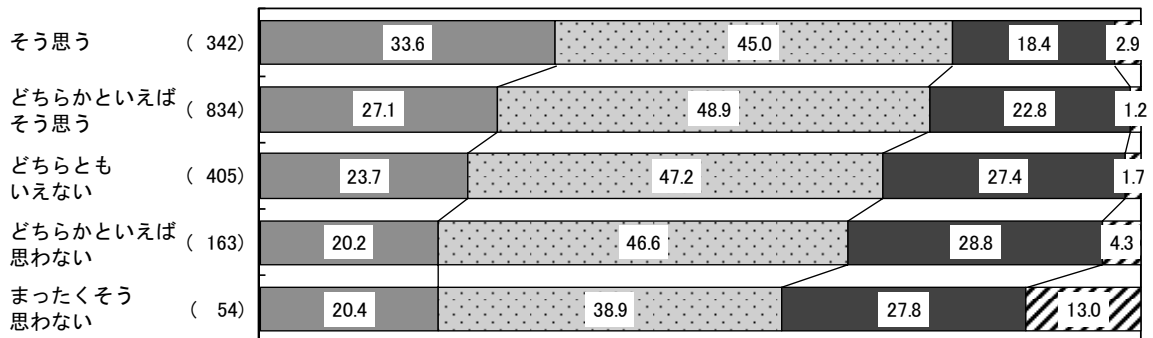


図表 8-5 今後の近所付き合いの意向（居住地域の安心・安全に関する意識別、経年比較）

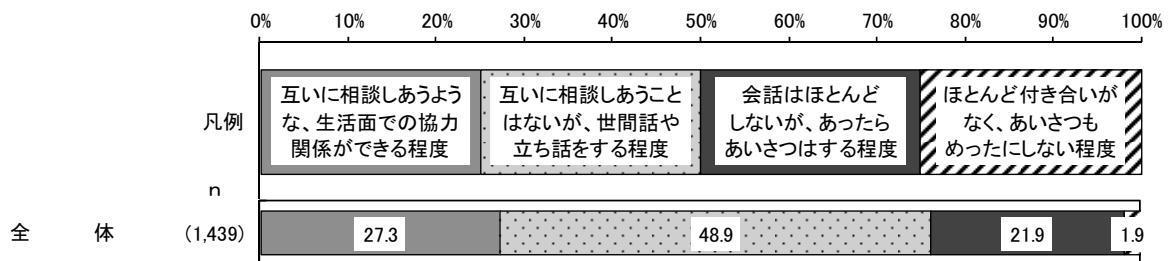
【令和元年度調査】



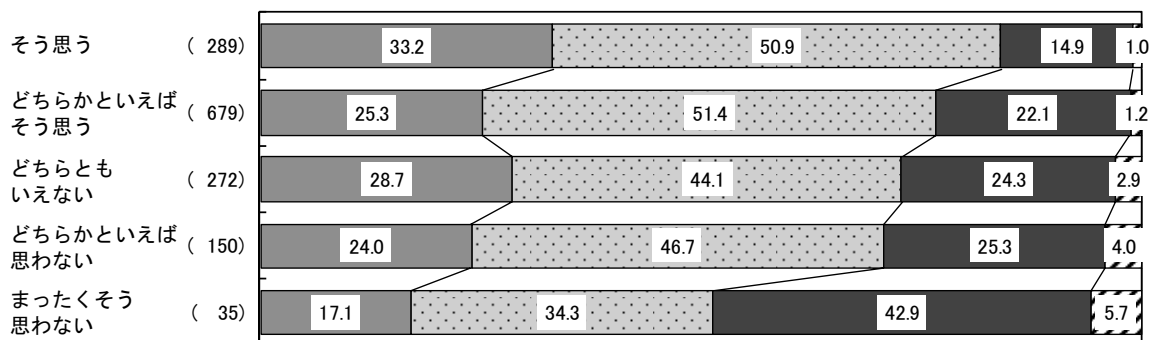
<居住地域の安心・安全に関する意識別>



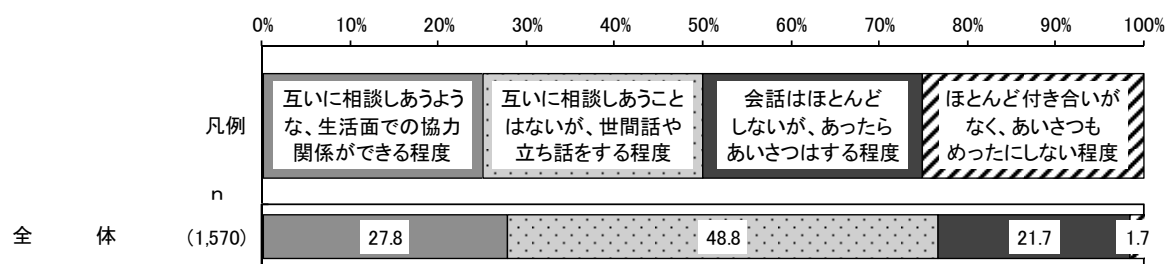
【平成 29 年度調査】



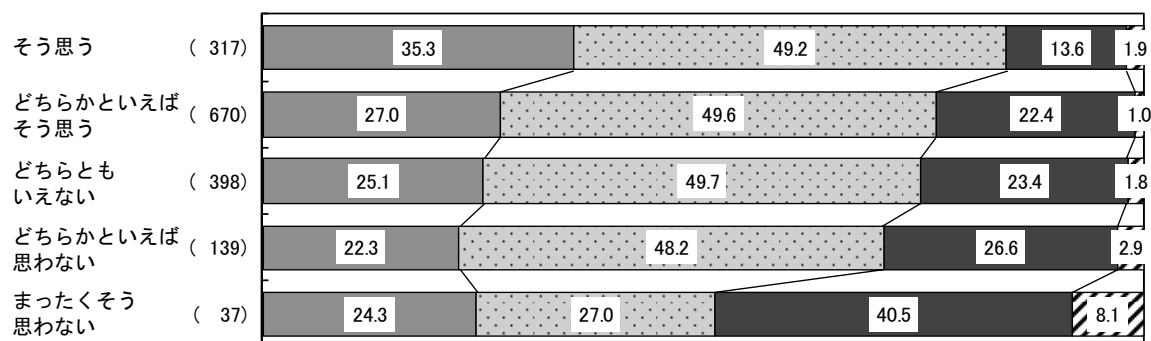
<居住地域の安心・安全に関する意識別>



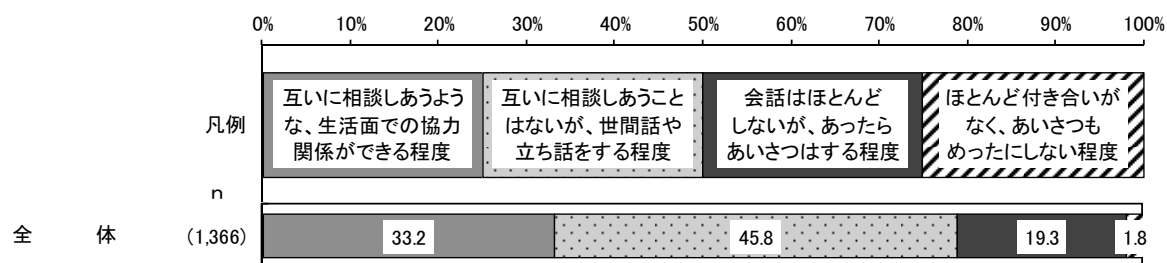
【平成 26 年度調査】



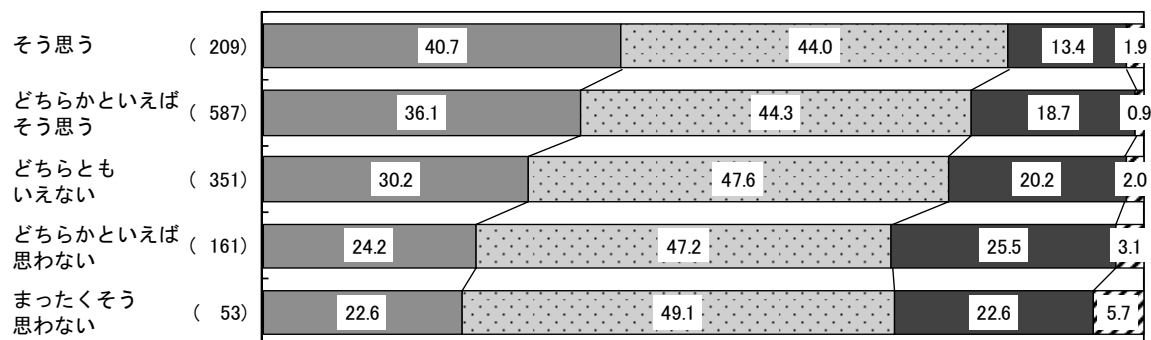
<居住地域の安心・安全に関する意識別>



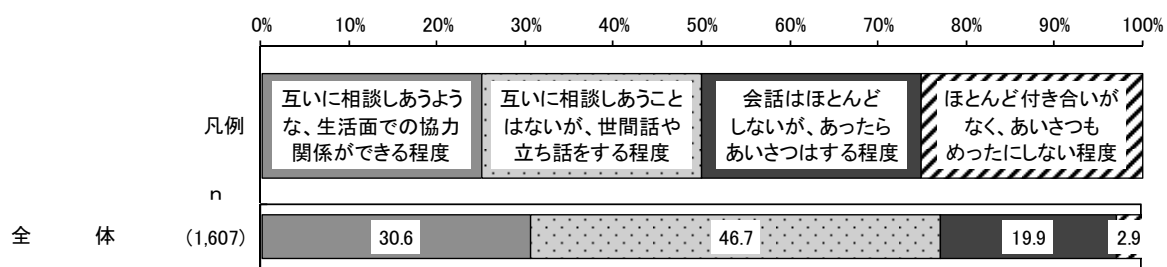
【平成 23 年度調査】



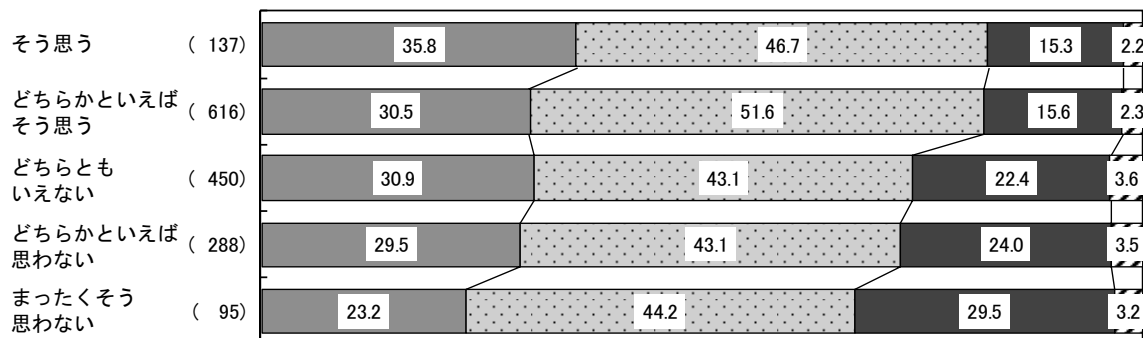
<居住地域の安心・安全に関する意識別>



【平成 20 年度調査】



<居住地域の安心・安全に関する意識別>



IV 調査票

世帯票

世帯主あるいは世帯を代表される方、どなたかお一人の方が、世帯を代表してご記入ください。

あなたの世帯についておたずねします

問1. お住まいのある地区は、次のどこですか。(1つに○) n=2,342

1. 厚木北 (11.1) 2. 厚木南 (9.2) 3. 依知北 (6.9) 4. 依知南 (4.0) 5. 睦合北 (4.3)
6. 睦合南 (7.6) 7. 睦合西 (3.9) 8. 荻野 (12.2) 9. 小鮎 (6.3) 10. 南毛利 (16.2)
11. 南毛利南 (4.2) 12. 玉川 (1.6) 13. 森の里 (4.4) 14. 相川 (4.7) 15. 緑ヶ丘 (3.3)

問2. あなたは現在のお住まいに住んで何年になりますか。(1つに○) n=2,391

1. 1年未満 (3.2) 2. 1年以上5年未満 (12.0) 3. 5年以上10年未満 (11.0)
4. 10年以上15年未満 (9.5) 5. 15年以上20年未満 (10.2) 6. 20年以上 (54.1)

問3. 現在、一緒に暮らしているご家族はあなたを含めて何人ですか。

自分も含めて 人

ご家族のうち、過去1年の間にけがをした方は何人いますか。

自分も含めて 人

ご家族のうち次の1～6に該当する方はいますか。(当てはまるものすべてに○) n=607

1. 12歳未満の女の子 (21.3) 2. 12歳未満の男の子 (23.9)
3. 12歳以上18歳未満の女の子 (19.3) 4. 12歳以上18歳未満の男の子 (18.5)
5. 介助、見守りの必要な18歳以上65歳未満の方 (6.6)
6. 介助、見守りの必要な65歳以上の方 (33.6)

問4. あなたのお住まいの種類は次のうちどれですか。(1つに○)

なお、「3. 集合住宅」に該当する方は何階にお住まいかご記入ください。

n=2,384

1. 戸建て(平屋) (7.3) 2. 戸建て(2階以上) (57.0) 3. 集合住宅(階) (33.8)
4. その他() (1.8)

セーフコミュニティについておたずねします

問5. 平成22年11月に厚木市はWHO(世界保健機関)が推奨するセーフコミュニティ認証を取得しました。あなたは、セーフコミュニティの取組をご存知ですか。(1つに○)

n=2,380

1. セーフコミュニティの考え方や活動を知っている (13.4)
2. セーフコミュニティという言葉は聞いたことがある (46.6)
3. 知らない (40.0)

問6. 市民や行政などが協働して、安心・安全なまちづくりを進めるセーフコミュニティの取組を、今後も継続して推進していく必要があると思いますか。(1つに○) n=2,345

1. 必要がある (56.2) 2. どちらかといえば必要がある (27.4) 3. どちらともいえない (14.4)
4. あまり必要がない (1.1) 5. 必要ない (0.8)

厚木市での暮らしについておたずねします

問7. あなたのお住まいの地域は、総じて安心で安全だと思いますか。(1つに○) n=2,394

1. そう思う (21.2) 2. どちらかといえばそう思う (44.7) 3. どちらともいえない (22.5)
4. どちらかといえば思わない (8.3) 5. まったくそう思わない (3.3)

問 8. あなたは、ご近所の方との程度お付き合いがありますか。また、今後はどの程度お付き合いをしていきたいですか。(現在、今後、それぞれ該当する欄1つに○) n=2,086 n=1,802

お 付 き 合 い の 程 度	現 在	今 後
1. 互いに相談しあうような、生活面での協力関係ができる程度	15.2	26.7
2. 互いに相談しあうことはないが、世間話や立ち話をする程度	43.0	47.4
3. 会話はほとんどしないが、あったらあいさつはする程度	36.2	23.6
4. ほとんど付き合いがなく、あいさつもめったにしない程度	5.6	2.3

**お子さん（0～15歳未満）がいる方におたずねします
（2人以上いる方は年齢が一番下のお子さんについてお答えください）**

問 9. お子さんの年齢をご記入ください。(数字を記入ください) 歳

問 10. 過去1年の間に、お子さんが自宅以外で、事故やけがをした状況についてお答えください。その際、回りに大人はいましたか。医療機関には行きましたか。(当てはまるものすべてに○)

けがをした状況	n=245	n=79	n=52
	該当するものに○	大人がいた場合に○	医療機関に行った場合に○
1. 海や川、プールなどでおぼれた	1.6	3.8	0.0
2. 交通事故（単独、自転車・自動車の乗車中）	4.1	8.9	11.5
3. 道路や歩道を走っていて転倒	16.3	40.5	13.5
4. 公園（ブランコ・すべり台・鉄棒）でのけが	7.3	15.2	7.7
5. 動物や虫などによるけが	5.3	13.9	7.7
6. 人や物（例：電柱等）に衝突	1.6	2.5	3.8
7. 階段や高所からの転落	3.3	6.3	11.5
8. 建物や車両などのドアに挟まれたけが	1.6	3.8	3.8
9. 学校でのけが・事故（クラブ活動中なども含む）	13.1	27.8	32.7
10. 保育園・幼稚園でのけが・事故	9.0	24.1	13.5
11. その他（具体的に：_____）	3.3	8.9	13.5
12. けがはしていない	58.0		

問 11. 過去1年の間に、お子さんが自宅で、事故やけがをした状況についてお答えください。その際、回りに大人はいましたか。医療機関には行きましたか。(当てはまるものすべてに○)

けがをした状況	n=231	n=71	n=13
	該当するものに○	大人がいた場合に○	医療機関に行った場合に○
1. ベッドや椅子などから転落	10.4	33.8	15.4
2. ベランダや窓の手すりを乗り越え高所から転落	0.4	0.0	7.7
3. 階段から転落	2.2	4.2	0.0
4. たばこやおもちゃなどの異物誤飲	1.3	4.2	7.7
5. 就寝中の窒息	0.4	1.4	0.0
6. 火気や熱湯、暖房器具などの接触によるやけど	1.7	5.6	7.7
7. 入浴中の溺水	1.3	2.8	0.0
8. 廊下や浴室などでの転倒	7.4	21.1	0.0
9. 刃物や鋭利なものによるけが	1.3	4.2	0.0
10. 家具や物に体をぶつけるなどの衝突	18.2	60.6	23.1
11. ドアや窓、家具などで挟まれたけが	10.4	29.6	7.7
12. 動物や虫などによるけが	4.8	11.3	15.4
13. その他（具体的に：_____）	2.6	7.0	15.4
14. けがはしていない	68.0		

個人票

15歳以上の方お一人ずつご記入ください。世帯票を記入された方もご記入ください。

事故やけがについておたずねします

問1. 自宅以外での、事故やけがの状況についてお聞きします。

1-1. 過去1年の間に自宅以外でけがをして手当てを受けたことがありますか。
軽傷、重傷を問わずお答えください。(該当する欄に○あるいは数字を記入) n= 4, 521

	該当するものに○	けがをした回数
1. けがはしていない	85.8	/
2. けがをしたが、医療機関へは行かなかった	6.9	回
3. けがをして、医療機関に通院した	7.1	回
4. けがをして、医療機関に入院した	1.1	回

1-2. 1-1で、過去1年の間に自宅以外で「けがをした」と回答した方におたずねします。

けがをした原因はなんですか。 n= 630
(当てはまるものすべてに○、そのうち、通院や入院したものには◎をつけてください)

1. 交通事故 (11.0) 2. 転倒 (46.3) 3. 転落 (4.0)
 4. 接触または衝突 (7.0) 5. 切傷・刺傷 (22.1) 6. 挟まれた・加圧 (7.0)
 7. 虫刺、咬傷(ハチ、動物など) (7.0) 8. その他 () (13.8)

1-3. 1-1の「過去1年の間に自宅以外でけがをした」場所はどこですか。

(当てはまるものすべてに○)

n= 613

1. 道路・歩道 (45.7) 2. 学校 (9.1) 3. 勤務先 (23.2) 4. 農地・林地 (3.6)
 5. 公園 (3.6) 6. 駅 (3.4) 7. 商業・飲食・娯楽施設 (4.4)
 8. スポーツ施設 (6.5) 9. その他 () (12.2)

問2. 自宅での、事故やけがの状況についてお聞きします。

2-1. 過去1年の間に自宅でけがをして手当てを受けたことがありますか。軽傷、重傷を問わずお答えください。(該当する欄に○あるいは数字を記入) n= 4, 088

	該当するものに○	けがをした回数
1. けがはしていない	87.8	/
2. けがをしたが、医療機関へは行かなかった	7.9	回
3. けがをして、医療機関に通院した	3.9	回
4. けがをして、医療機関に入院した	0.6	回

2-2. 2-1で、過去1年の間に自宅で「けがをした」と回答した方におたずねします。一番大きなけがをした原因はなんですか。(1つに○) n= 483

1. 転倒 (24.8) 2. 転落 (7.0) 3. 切傷・刺傷 (38.5) 4. 挟まれた・加圧 (4.6)
 5. 火傷 (12.2) 6. 異物誤飲 (0.4) 7. その他 () (12.4)

2-3. 「過去1年の間に自宅で一番大きなけがをした」場所はどこですか。(1つに○)

n=452

1. 居室 (24.1) 2. 廊下 (4.4) 3. 階段 (8.2) 4. トイレ (1.3)
 5. 浴室 (2.9) 6. 台所 (34.7) 7. 庭 (15.0) 8. その他 () (9.3)

犯罪被害や不安などについておたずねします

問3. あなたがお住まいの地域の治安について、1年前と比べてよくなったとおもいますか、悪くなったとおもいますか。(1つに○)

n=4,414

1. 良くなった (3.1) 2. 変わらない (72.6) 3. 悪くなった (12.5) 4. わからない (11.8)

問4. あなたは、日頃、ご自身や家族が犯罪被害などにあうのではないかと不安をどの程度感じていますか。(ア～トのそれぞれについて、1～4の番号のうち1つに○)

なお、該当しない場合(自転車、パソコンを持っていない、子どもはいない等)は、「5」に○をつけてください。

項目	n	非常に不安	かなり不安	やや不安	不安はない	該当しない
ア. 暴行や傷害などの暴力的な犯罪にあう不安	4,386	6.1	8.3	52.7	32.9	
イ. 自宅にどろぼう(空き巣など)に入られる不安	4,486	11.5	16.7	53.6	18.2	
ウ. ひったくりにあう不安	4,437	5.8	11.9	50.3	32.0	
エ. 自転車を盗まれる不安	4,467	6.6	11.1	31.7	21.9	28.6
オ. 自動車やオートバイを盗まれる不安	4,469	6.8	9.7	37.2	24.2	22.2
カ. 自動車内の部品や金品を盗まれる不安	4,462	6.3	10.3	40.9	23.9	18.7
キ. 痴漢にあう不安	4,341	5.3	7.4	33.2	54.2	
ク. 振り込め詐欺や悪質商法などの詐欺犯罪にあう不安	4,487	8.2	13.4	42.5	35.9	
ケ. 自宅や自動車などが落書きをされたり、壊されたりする不安	4,431	6.7	9.6	44.8	38.9	
コ. 不審者に声をかけられるなどの不安	4,412	6.0	10.6	44.0	39.3	
サ. 子どもが不審者に声をかけられたり、連れ去られたりする不安	4,436	7.9	10.3	20.5	14.3	47.0
シ. 人につきまとわれたり、のぞかれたりする不安	4,390	6.5	9.6	41.4	42.5	
ス. インターネットを利用した犯罪の被害にあう不安	4,475	9.5	16.2	38.6	19.4	16.3
セ. 凶悪犯罪(殺人、放火、強盗、強姦)にまきこまれる不安	4,445	7.4	10.8	49.7	32.1	
ソ. 地震や風水害にあう不安	4,522	17.4	26.9	43.7	12.0	
タ. テロに巻き込まれる不安	4,430	4.9	8.4	38.3	48.4	
チ. 飲酒運転による交通事故、ひき逃げなどの悪質・危険な交通法令違反の被害にあう不安	4,470	11.5	18.8	51.7	18.1	
ツ. いやがらせやいたずらなどをされる不安	4,455	7.3	10.9	46.4	35.5	
テ. その他の不安(具体的に)	2,706	5.0	5.2	16.7	73.1	
ト. 全体的に	3,775	3.8	10.1	54.7	31.5	

問5. あなたがお住まいの地域の状況について、不安をどの程度感じていますか。

(ア～ソのそれぞれについて、1～4の番号のうち1つに○)

項 目	n	非常に不安	かなり不安	やや不安	不安はない
ア. 空きビルや空き店舗、使われていない倉庫がある	4,430	2.6	5.7	26.1	65.6
イ. 繁華街での客引き、キャッチセールスが目に付く	4,408	4.9	9.4	27.2	58.5
ウ. 夜、街灯が暗いところがある	4,470	13.5	19.3	44.1	23.1
エ. 木や茂みなど管理が行き届いていない場所がある	4,449	10.7	17.1	40.0	32.2
オ. 人通りの少ない道	4,471	12.8	21.3	46.5	19.4
カ. 風俗産業などの看板やチラシなどが目に付く	4,427	4.4	6.5	23.7	65.4
キ. スプレーによる落書きがある	4,445	4.1	7.6	32.0	56.4
ク. ごみやタバコの吸殻が散乱している	4,471	6.2	10.8	38.6	44.4
ケ. 路上への違法駐車や放置自転車がある	4,455	5.7	10.4	38.0	45.9
コ. 少年などのたむろ、たまり場がある	4,432	3.5	7.6	28.9	60.1
サ. 近所づきあいのない人がいる	4,456	4.4	8.9	42.6	44.1
シ. ゴミ出しルールや騒音を出すなど、地域のルールやマナーを守らない人がいる	4,484	8.1	13.4	37.7	40.7
ス. 近所にトラブルを起こす人がいる	4,430	4.1	5.7	26.5	63.7
セ. その他の不安(具体的に)	2,678	3.8	3.3	14.4	78.5
ソ. 全体的に	3,667	3.1	7.0	43.2	46.7

問6. あなたは、犯罪被害に巻き込まれないために、どのような対策をとっていますか。

(当てはまるものすべてに○)

n=4,605

1. 夕方等に部屋の明かりをつけたり、テレビの音を出すなど、家に人がいると思わせるようにする (45.0)
2. 外出時に玄関や窓に鍵をかける (95.0)
3. 夜間に門灯・玄関灯をつける (43.2)
4. 街灯や防犯灯のランプが切れていたら管理者に連絡する (29.3)
5. センサーライトの設置 (29.8)
6. 留守にするときには隣近所に声をかける (13.1)
7. 自転車の防犯登録 (39.3)
8. 警備会社のホームセキュリティサービスの利用 (5.6)
9. 地域パトロール活動への参加 (11.2)
10. 市が発信している防犯・防災情報「ケータイ SOS ネット」に登録している (8.7)
11. 家財の盗難など犯罪被害にあったときのための損害賠償保険(任意)に加入している (19.3)
12. 防犯ブザー等の防犯グッズを携帯している (6.8)
13. その他 () (2.4)
14. 特になにもしていない (2.0)

問7. 犯罪を抑止するための対策として、それぞれの事柄についてどの程度重要だと思いますか。
 (ア～キのそれぞれについて、1～4の番号のうち1つに○)

項 目	n	重要 である	どちらかとどちらかと いえば重要いえば重要 である である	重要 でない	重要 でない
ア. 個人の防犯対策	4,468	67.1	30.1	2.2	0.6
イ. 地域住民の防犯ボランティア	4,395	28.4	59.0	10.6	1.9
ウ. 自治体の防犯活動への取組み	4,415	39.5	52.0	7.4	1.2
エ. 市民と行政との協働による犯罪抑止への取組み	4,387	45.1	48.1	5.9	1.0
オ. 警察の防犯活動の充実	4,433	68.1	28.4	2.7	0.8
カ. 企業や事業者による地域の防犯活動への取組み	4,363	30.6	53.2	14.0	2.2
キ. 学校における防犯対策	4,372	57.4	35.6	5.7	1.3

自転車の利用についておたずねします

問8. あなたは自転車を利用していますか。(どちらかに○) n=4,559

1. 利用している (問9～問15をお答えください。) (35.8)
2. 利用していない (自転車の利用について質問は以上です。問16にお進みください。) (64.2)

問9. 主にどのようなときに自転車を利用していますか。(1つに○) n=1,589

1. 通勤・通学 (30.3)
2. 買い物・飲食 (45.9)
3. 余暇活動 (15.8)
4. 子どもの送り迎え (1.1)
5. 業務(仕事) (2.8)
6. その他 () (4.0)

問10. 次の自転車の利用、交通ルールについてご存知ですか。(知っているものすべてに○)

n=1,607

1. 道路交通法上、自転車は軽車両と位置づけられ、車道通行が原則 (92.2)
2. 車道では、左側を通行 (94.7)
3. 歩道では歩行者優先で、車道寄りを走行 (87.1)
4. 飲酒運転の禁止 (96.0)
5. 二人乗りの禁止 (6歳未満の子ども一人の場合を除く) (93.4)
6. 並進の禁止 (「並進可」標識のある場所を除く) (76.5)
7. 夜間はライトを点灯 (98.6)
8. 信号を守る (98.6)
9. 交差点での一時停止と安全確認 (89.5)
10. 子ども(13歳未満)はヘルメットを着用 (64.8)
11. 運転中の携帯電話や傘さし運転の禁止 (96.0)
12. 知っているものはない (0.0)

問 11. 普段、自転車を利用しているときに、どのようなことで不安や危険を感じますか。

(最も当てはまるもの3つまで○)

n=1,590

1. 車道と歩道の段差や砂利道などで走行しにくいこと (54.8)
2. 歩道と車道の区分がなく、歩行者や自動車と接触しそうになること (53.0)
3. 信号のない交差点や、カーブなどによる見通しの悪い道路 (36.9)
4. 街灯がなく、暗い道で走行すること (15.6)
5. 道幅いっぱいになって歩く歩行者 (32.4)
6. 自転車や自動車との出会いがしらでの衝突の危険性 (25.3)
7. 他の自転車利用者のスピードの出し過ぎ (16.5)
8. 路上の放置自転車や看板などの障害物 (3.4)
9. 信号や一時停止の無視など交通ルールが守られていない (14.8)
10. 乗車中の携帯電話の使用など交通マナーやモラルの低下 (23.3)
11. 自転車の盗難やいたずらなどの犯罪被害 (7.7)
12. その他 () (2.5)
13. 特に感じない (0.9)

問 12. 自転車を利用していて、過去5年間に、転倒や接触、衝突などによる、けがや事故の経験はありますか。ある方は件数をお書きください。(どちらかに○)

n=1,510

	過去5年間の件数
1. ある (17.1)	件
2. ない (82.9)	

⇒ 問 13 へ

⇒ 問 14 へ

問 13. 過去5年間に、自転車を利用しておきた最も大きなけがや事故についておたずねします。

13-1. けがや事故がおきた時間帯はいつですか。(1つに○)

n=253

1. 早朝 (5:00頃~7:00頃) (9.5)
2. 朝の通勤・通学時間帯 (24.5)
3. 昼間 (通勤・通学時間以外) (33.2)
4. 夕方の帰宅時間帯 (22.5)
5. 夜間 (19:00頃~22:00頃) (7.9)
6. 深夜 (22:00頃~5:00頃) (2.4)

13-2. 医療機関で手当を受けましたか。(1つに○)

n=252

1. 医療機関には行ってない (62.3)
2. 通院により手当を受けた (34.9)
3. 入院して手当を受けた (2.8)

13-3. けがや事故の状況は。(1つに○)

n=253

1. 自分だけ転倒した (59.7)
2. 歩行者と接触・衝突した (1.6)
3. 自転車同士で接触・衝突した (12.6)
4. 自動車やバイクと接触・衝突した (20.2)
5. その他 () (5.9)

13-4. けがや事故がおこった原因は。(当てはまるものすべてに○)

n=251

1. 道路が狭かった (16.3)
2. 通行量が多かった (4.8)
3. 道路に段差があった (31.9)
4. 歩道と車道の区分がなかった (8.4)
5. 信号や標識、カーブミラーがなく見通しが悪かった (10.4)
6. 街灯がなく、道路が暗かった (4.8)
7. 歩行者が道いっぱいに広がって歩いていた (8.8)
8. 携帯電話(自分あるいは相手が)をかけていた (4.0)
9. 子どもを乗せていてバランスを崩した (1.2)
10. 出会いがしらでの衝突 (16.7)
11. スピードを出し過ぎていた (13.5)
12. 信号や一時停止の無視など交通ルールを守らなかった (5.6)
13. 横断歩道のない場所で車道を横断した (2.4)
14. 路上に放置自転車や看板などの障害物があった (3.6)
15. その他 () (27.5)
16. 相手に過失があり、原因はわからない (8.0)

13-5. けがをした体の箇所は。(当てはまるものすべてに○)

n=248

1. 頭部 (6.9) 2. 顔部 (8.9) 3. 頸部 (2.0) 4. 胸部 (6.5) 5. 背部 (2.0)
6. 腰部 (10.9) 7. 腹部 (1.2) 8. 腕部 (34.3) 9. 脚部 (53.6) 10. けがをしていない (13.3)

13-6. 医療機関で手当てを受けましたか。(1つに○)

n=251

1. 医療機関には行ってない (60.6)
2. 通院により手当を受けた (36.7)
3. 入院して手当を受けた (2.8)

問 14. あなたが自転車利用の不安や危険を減少させるために日頃していることはありますか。

(当てはまるものすべてに○)

n=1,566

1. 不安や危険を感じる箇所はなるべく走行しないようにしている (58.0)
2. 交通ルール、マナーを守る (87.2)
3. 路上駐輪はしない (52.1)
4. 自分がヘルメットを着用する (5.5)
5. 子どもにヘルメットを着用させる (13.9)
6. 自転車を離れるときは鍵をかける (89.1)
7. 自転車の防犯登録 (70.6)
8. 損害賠償保険(任意)に加入している (35.3)
9. その他 () (2.4)
10. 特になにもしていない (1.0)

問 15. 自転車利用の不安や危険を改善するために必要なことはどのようなことでしょうか。

(当てはまるものすべてに○)

n=1,528

1. 事故やけがが多く発生している場所や危険箇所を把握し、その原因を明らかにして、具体的な対策を講じる (63.4)
2. 交通ルール、マナー・モラルの向上の周知・啓発、運転技術を高める講習・研修を実施する (59.7)
3. 事故を誘発する路上駐輪や交通ルール、マナー違反など、厳しく取り締まる (58.8)
4. 違反者への罰則を強化する (42.0)
5. ヘルメットの着用や鍵かけなどの予防対策を充実する (31.7)
6. その他 () (4.7)

災害についておたずねします

問 16. あなたは、どのような災害に不安を感じていますか。

(ア～カのそれぞれについて、1～4の番号のうち1つに○)

項 目	n	非常に不安	かなり不安	やや不安	不安はない
ア. 地震による被害	4,557	49.6	28.7	19.4	2.3
イ. 風水害(台風・豪雨・竜巻)	4,418	27.5	28.5	35.7	8.2
ウ. 土砂災害	4,275	11.3	13.4	34.5	40.8
エ. 火災	4,442	25.1	26.4	42.2	6.3
オ. 落雷による被害	4,354	14.7	18.1	48.7	18.5
カ. その他()	1,402	6.1	5.5	12.9	75.5

問 17. あなたは、災害時の対策や備えとして、それぞれの事柄についてどの程度重要だと思いますか。(ア～クのそれぞれについて、1～4の番号のうち1つに○)

項 目	n	重要である	どちらかといえば重要である	どちらかといえば重要でない	重要でない
ア. 非常持ち出し袋や水・食料などの備蓄品の用意	4,542	66.9	29.3	3.0	0.8
イ. 消火器の用意や火災警報器の設置	4,480	56.9	38.2	4.0	0.9
ウ. 避難訓練や自主防災組織への参加	4,451	30.4	57.6	10.2	1.8
エ. 地域の人たちとの災害時の役割分担の話し合い	4,412	22.7	57.9	16.5	3.0
オ. 職場や家庭での連絡方法の確認	4,436	54.8	39.2	4.4	1.5
カ. 行政(市、消防、警察など)による応急活動	4,440	62.0	34.2	3.0	0.8
キ. 避難所や避難経路等の整備	4,442	61.6	34.4	3.3	0.7
ク. 災害弱者や要援護者の支援体制	4,440	61.2	34.9	3.0	0.9

問 18. あなたは、どのような災害への自己対策をしていますか。(当てはまるものすべてに○)

- n=4, 627
1. 非常持ち出し袋や水・食料などの備蓄品の用意 (65.8)
 2. 消火器の用意 (46.8)
 3. 火災警報器の設置 (60.6)
 4. 避難経路・避難場所の確認 (46.4)
 5. 家具などの転倒防止対策 (44.1)
 6. 避難訓練や自主防災組織への参加 (24.6)
 7. 家族との連絡方法の確認 (53.6)
 8. 地域の人たちとの災害時の役割分担の話し合い (8.0)
 9. 建物の耐震化・壁の補強など (17.2)
 10. ガラスの飛散防止 (10.9)
 11. その他 () (0.8)
 12. 特になにもしていない (8.4)

問 19. 水や食料などの非常用備蓄品の状況についておたずねします。(1つに○)

n=4, 589

1. 1日分の備蓄をしている (15.6)
2. 2日分の備蓄をしている (20.3)
3. 3日分の備蓄をしている (31.2)
4. 7日以上分の備蓄をしている (7.7)
5. 特になにもしていない (25.3)

あなたの基本的なことについておたずねします

問 20. 性別 (1つに○)

n=4, 640

1. 男性 (44.6) 2. 女性 (54.3) 3. 答えたくない (1.1)

問 21. 年齢 (令和元年8月1日現在で、1つに○)

n=4, 656

1. 15~19歳 (4.5) 2. 20~24歳 (3.6) 3. 25~29歳 (3.6) 4. 30~34歳 (3.8)
5. 35~39歳 (5.3) 6. 40~44歳 (6.3) 7. 45~49歳 (7.6) 8. 50~54歳 (8.8)
9. 55~59歳 (7.4) 10. 60~64歳 (8.7) 11. 65~69歳 (11.3) 12. 70~74歳 (12.1)
13. 75~79歳 (9.9) 14. 80歳以上 (6.9)

アンケートはこれで終了です。ご協力ありがとうございました。

安全・健康・コミュニティに関する調査 報告書

令和2年1月

発 行：厚木市協働安全部セーフコミュニティくらし安全課
〒243-8511 厚木市中町3丁目17番17号
電 話 (046)225-2865 (直通)

実 施：株式会社アイアールエス
〒160-0004 東京都新宿区四谷3丁目1番3号
電 話 (03)3357-7181